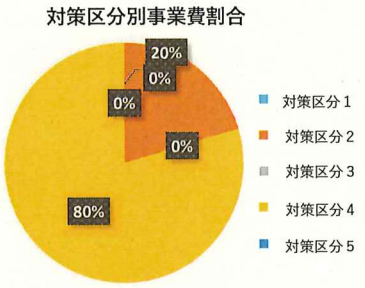
四日市市

令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業　市町別総合評価シート

１．基礎情報

市町名	四日市市	三重県
人口（人）	310,019	1,782,190
年少人口割合（%）＊1	12.4%	12.4%
森林面積(ha)	2,865.41	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	2,557.33	348,833.49
森林率(%)	14.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	10.1	10.1



＊１：全人口に占める15歳未満の人の割合
＊２：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）
＊３：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

２．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分１	対策区分２	対策区分３	対策区分４	対策区分５	基金積立
1	2	常磐中学校学校林整備事業（危険木除去）	1,109,900	1,109,900		1,109,900				
2	2	里山・竹林環境保全支援事業	892,000	892,000		892,000				
3	2	危険木等除去支援事業	420,400	420,400		420,400				
4	2	災害からライフラインを守る事前伐採事業	3,059,100	764,775		764,775				
5	4	認定こども園備品整備事業	6,988,300	6,988,300				6,988,300		
6	4	少年自然の家管理運営費	4,499,000	4,499,000				4,499,000		
7	4	市民活動センター運営事業	943,800	943,800				943,800		
8		みえ森と緑の県民税市町交付金基金積立事業	7,382,825	7,382,825						7,382,825
計			25,295,325	23,001,000	0	3,187,075	0	12,431,100	0	7,382,825

３．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量（ha・m）	事業費（円）	内交付金充当額（円）	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業		3,059,100	764,775	実施箇所：西坂部町　事業量：３９本

４．事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	市内には整備が行き届いていない森林が多く、それらの整備や保全活動を行う団体を支援することによって、森林の保全と生活の安全性の確保を図る。 こども園や市民活動センターなど、多くの市民が利用する施設に木製備品を導入することによって、施設利用者に森林や木材について学び、ふれあう場を提供し、森と市民との関係を深める。
事業実施により得られた効果	森林整備や危険木除去を行ったことにより、地域住民の生活の安全性が確保されたとともに、整備された場所は子供の遊び場としても利用され、子供が森林にふれあう場を作ることができた。 木製備品を導入したことにより、施設利用者に森林や木材について学び、ふれあう場を提供することができた。
情報発信への取組	みえ森と緑の県民税を活用した事業であることの周知を図るため、ホームページへの掲載と、導入した木製備品へのシール等の貼り付けを行った。

＊評価の参考として、別紙「森林環境譲与税事業の実績」を添付すること。

（参考資料）

令和２年度森林環境譲与税事業の実績

事業番号	事業カテゴリー	事業費	
		（円）	内、譲与税
1	⑬ 木造公共建築物の整備等	3,168,000	3,168,000
2	⑬ 木造公共建築物の整備等	5,435,100	5,435,100
3	③ 私有林整備	498,300	498,300
4	⑰ 基金積立（森林整備等）	19,028,600	19,028,600
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	28,130,000	28,130,000

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	四日市市

番号	事業名				
1	常磐中学校学校林整備事業（危険木除去）				
事業費	1,109,900 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,109,900		

1. 事業の目的

四日市市立常磐中学校の学校林において、危険木や生育しすぎた樹木の剪定及び伐採をおこなうことで、台風に起因する倒木や枝折れを未然に防ぎ、学校関係者の安全を確保する。また剪定・伐採箇所周辺の除草をおこない、学校関係者が立ち入りしやすい環境を整備する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

常磐中学校の学校林における樹木等の伐採作業等について、業者に委託する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

四日市市（委託契約先　株式会社名阪造園）

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

１箇所（四日市市立常磐中学校学校林）

【事業量】

危険木伐採（21本）支障枝剪定（3本）及び法面除草（150㎡）

【事業実施期間】

令和3年2月17日～令和3年3月12日

【受益者、参加者、利用者数等】

中学校関係者　700人

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

市内小中学校の学校林を有している６校のうち１校

【事業実施により得られた効果】

学校林内に生育する危険木を伐採したことで、生徒がより安全に活動することができるようになった。またクラブハウスに接触しそうな樹木の伐採を行ったことで、台風等による倒木や折れ枝を未然に防ぎ、建物の損傷を妨げると期待される。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

生徒が日常的に活動する区域の安全が確保されたことで、草木や樹木に対して身近に感じてもらう機会を増やしていきたい。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

危険な法面にある樹木の伐採や除草、また高木の剪定は日常の整備作業では困難であったため、好意的な反応があった。

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	四日市市

番号	事業名				
1	常磐中学校学校林整備事業（危険木除去）				
事業費	1,109,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,109,900		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
市による請負契約
【実施方法の選定理由】
市による請負契約
【契約方法と落札率または補助率等】
一般競争入札（落札率75.27%）
【契約相手方の選定理由】
一般競争入札
【事業費の積算根拠】
現地調査、設計書の作成

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
中学校関係者（約700人）
【公的関与の必要性】
市有施設であるため
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
・地元ボランティア団体やPTAなどによる奉仕活動、NPO団体及び市費による対応
・市立中学校であるため、転用等が想定されず、該当しない

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施中	中学校関係者
HP掲載	実施中・後	一般市民

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	2.　暮らしに身近な森林づくり

市町名	四日市市

事業名	常磐中学校学校林整備事業（危険木除去）

7. 写真

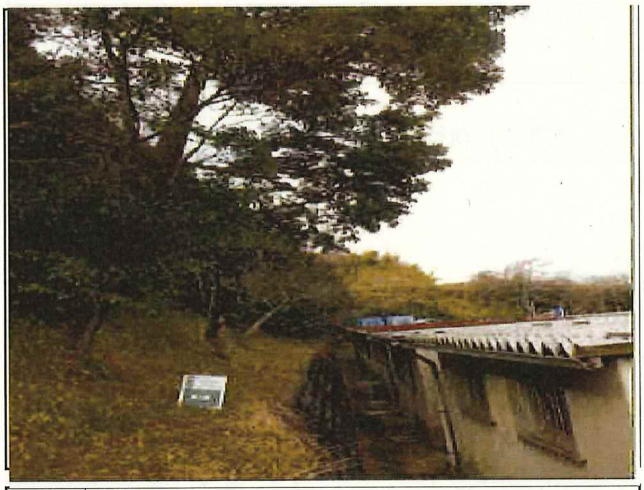


写真1
樹木伐採工（着工前）



写真2
樹木伐採工（着工後）



写真3
樹木剪定工（着工前）



写真4
樹木剪定工（着工後）



写真5
法面除草（着工前）



写真6
法面除草（着工後）

対策区分	2.　暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市

事業名	常磐中学校学校林整備事業（危険木除去）

7. 写真



写真７
施工看板



写真８
みえ森と緑の県民税　PR文言

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	四日市市

事業名	常磐中学校学校林整備事業（危険木除去）

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
工事費	式	1.00	以下参照	651,330	
諸経費	式	1.00		458,570	
事業費				1,109,900	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
樹木伐採工	樹木伐採工					
	60＜C＜90	本	20.00	21,334	426,680	
	計				426,680	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
樹木剪定工	樹木剪定工					
	150＜C＜179	本	1.00	68,139	68,139	
	210＜C＜239	本	1.00	138,177	138,177	
	高木剪定（60≦C＜120）	本	1.00	8,884	8,884	
	計				215,200	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
法面除草工	法面除草工	㎡	150.00	63	9,450	
	計				9,450	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2.　暮らしに身近な森林づくり

市町名	四日市市

番号	事　業　名				
2	里山・竹林環境保全支援事業				
事　業　費	892,000　円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			892,000		

1.　事業の目的

市内の里山保全活動団体等が地域住民の憩いの場としての利用や安全性の確保を目的として、自主的に里山や竹林を整備する取組みを支援して、持続的な活動に資することを目的とする。

2.　事業実績概要

【事業内容】

市内の地域団体が自主的に里山や竹林を整備する取組みに対して、事業費の一部を支援する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

自治会等の地域団体

【補助率等】

補助対象経費の3/4以内

【箇所数】

2箇所

【事業量】

＜四日市自然保護推進委員会＞事業費：523,499円　うち補助金：392,000円　活動面積：0.2ha

＜山一里地・里山クラブ＞事業費：692,671円　うち補助金：500,000円　活動面積3.29ha

【事業実施期間】

令和２年４月１日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

受益者：采女町約4,340人　山之一色町約580人

参加者：＜四日市自然保護推進委員会＞延べ70人　＜山一里地・里山クラブ＞延べ11名

3.　有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

荒廃した里山や竹林が存在する箇所。

【事業実施により得られた効果】

荒廃した里山や竹林が再生され、憩いの場や安全性が確保されるとともに、生物多様性の保存に資することができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

整備された場所は親子の遊び場として利用されている（采女町）。

HPに「みえ森と緑の県民税」の活用実績として掲載し、適切に里山や竹林が保全される意義を広く周知する。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

地元住民からは、通行時の見通しが良好となり地域の安全性が上がるだけではなく、獣害被害の防止にも資することとなり、また生物多様性の保全に貢献できたと好評である。

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	四日市市

番号	事業名				
2	里山・竹林環境保全支援事業				
事業費	892,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			892,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

補助

【実施方法の選定理由】

公募による実施

【契約方法と落札率または補助率等】

補助対象経費の3/4

【契約相手方の選定理由】

―

【事業費の積算根拠】

当該団体から市へ提出された実績報告書

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

地域住民延べ約4,920人の生活の安全性が確保された。

【公的関与の必要性】

荒廃した里山や竹林を再生させることで市民生活の安全性や生物多様性を確保することができる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

当該地の転用規制等は困難であるが、適正利用について確認済みである。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	今後	みえ森と緑の県民税を活用した事業であることの周知を図る。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	2.　暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市

事業名	里山・竹林環境保全支援事業

7. 写真　四日市自然保護推進委員会



写真1
整備前



写真2
整備中



写真3
整備後



写真4
間伐材を活用したベンチ



写真5
遊歩道



写真6
活用の様子：雅楽の演奏会

（評価委員会資料）

対策区分	2.　暮らしに身近な森林づくり

市町名	四日市市

事業名	里山・竹林環境保全支援事業

7. 写真　山一里地・里山クラブ



写真1
作業前



写真2
作業前



写真3
作業中



写真4
作業中



写真5
作業後



写真6
作業後

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	四日市市

事業名	里山・竹林環境保全支援事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
事業費補助（四日市自然保護推進委員会）	件	1.00	392,000	392,000	
事業費補助（山一里地・里山クラブ）	件	1.00	500,000	500,000	
事業費				892,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	四日市市

番号	事業名				
3	危険木等除去支援事業				
事業費	420,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			420,400		

1. 事業の目的

地域において緑豊かで安全な生活環境を保全するため、土地所有者等に代わって自治会等が実施する通学路沿いの危険木等の伐採作業に対して支援する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

自治会等が実施する危険木等の伐採作業に対して、事業費の一部を支援する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

自治会等の地域団体

【補助率等】

補助対象経費の3/4以内

【箇所数】

６箇所

【事業量】

＜城東町自治会＞事業費：39,600円　うち補助金：29,700円
＜智積町自治会＞事業費：220,000円　うち補助金：100,000円
＜桜町南自治会＞事業費：154,000円　うち補助金：100,000円
＜鹿間町自治会①＞事業費：88,000円　うち補助金：66,000円
＜鹿間町自治会②＞事業費：166,000円　うち補助金：100,000円
＜小古曽町自治会＞事業費：33,000円　うち補助金：24,700円

【事業実施期間】

令和２年４月１日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

受益者：城東町約850人　智積町約1,870人　桜町南約1,300人　鹿間町約710人　小古曽町約150人

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

危険木によって通行の支障またはおそれのある箇所。

【事業実施により得られた効果】

通行の支障またはおそれのある危険木を除去することで地域の安全性が確保された。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

HPに「みえ森と緑の県民税」の活用実績として掲載し、税の趣旨や必要性を広く周知する。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

地元住民からは、通行時の見通しが良好となり地域の安全性が確保されたと好評である。

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	四日市市

番号	事業名				
3	危険木等除去支援事業				
事業費	420,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			420,400		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

補助

【実施方法の選定理由】

公募による実施

【契約方法と落札率または補助率等】

補助対象経費の3/4

【契約相手方の選定理由】

―

【事業費の積算根拠】

当該団体から市へ提出された実績報告書

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

地域住民延べ約4,880人の生活の安全性が確保された。

【公的関与の必要性】

通行の支障またはおそれのある危険木を除去することで地域の安全性を確保することができる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

当該地の転用規制等は困難であるが、適正利用について確認済みである。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	今後	みえ森と緑の県民税を活用した事業であることの周知を図る。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	2.　暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市

事業名	危険木等除去支援事業

7. 写真



写真1
城東町　施行前



写真2
城東町　施行後



写真3
智積町　施行前



写真4
智積町　施行後



写真5
桜町南　施行前



写真6
桜町南　施行後

（評価委員会資料）

対策区分	2.　暮らしに身近な森林づくり

市町名	四日市市

事業名	危険木等除去支援事業

7. 写真



写真1
鹿間町①　施行前



写真2
鹿間町①　施行後



写真3
鹿間町②　施行前

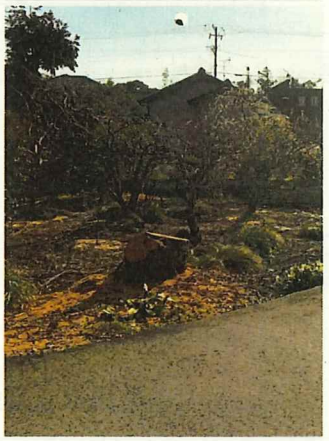


写真4
鹿間町②　施行後

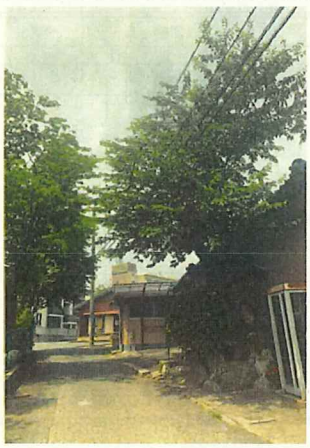


写真5
小古曽町　施行前



写真6
小古曽町　施行後

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	四日市市

事業名	危険木等除去支援事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
事業費補助（城東町自治会）	件	1.00	29,700	29,700	
事業費補助（智積町自治会）	件	1.00	100,000	100,000	
事業費補助（桜町南自治会）	件	1.00	100,000	100,000	
事業費補助（鹿間町自治会①）	件	1.00	66,000	66,000	
事業費補助（鹿間町自治会②）	件	1.00	100,000	100,000	
事業費補助（小古曽町自治会）	件	1.00	24,700	24,700	
事業費				420,400	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	四日市市

番号	事業名				
4	災害からライフラインを守る事前伐採事業				
事業費	3,059,100 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			764,775		2,294,325

1. 事業の目的

市内において、台風などの倒木被害により、電気などのライフラインが寸断される恐れのある樹木を事前に伐採し、ライフラインの維持及び住民の生命や財産を守ることを目的にする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

台風などの倒木被害により、電気などのライフラインが寸断される恐れのある樹木を事前に伐採する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

四日市市

【補助率等】

事業費の負担割合　ライフライン事業者：2分の1、県：4分の1、市：4分の1

【箇所数】

１箇所

【事業量】

39本

【事業実施期間】

令和３年２月２日～令３年３月19日

【受益者、参加者、利用者数等】

受益者：1,800世帯

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

台風などの倒木被害により、電気などのライフラインが寸断される恐れのある樹木が存在する箇所。

【事業実施により得られた効果】

ライフラインが寸断される恐れのある樹木を除去することで近隣住民の安全性が確保された。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

HPに「みえ森と緑の県民税」の活用実績として掲載し、税の趣旨や必要性を広く周知する。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

地元住民からは、安全性が確保されたと好評である。

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	四日市市

番号	事業名				
4	災害からライフラインを守る事前伐採事業				
事業費	3,059,100 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			764,775		2,294,325

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託

【実施方法の選定理由】

樹木伐採工事であるため。

【契約方法と落札率または補助率等】

一般競争入札　落札率：75.3%

【契約相手方の選定理由】

一般競争入札

【事業費の積算根拠】

現地調査、設計書の作成及び見積書の徴取

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

近隣約1,800世帯の安全性が確保された。

【公的関与の必要性】

ライフラインが寸断される恐れのある樹木を除去することで市民の安全性を確保することができる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

当該地の転用規制等は困難であるが、適正利用について確認済みである。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	今後	みえ森と緑の県民税を活用した事業であることの周知を図る。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	2.　暮らしに身近な森林づくり

市町名	四日市市

事業名	災害からライフラインを守る事前伐採事業

7. 写真

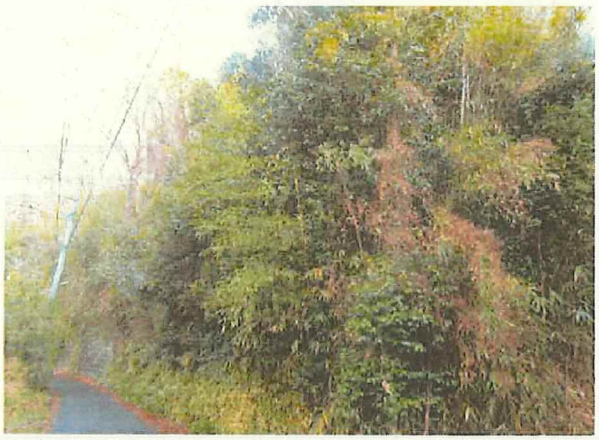


写真1
施行前



写真2
施行前



写真3
施行後

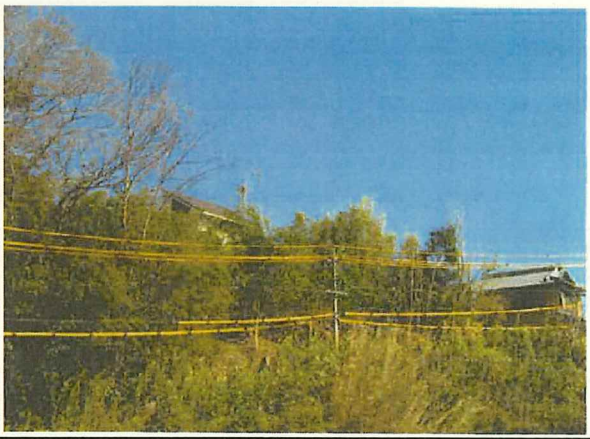


写真4
施行後

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	四日市市

事業名	災害からライフラインを守る事前伐採事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
樹木伐採	本	39.00	以下参照	1,362,762	
伐竹	㎡	154.00	以下参照	28,182	
運搬	㎥	14.40	以下参照	31,902	
処分	t	5.74	以下参照	84,480	
諸経費				1,551,774	
事業費				3,059,100	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
樹木伐採	幹周30cm未満	本	7.00	1,335	9,345	
	幹周30cm以上60cm未満	本	15.00	5,083	76,245	
	幹周60cm以上90cm未満	本	11.00	12,612	138,732	
	幹周120cm以上150cm未満	本	2.00	72,420	144,840	
	幹周150cm以上200cm未満	本	3.00	213,900	641,700	
	幹周250cm以上300cm未満	本	1.00	351,900	351,900	
	計				1,362,762	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
伐竹	伐竹	㎡	154.00	183	28,182	
	計				28,182	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
運搬	伐採木運搬	㎥	11.80	1,771	20,897	
	竹運搬	㎥	2.60	4,233	11,005	
	計				31,902	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
処分	伐採木処分	t	4.71	14,000	65,940	
	竹処分	t	1.03	18,000	18,540	
	計				84,480	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4.　森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	四日市市

番号	事　業　名				
5	認定こども園備品整備事業				
事　業　費	6,988,300 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,988,300		

1. 事業の目的

楠こども園に木製の机及び椅子を導入し、木材と市民の関係を深める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

楠こども園に三重県産材を活用した机及び椅子を導入する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

四日市市

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない

【箇所数】

1箇所

【事業量】

机71台、椅子267脚

【事業実施期間】

令和２年11月30日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

認定こども園１園　令和３年４月１日から定員280名の認定こども園にて使用

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

県産材の机、椅子を導入することにより、園児たちが木材とふれあい、森と市民との関係を深めることが期待できるため。

【事業実施により得られた効果】

園児たちが、県産材で木質化された机・椅子にふれることで、木材とのふれあいが進む。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

森林の役割及び木材利用の意義を周知するため園だよりに記載したり、施設の教職員が多くの保護者が集まるイベント開催時に啓発活動等を行うなど、森と人をつなぐ学びの場として活用する。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

保護者や職員より、保育室内の机椅子が木質化したことにより、日常生活のなかで木製製品を使うようになり、肌触りが良いことや予想より軽くて使いやすいなど木製製品へのイメージが変わったという感想があった。

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	四日市市

番号	事業名				
5	認定こども園備品整備事業				
事業費	6,988,300 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,988,300		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

入札により決定した請負業者が納品

【実施方法の選定理由】

市の物品購入の規則による

【契約方法と落札率または補助率等】

物品売買契約。落札率76%

【契約相手方の選定理由】

指名競争入札

【事業費の積算根拠】

取扱業者の参考見積もりによる

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

園児全員が使用する机椅子を木材で整備することができる。

【公的関与の必要性】

市立こども園の整備

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

園での管理を行う

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示（ｼｰﾙ・ﾌﾟﾚｰﾄ等）	実施後	各机・椅子にロゴマークを貼付
学校だより等掲載	今後	園だよりに県民税活用した旨を掲載する

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	4.　森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	四日市市

事業名	認定こども園備品整備事業

7. 写真



写真1
園児机



写真2
園児椅子



写真3
ロゴマーク　机



写真4
ロゴマーク　椅子



写真5
園児使用の様子



写真6
園児使用の様子

（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	四日市市

事業名	認定こども園備品整備事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
机	個	71.00	52,800	3,748,800	
椅子（０～３歳児用）	脚	134.00	11,000	1,474,000	
椅子（４～５歳児用）	脚	130.00	13,200	1,716,000	
椅子（箱型椅子）	脚	3.00	16,500	49,500	
事業費				6,988,300	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	四日市市

番号	事業名				
6	少年自然の家管理運営事業				
事業費	4,499,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,499,000		

1. 事業の目的

四日市市少年自然の家において、三重県産材を活用したテーブルやベンチ等の備品を導入することにより、施設の利用者に対し、森林や木材にふれあい、学ぶ機会を提供し、森と県民の関係を深めることを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

四日市市少年自然の家において、三重県産材を活用したテーブルやベンチ等の備品を導入する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

四日市市

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

１箇所（四日市市少年自然の家）

【事業量】

屋外用テーブル28台、屋外用ベンチ30脚、椅子10脚、工作机12台

【事業実施期間】

令和２年７月14日～令和３年２月１日

【受益者、参加者、利用者数等】

利用者：市内外の小中学校の自然教室、施設運営団体の主催事業参加者等　約15,000人

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

里山保全活動等を実施する場に設置することで、利用者が森林や木材とふれあい、森と県民の関係を深めることができるため。

【事業実施により得られた効果】

利用者が自然の中で木のぬくもりを感じながら利用することができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

四日市市少年自然の家での里山保全活動等の森林環境教育を通じて森林等が保全されることの意義を広く周知する。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

「自然の中で木のぬくもりが感じられる机とベンチが利用できる。」といった声があり、好評である。

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	四日市市

番号	事業名				
6	少年自然の家管理運営事業				
事業費	4,499,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,499,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

市による備品購入費

【実施方法の選定理由】

市有施設の備品であるため。

【契約方法と落札率または補助率等】

指名競争入札（落札率78.3%）

【契約相手方の選定理由】

指名競争入札

【事業費の積算根拠】

見積書の取得

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

市内外の小中学校の自然教室、施設運営団体の主催事業参加者等が利用できる。

【公的関与の必要性】

市が管理運営を委託している施設である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市の備品であり、施設運営団体が管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・中・後	みえ森と緑の県民税を活用して購入した備品について紹介した。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	４．森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市

事業名	少年自然の家管理運営事業

7．写真



写真1
屋外用テーブル、ベンチ



写真2
椅子

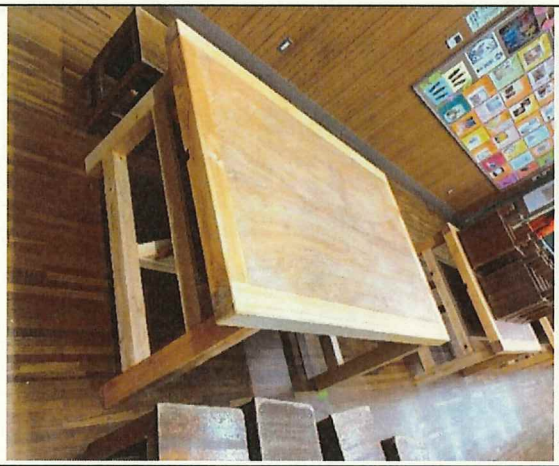


写真3
工作机

（評価委員会資料）

対策区分	４．森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市

事業名	少年自然の家管理運営事業

7．写真



写真４
屋外用テーブル、ベンチ



写真５
屋外用テーブル、ベンチ



写真６
屋外用テーブル、ベンチ



写真７
椅子



写真８
工作机



写真９
工作机

（評価委員会資料）

対策区分	４．森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市

事業名	少年自然の家管理運営事業

7．写真

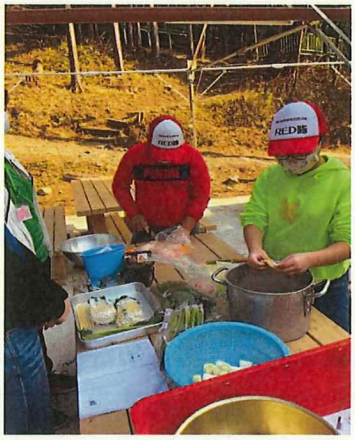


写真10
活用の様子



写真11
活用の様子



写真12
活用の様子



写真13
活用の様子

（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	四日市市

事業名	少年自然の家管理運営事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
屋外用テーブル	台	28.00	75,900	2,125,200	
屋外用ベンチ	脚	30.00	33,000	990,000	
椅子	脚	10.00	42,900	429,000	
工作机	台	12.00	61,600	739,200	
雑費	式	1.00	215,600	215,600	
事業費				4,499,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	四日市市

番号	事業名				
7	市民活動センター運営事業				
事業費	943,800 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			943,800		

1. 事業の目的

市民活動の拠点である市民活動センター「なやプラザ」において、施設の利用促進を目的として、来館者にとってさらに魅力のある空間とするために三重県産材を活用した木質床パネルを導入することで、施設利用者に対し、森林や木材について学び、ふれあう機会を提供し、森林に対する県民の意識向上に繋げる。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市民活動センター「なやプラザ」内の、令和元年度に三重県産材を用いた机や椅子を導入したフリースペースについて、床部分に三重県産材木質パネルを設置する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

四日市市

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない

【箇所数】

１箇所

【事業量】

２階フリースペース床面への木質パネル設置　約30㎡

【事業実施期間】

令和２年11月27日～令和３年３月12日

【受益者、参加者、利用者数等】

令和２年度施設利用者数（見込み）　約25,000人

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

当該施設は四日市市内で唯一の市民活動センターであり、環境保全をはじめとした様々な分野の市民活動に携わる市民が訪れる施設である。こうした施設の利用者層に鑑み、三重県産材を使用した森と人をつなぐ学びの場づくりを進めることによる、森林の重要性の意識付けの効果が高いと考えられることから、実施箇所として選定したもの。

【事業実施により得られた効果】

令和元年度に引き続き、館内フリースペースの木質化を進め、施設利用者であれば誰もが三重県産材を用いた木製設備に触れる機会を広く提供できる環境を整備できた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

事業実施箇所とした館内フリースペースについて、令和３年度に三重県産材を用いた壁面ルーバーを導入し、空間全体のさらなる木質化を進め、施設のアピールポイントとする。また、施設利用者に対し、当該スペースの利用を呼びかける中で、三重県産材を用いた木製備品が整備されている旨も積極的に周知し、森林の役割及び木材利用の意義について考えるきっかけとなるよう取り組んでいく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、事業実施箇所である館内フリースペースの利用を制限していたため、今後、新型コロナウイルス感染症の感染状況等を勘案し制限を解除した段階で、利用者の反応を確認する。

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	四日市市

番号	事業名				
7	市民活動センター運営事業				
事業費	943,800 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			943,800		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

工事請負契約

【実施方法の選定理由】

事業内容が工事を伴う木製設備の据え付けであるため。

【契約方法と落札率または補助率等】

２者見積合わせによる随意契約　落札率：97.5%

【契約相手方の選定理由】

見積合わせにより選定

見積依頼先：株式会社誠文社、松阪飯南森林組合

見積依頼先選定理由：本市の過去の交付金事業において入札のあった事業者など、県産材を活用した事業について対応可能な事業者を選定

【事業費の積算根拠】

見積金額：フローリング材 単価24,750円×30㎡　見切り材 単価5,500円×４ｍ　既設Ｐタイル撤去等 179,300円

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

当該事業において木製設備を導入したスペースは、施設内のフリースペースであり、施設利用者であれば誰もが利用可能となっている。

【公的関与の必要性】

四日市市が管理する公的施設の施設整備の一環として実施する事業であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

当該施設は指定管理による運営となっているため、当該事業において導入した木製設備は、指定管理者により長期にわたり利用できるよう適正に管理を行う。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示	実施後	交付金事業による導入品であることを示すシールを導入設備に貼付する
啓発物品配布	実施後	施設利用者に対し、みえ森と緑の県民税についての啓発物品を配布する
パネル展示	今後	交付金事業について紹介するパネルを実施箇所に設置する

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	四日市市

事業名	市民活動センター運営事業

7. 写真



写真1
実施前

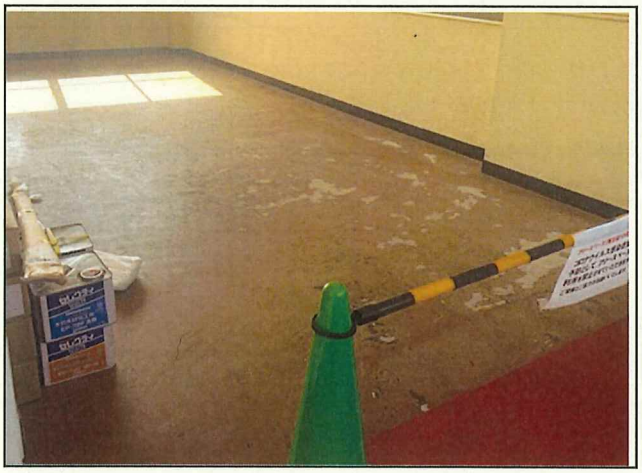


写真2
実施中



写真3
実施後①



写真4
実施後②



写真5
紹介パネル

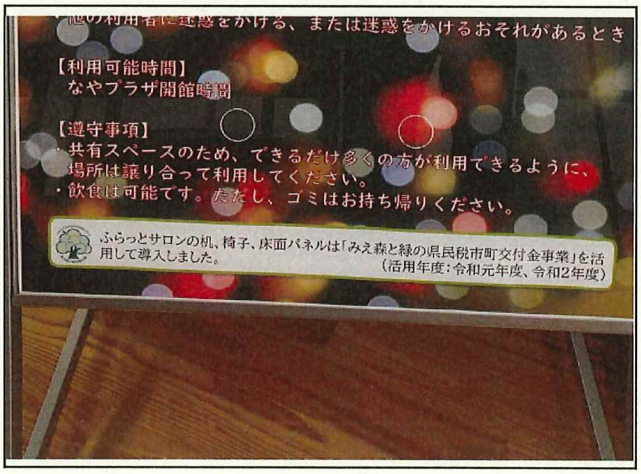


写真6
紹介パネル（拡大）

（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	四日市市

事業名	市民活動センター運営事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
フローリング　三重県産杉材圧縮材	㎡	30.00	24,750	742,500	
床見切り材　三重県産杉材圧縮材	m	4.00	5,500	22,000	
既設Pタイル撤去・処分費	一式		179,300	179,300	
事業費			合計	943,800	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

桑名市

第１６号様式（評価委員会資料）

令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業　市町別総合評価シート

１．基礎情報　（「三重県市町要覧（令和２年度版）」「令和元年度森林・林業統計書」より）

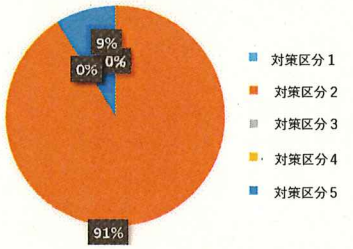
市町名	桑名市	三重県
人口（人）	138,976	1,771,855
年少人口割合（%）＊1	13.1%	12.2%
森林面積(ha)	3,022.60	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	2,933.93	348,833.49
森林率(%)	22.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	9.2	10.2

＊１：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊２：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊３：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



２．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分１	対策区分２	対策区分３	対策区分４	対策区分５	基金積立
1	2	里山再生・竹林整備推進事業	4,906,000	4,500,000		4,500,000				
2	5	播磨２号緑地里山整備事業	430,000	430,000					430,000	
3		みえ森と緑の県民税市町交付金積立事業	8,703,000	8,703,000						8,703,000
計			14,039,000	13,633,000	0	4,500,000	0	0	430,000	8,703,000

３．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量（ha・m）	事業費（円）	内交付金充当額（円）	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

４．事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	地域の森林環境整備を行い、それら事業の原資となる県民税のPRを通じて、みえ森と緑の県民税がどのように県民のくらしに役立てられているかを周知し、県民の理解が深まるよう事業を展開した。また、「桑名竹取物語事業化推進協議会」と連携により竹林整備で発生した竹材を有効活用し、経済的循環の創出に貢献するための取り組みを行った。
事業実施により得られた効果	里山や竹林の整備に関わり、また整備された里山や竹林に触れることにより得られる癒しの効果を通して、人々の暮らしと森林環境との関わりに対する理解が深まった。
情報発信への取組	現場での看板設置やポスター・のぼり旗の掲示、チラシの配布などを行うとともに、事業委託先団体のホームページやSNSにおける活動紹介や、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止したものの、里山でのホタルの放流会や飛翔観察会の開催を通じて、県民税を活用した事業であること、県産材を活用していることを重点的にPRし情報共有を推進した。

＊評価の参考として、別紙「森林環境譲与税事業の実績」を添付すること。

（参考資料）

令和2年度森林環境譲与税事業の実績

事業番号	事業カテゴリー	事業費	
		(円)	内、譲与税
1	⑰ 基金積立（森林整備等）	14,542,000	14,542,000
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	14,542,000	14,542,000

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	桑名市

番号	事　業　名				
1	里山再生・竹林整備推進事業				
事　業　費	4,906,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,500,000		406,000

1. 事業の目的

竹林整備を進めることで、里山の再生による自然環境及び生活環境の向上を目的とする。また、防災・減災、獣害対策につなげるとともに、住民参画を促し、安全安心な森づくりの理解と森林環境教育の浸透を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

枯竹・倒木等の除去、雑草等の除去、竹の間伐、チップ化した竹散布による現場の整備。
竹材活用のための伐採した竹の分割、搬出。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

桑名市

【補助率等】

補助事業でなく、該当しない。

【箇所数】

６ヶ所（播磨、蛎塚新田、西方、下深谷部、志知、多度町力尾）

【事業量】

1.5ha

【事業実施期間】

令和２年４月から令和３年３月まで

【受益者、参加者、利用者数等】

地域住民、筍農家、児童等、延べ約200人

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

実施箇所の隣接地は住宅や生産基盤に関わる場所であり、整備する必要があるため。

【事業実施により得られた効果】

・竹林整備により周辺住民の生活環境が改善された。
・地域住民や生徒が竹林整備等を体験することで、森林環境意識の醸成につながった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

整備した竹林は所有者や地域住民により管理をするとともに、伐採した竹材は協力企業等により活用される。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

周辺住民からは感謝の声が多く、所有者も今後の管理について前向きである。

令和２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	桑名市

番号	事　業　名				
1	里山再生・竹林整備推進事業				
事　業　費	4,906,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,500,000		406,000

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

市内NPO法人への業務委託を実施。

【実施方法の選定理由】

地元で活動するNPO法人へ委託することで地域住民との連携を円滑にし、また、法人自体の会員増強にも繋がるため。

【契約方法と落札率または補助率等】

一者随意契約　落札率99.98%

【契約相手方の選定理由】

市と協定を締結しており、市内唯一の竹林整備専門のNPO法人であるため。

【事業費の積算根拠】

竹林整備は本市の竹整備の単価契約をもとに算出（1本300円、10aあたり1,700本と見込み51万円/10a）、最終的には協議により30万円/10aとした。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

NPO法人と連携し、目的に沿った整備箇所を選定した、広く一般の利益に寄与する事業である。

【公的関与の必要性】

所有者の高齢化に伴う管理不全地について、公益関与の必要性は高いと考える。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

業務委託先との連携により、所有者へは今後の管理を継続的に実施し、転用、目的外使用がないよう依頼している。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
チラシ等配布	実施前	地域住民に配布
ポスター掲示	実施前・中・後	市役所内にポスター掲示
施工看板に掲示	実施中	実施中整備箇所に掲示

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	桑名市

事業名	里山再生・竹林整備推進事業

7. 写真　桑名市大字播磨地内



写真1
作業前

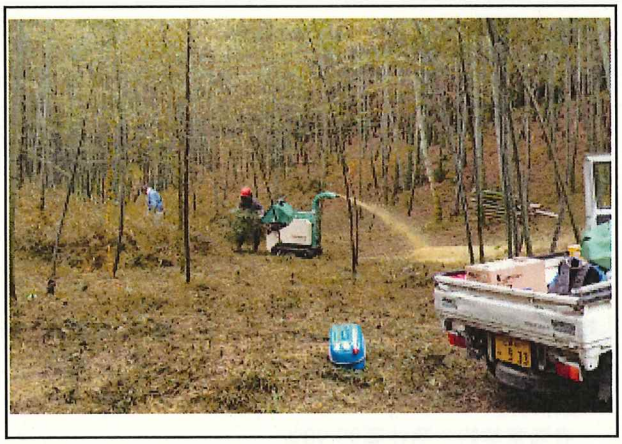


写真2
作業中



写真3
作業中

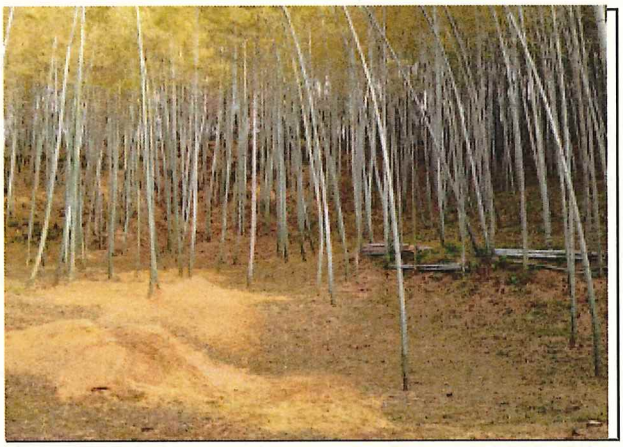


写真4
作業後

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	桑名市

事業名	里山再生・竹林整備推進事業

7. 写真　桑名市大字蛎塚新田地内



写真５
作業前

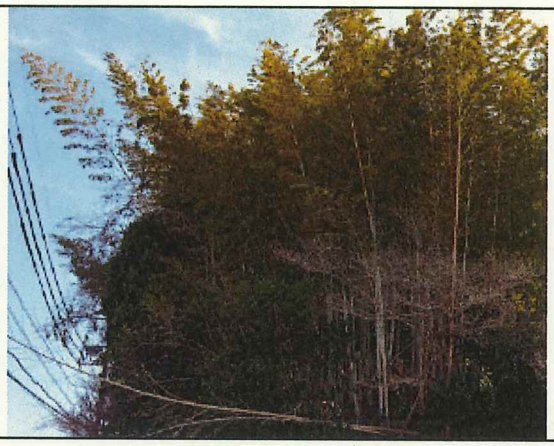


写真６
作業前



写真７
作業中



写真８
作業中



写真９
作業後



写真10
作業後

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	桑名市

事業名	里山再生・竹林整備推進事業

7. 写真　桑名市大字西方地内



写真11
作業前

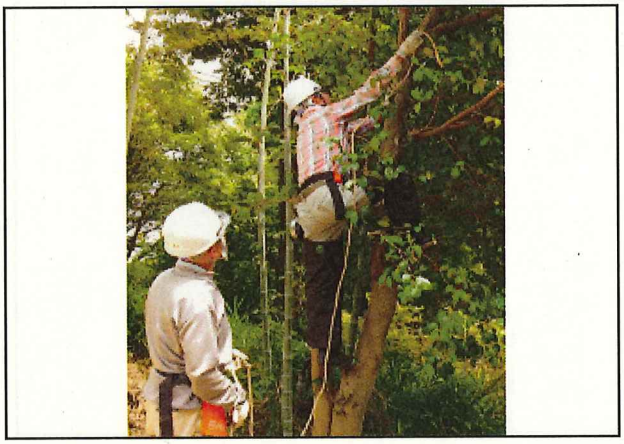


写真12
作業中



写真13
作業中



写真14
作業中



写真15
作業後

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	桑名市

事業名	里山再生・竹林整備推進事業

7. 写真　桑名市多度町力尾地内



写真16
作業前



写真17
作業前



写真18
作業中



写真19
作業中



写真20
作業後

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	桑名市

事業名	里山再生・竹林整備推進事業

7. 写真　桑名市大字下深谷部地内



写真21
作業前



写真22
作業中



写真23
作業中



写真24
作業後

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	桑名市

事業名	里山再生・竹林整備推進事業

7. 写真　桑名市大字志知地内



写真25
作業前



写真26
作業前



写真27
作業中



写真28
作業中



写真29
作業中

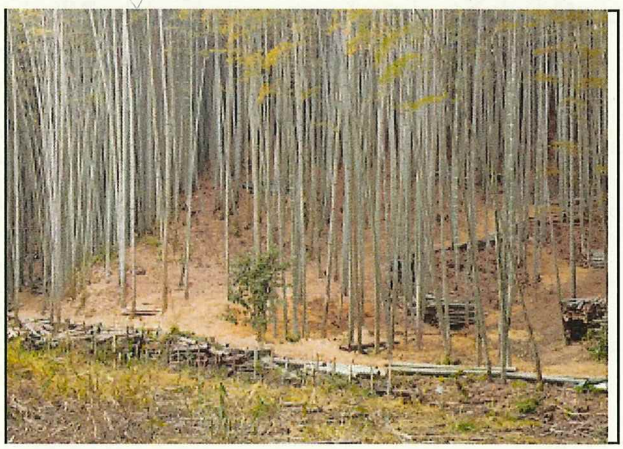


写真30
作業後

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	桑名市

事業名	里山再生・竹林整備推進事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
竹林整備業務委託	件	1.00	4,499,000	4,499,000	
竹材搬出業務委託	件	1.00	407,000	407,000	
事業費				4,906,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
竹林整備業務委託	竹林整備業務	件	1.00	4,499,000	4,499,000	
	計				4,499,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
竹材搬出業務委託	竹材搬出業務	件	1.00	407,000	407,000	
	計				407,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	桑名市

番号	事　業　名				
2	播磨２号緑地里山整備事業				
事　業　費	430,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			430,000		

1. 事業の目的

荒廃した里山に山道などを整備し、緑の自然と身近にふれあう場を提供し、自然学習の場、地域活性の場、健康づくりの場として利活用する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

枯木・危険木の除去、樹木の間引き、樹木剪定、剪定枝等をチップ化した木チップを利用した散策路の整備

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

桑名市

【補助率等】

補助事業でなく該当しない。

【箇所数】

１箇所(播磨２号緑地内)

【事業量】

0.46ha

【事業実施期間】

令和２年４月から令和３年３月まで

【受益者、参加者、利用者数等】

幼児、小学生等の緑地利用者　延べ800人

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

播磨２号緑地は住宅街に隣接し、受益者も多いが、里山としては荒廃しており、整備を行うことが望まれていたため。

【事業実施により得られた効果】

・危険な樹木を撤去し、公園利用者の安全確保や近隣住民の生活環境の保護
・地元の非営利団体に委託することにより、多くの地域住民が当該里山整備に参画することができたことにより、地域の里山を守り育てる意識の醸成が図れた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

・市内の小学校やボランティア団体による森林環境教育等に関する利用
・里山散策路の開放
・沢にホタルを放流、放流会や飛翔観察会を開催し住民や児童に環境保全の重要性をＰＲする
（今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催できず）

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

・込み入った雑木や枯れ木の撤去等により風通しがよくなり、獣等の侵入も少なくなったとの声をいただいた。
・ホタルの放流会や飛翔観察会には例年多くの住民や児童にご参加いただいている。
（今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催できず）

令和２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	桑名市

番号	事　業　名				
2	播磨２号緑地里山整備事業				
事　業　費	430,000　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			430,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

業務委託

【実施方法の選定理由】

市と播磨2号緑地の利活用に関する協定を締結している非営利団体を選定

【契約方法と落札率または補助率等】

一者随意契約　落札率100%

【契約相手方の選定理由】

非営利団体であり、市と播磨2号緑地の利活用に関する協定を締結している。

【事業費の積算根拠】

見積書による。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

市が管理する緑地であり、公益性がある。

【公的関与の必要性】

市が管理する緑地であり、公的事業である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市が管理する緑地であり、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・中・後	業務委託先団体のHP等で活動状況を発信している
のぼり設置	実施前・中・後	播磨２号緑地建屋に設置
施工看板に掲示	実施前・中・後	播磨２号緑地建屋、ゲート前に設置

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	桑名市

事業名	播磨２号緑地里山整備事業

7. 写真



写真1
実施前



写真2
実施後



写真3
実施前



写真4
実施後



写真5
実施中掲示看板及び説明（小屋）



写真6
実施中のぼり設置（小屋）

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	桑名市

事業名	播磨２号緑地里山整備事業



活動団体のホームページによるPR状況

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	桑名市

事業名	播磨２号緑地里山整備事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
播磨２号緑地里山整備業務委託	件	1.00	430,000	430,000	
事業費					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
里山整備	雑木整理,散策路、水路整備	件	1.00	430,000	430,000	
	計				430,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

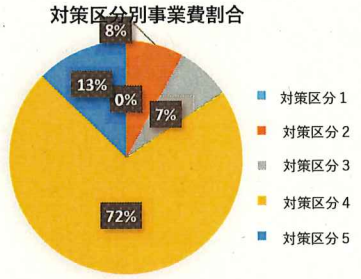
鈴鹿市

第１６号様式（評価委員会資料）

令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業　市町別総合評価シート

１．基礎情報「三重県市町要覧（令和２年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

市町名	市町名	三重県
人口（人）	195,328	1,771,855
年少人口割合（%）＊１	12.6%	12.2%
森林面積(ha)	3,584.17	372,352.55
民有林面積(ha)＊２	3,408.37	348,833.49
森林率(%)	18.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊３	9.8	10.1



＊１：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊２：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊３：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

２．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分１	対策区分２	対策区分３	対策区分４	対策区分５	基金積立
1	2	暮らしを守る森林保全事業	1,250,700	1,250,700	0	1,250,700	0	0	0	0
2	3	森林環境教育支援事業	253,000	253,000	0	0	253,000	0	0	0
3	3	森と緑の生涯学習講座	939,200	939,200	0	0	939,200	0	0	0
4	4	図書館木製備品購入及び森林環境啓発事業	4,176,522	4,176,522	0	0	0	4,176,522	0	0
5	4	公立保育所及び公立幼稚園木製備品設置事業	7,128,000	7,009,578	0	0	0	7,009,578	0	0
6	5	ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業	720,000	720,000	0	0	0	0	720,000	0
7	5	緑と人を育む　長太の大楠再生プロジェクト	1,254,000	1,254,000	0	0	0	0	1,254,000	0
9		みえ森と緑の県民税市町交付金基金積立事業	1,310,000	1,310,000	0	0	0	0	0	1,310,000
計			17,031,422	16,913,000	0	1,250,700	1,192,200	11,186,100	1,974,000	1,310,000

３．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量（ha・m）	事業費（円）	内交付金充当額（円）	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

４．事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	みえ森と緑の県民税の使途については，本税の徴収方法を鑑みて，多くの市民の方ができる限り直接的にその恩恵を享受できる事業を重視し実施することとしたため，森林環境教育に関する事業や木育の機会を得るための施設整備事業を優先して実施した。 また，本市に広がった松くい虫被害の拡大防止に向けた取組についても，長期的・継続的な取組が必須であることから，市単独で実施するだけではなく，周辺住民や関係団体と協力し，実施することで継続的な取組となるよう工夫した。
事業実施により得られた効果	身近な森林資源である，地区保全区域内の鼓ヶ浦海岸周辺の松くい虫被害の拡大防止に取組み，市内の「災害に強い森林づくり」に寄与することができた。 新型コロナウイルス感染症の拡大によりイベントは中止となったが，県産材を活用した備品整備によって，未就学児や児童・生徒を始めとする様々な市民の方が，森林や木材について学び，ふれあい，関係を深めることができた。 また，木育活動も充実させ，「県民全体で森林を支える社会づくり」に寄与することができた。
情報発信への取組	事業の実施前においては，市広報やHP，SNS等を活用し，みえ森と緑の県民税の活用について周知を図った。また，本事業に関する竣工式やイベント等の主催者挨拶では，みえ森と緑の県民税活用事業であることを周知し，可能な限り市政記者クラブへの情報提供も行った。 事業実施の際は，県民税リーフレットの配布や県民税旗を掲出するなど，周知に努めた。 また，県民税の県内での活用事例紹介や森林のもつ多様性についての紹介展示を農林水産課窓口にて実施し，来庁者への情報発信を行った。

＊評価の参考として、別紙「森林環境譲与税事業の実績」を添付すること。

（参考資料）

令和２年度森林環境譲与税事業の実績

事業番号	事業カテゴリー	事業費	
		（円）	内、譲与税
1	① 意向調査の準備作業	1,034,000	1,034,000
2	⑧ 担い手確保	623,360	639,440
3	② 意向調査	972,000	972,840
4	① 意向調査の準備作業	17,079,640	17,063,720
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	19,709,000	19,710,000

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	鈴鹿市

番号	事　業　名				
1	暮らしを守る森林保全事業				
事　業　費	1,250,700　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,250,700	0	0

1. 事業の目的

本市東部には伊勢湾に面する長い海岸があり，そこに植生する松林が防潮・防風・飛砂防止・津波軽減などの働きにより周辺住民の暮らしを守っている。しかし，病害虫被害で枯松化が拡大し，台風時の倒木や枝の飛散等での住居や人身への被害が懸念されている。このような状況を改善するため，人家周辺における病害虫被害木を積極的に伐採・駆除することで海岸林の維持保全を行い，通行の安全や住民の暮らしの安全を確保する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

海岸林や人家周辺の病害虫被害木の伐倒・駆除を行った。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

鈴鹿市

【補助率等】

補助事業ではなく，該当しない

【箇所数】

1箇所（東磯山緑地（市有地））

【事業量】

特別伐採駆除：29本，樹幹注入：13本

【事業実施期間】

令和2年4月～令和3年3月

【受益者、参加者、利用者数等】

東磯山緑地付近の住民（約500世帯，約1,000人）

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

東磯山緑地は海岸堤防西側に隣接する全長570ｍ（面積：11,629㎡）の緑地帯であり，そこに植生する松林が防潮・防風・飛砂防止・津波軽減などの働きにより周辺住民の暮らしを守っている。しかし，病害虫被害で枯松化が進み，周辺住民からも伐採・駆除の要望を受けていたため。

【事業実施により得られた効果】

人家周辺における病害虫被害木の伐採・駆除，さらに樹幹注入を実施することで，台風時の倒木や枝の飛散等での住居や人身への被害防止や病害虫被害の拡大阻止につなげ，通行の安全や住民の暮らしの安全を確保することができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

定期的に被害状況を確認し，必要に応じて特別伐倒駆除を行っていく。また，効果的に病害虫による被害を軽減することができるため，計画的に樹幹注入を行っていく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

周辺住民から感謝されるとともに，今後も継続して適正な維持管理をしていくよう依頼を受けた。

令和２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	鈴鹿市

番号	事　業　名				
1	暮らしを守る森林保全事業				
事　業　費	1,250,700 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,250,700	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託

【実施方法の選定理由】

専門技能及び薬剤への知識が必要なため。

【契約方法と落札率または補助率等】

随意契約（２者見積）

【契約相手方の選定理由】

見積り合わせの結果，安価な業者に決定した。

【事業費の積算根拠】

見積書による。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

事業地周辺は，松くい虫による病害虫被害により，台風時に倒木や枝の飛散等での住居や人身への被害が懸念されることから，本事業によって周辺住民に対し安心・安全な住環境を寄与できる。

【公的関与の必要性】

事業地は市有地であることから，公的関与が必須である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市管理地のため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	市HPトピックスに実績を掲載

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鈴鹿市

事業名	暮らしを守る森林保全事業

7. 写真



写真1
伐倒前



写真2
伐倒後

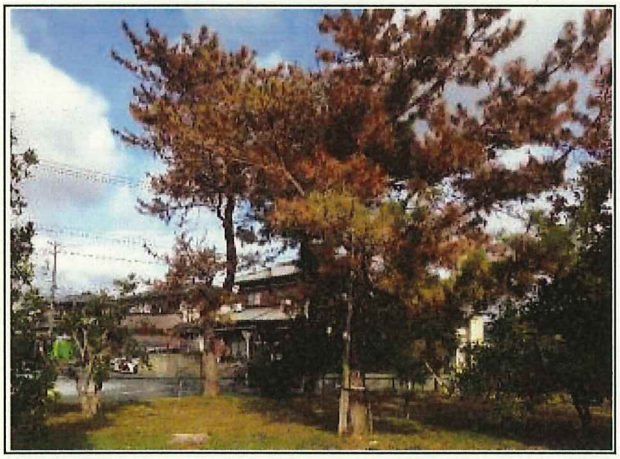


写真3
伐倒前



写真4
伐倒後

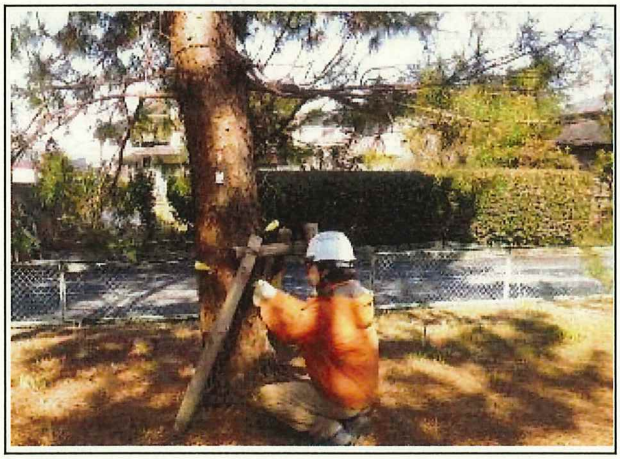


写真5
樹幹注入

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	鈴鹿市

事業名	暮らしを守る森林保全事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
枯松特別伐倒駆除	本	29.00		951,500	
枯松防止樹幹注入	本	13.00		299,200	
事業費				1,250,700	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	鈴鹿市

番号	事　業　名				
2	森林環境教育支援事業				
事　業　費	253,000　円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			253,000		

1. 事業の目的

自然環境の保全，森林環境教育，緑化活動等を実施する住民団体に対し，その活動に要する経費の一部を補助することにより，住民による自発的な森林づくり活動を支援する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

次の2事業について，鈴鹿市補助金等交付規則及び鈴鹿市緑の未来づくり事業補助金交付要領に基づき補助金を交付した。

①　森を育む人づくり事業（庄内生産森林組合長等を講師として招き，樹木に対しての知識，特に病害虫被害等により倒木の恐れがある樹木の安全な伐採や間伐方法を実演を交えて学んだ。）

②　緑の環境づくり事業（地域の団体及び園児・児童が自ら植樹・植栽等をすることで，身近な緑にふれあい，森や緑の大切さについて学んだ。）

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

住民団体

【補助率等】

４分の３（1事業につき上限10万円）

【箇所数】

①１箇所：庄内地区

②５箇所：庄内地区，玉垣小学校，玉垣幼稚園，くすのき園，市立図書館

【事業量】

①人材育成研修：令和２年８月23日に講義・実演

②植樹等：令和２年７月から12月までにかけて２団体が実施

庄内地区：桜６本，梅２本（苗木は県産材）

玉垣小学校，玉垣幼稚園，くすのき園，市立図書館：花苗254本（県産苗）

【事業実施期間】

令和２年７月～12月

【受益者、参加者、利用者数等】

①16人、②242人

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

①　対象者が山林所有後継者であり，森林保全意識向上を目的としており，人材育成につながると判断したため。

②　公共施設周辺に植樹・植栽を行うことで良好な景観を形成でき，緑とのふれあいを通して，地域住民の緑に対する意識向上につながると判断したため。

【事業実施により得られた効果】

①　樹木に対しての知識，特に病害虫被害等により倒木の恐れがある樹木の安全な伐採や間伐方法を実演を交えて学ぶことで，森林保全に対しての意識が向上し，人材育成につながった。

②　子どもや高齢者が緑化活動を行うことで，緑に対する意識の向上につながった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

施設整備等ではなく，該当しない。

令和２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	鈴鹿市

番号	事　業　名				
2	森林環境教育支援事業				
事　業　費	253,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			253,000		

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

① 参加者からは病害虫被害木を実際に見て，伐採の手順や注意すべき専門的な知識を学ぶことができたと好評であった。また，1回限りではなくこのような機会の継続を望む声もあった。

② みんなで花壇に植栽することで，みんなで作ったという達成感があった，地域の団体との関わりを持つことで事業に参加する意欲・姿勢が積極的になったといった意見があった。

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

補助

【実施方法の選定理由】

森林環境の保全と共生する文化の創造に寄与する活動を実施する団体に対し，その活動に要する経費の一部について補助金を交付することにより，森林環境の保全等の発展に資することを目的とする。

【契約方法と落札率または補助率等】

補助率：４分の３（１事業につき上限10万円）、　補助対象経費：原材料費，機械・工具使用料等

【契約相手方の選定理由】

事前に提出される「事業実施計画書」及び「収支計画書」による。

【事業費の積算根拠】

見積書による。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

① 本市は，森林面積が3,584haあり，山林所有後継者の人材育成をすることが，森林保全に直結する。

② 事業実施地が公園，幼稚園，小学校，福祉施設，図書館と幅広い世代の方が利用する場所であり，公益性は高い。

【公的関与の必要性】

いずれも公共性の高い事業で，公的関与（補助）を行う必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく，転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前	緑の未来づくり事業補助金について掲載
のぼり設置	実施中	植栽行事の際に，現場に設置
広報誌掲載	実施後	地域づくり協議会だよりに掲載
HP掲載	実施後	市HPトピックスに実績を掲載，住民団体のHP・SNSに掲載

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	3．森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市

事業名	森林環境教育支援事業

7．写真

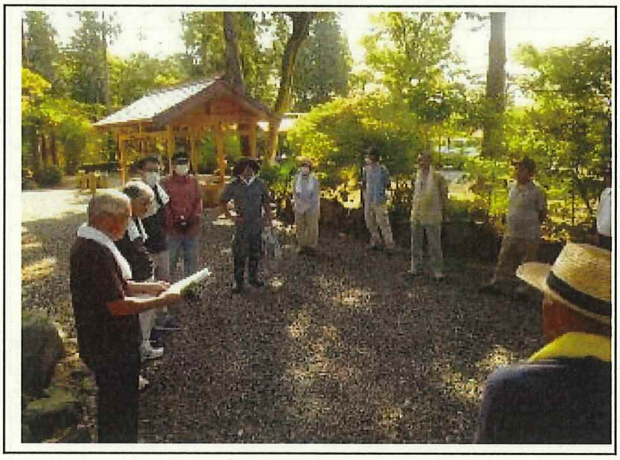


写真1
庄内地区人材育成研修（講義）



写真2
庄内地区人材育成研修（実演）



写真3
庄内地区植樹



写真4
玉垣小学校植栽



写真5
玉垣幼稚園植栽



写真6
市立図書館植栽

（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	鈴鹿市

事業名	森林環境教育支援事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
森を育む人づくり事業				100,000	補助金
緑の環境づくり事業（庄内地区）				100,000	補助金
緑の環境づくり事業（玉垣小学校，玉垣幼稚園，くすのき園，市立図書館）				53,000	補助金
事業費				253,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	鈴鹿市

番号	事業名				
3	森と緑の生涯学習講座				
事業費	939,200 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			939,200		

1. 事業の目的

小学生を中心とした子どもと保護者が，森や緑の大切さについて学び，木にふれあう講座を行うことにより，森林保全や持続可能な自然環境などの理解を深めることを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市立公民館において，地域づくり協議会の社会教育事業を行う専門部に「森と緑の生涯学習講座」として委託し，小学生を中心とした子どもと保護者が，夏休みなど長期休暇を利用しながら，年3回以上，間伐材を使用した木工教室等とともに森林について考える森林環境学習を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

鈴鹿市（椿，庄内，牧田，庄野，加佐登，若松，河曲，飯野，長太，一ノ宮，栄，旭が丘，合川，郡山の各公民館運営委員会など）

【補助率等】

補助事業ではないため該当しない。

【箇所数】

14館（椿，庄内，牧田，庄野，加佐登，若松，河曲，飯野，長太，一ノ宮，栄，旭が丘，合川，郡山の各公民館運営委員会など）

【事業量】

14公民館において年間３回以上の講座を実施

【事業実施期間】

令和２年４月～令和３年３月

【受益者、参加者、利用者数等】

889人

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

森林学習について意欲的に取り組み，工夫された企画を実施することにより，森林への理解が深まることが期待される公民館を選定。

【事業実施により得られた効果】

各館において，専門家の森の実情，環境，また，県産材の利活用などの講義で基本を学び，木工教室などの実技を取り入れた森林学習を通して，学習参加者が森や緑の大切さを学ぶことができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

該当なし

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

事業に参加した方すべてにアンケートを行った。森と環境について理解してもらえ，これからも参加したいとの回答が多くあった。現在の森林の状態や，自分たちがすべきこと，こういう取組がもっと広まってほしいことを分かっていただけた。

さらに今後，事業を行う側としては，実際に森や林などでフィールドワークを行ったり，木を扱う現場での体験を取り入れた企画を考えているところである。

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	鈴鹿市

番号	事　業　名				
3	森と緑の生涯学習講座				
事　業　費	939,200 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			939,200		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託

【実施方法の選定理由】

生涯学習，地域の交流拠点として地域にある公民館は事業実施に最適な場所であり，「森と緑の生涯学習講座」については，他の公民館事業と同様，地域住民で構成された公民館事業を行う団体（地域づくり協議会・公民館運営委員会）に委託することが必要と考える。

【契約方法と落札率または補助率等】

随意契約（地方自治法施行令第167条の2第1項第2号）

【契約相手方の選定理由】

地域づくり協議会や公民館運営委員会が，地域の生涯学習の場，地域の方の交流の拠点でもある公民館の事業運営を行っているため。

【事業費の積算根拠】

1館あたり70千円。講師料30千円，材料費等35千円，施設や道具の使用料5千円

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

公民館だよりやチラシにより対象地域の子供や住民に参加者を広く公募し，地域の方にボランティアを頼むなどをして多くの方の参加を促している。

【公的関与の必要性】

森林保全に関する情報，講師の案内，他市町の事業に関する情報などの提供。全県的な取組や方針など包括的な理解を促すため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

該当なし

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示 (ｼｰﾙ・ﾌﾟﾚｰﾄ等)	実施中	講座中の掲示
広報誌掲載	実施前・中・後	地域へ回覧。募集，事業報告。
チラシ等配布	実施前	地域へ回覧。地区内施設への掲示。募集時。
HP掲載	実施前・中・後	鈴鹿市HPの発行広報紙の掲載。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市

事業名	森と緑の生涯学習講座

7. 写真



写真1
旭が丘公民館（ストラップづくり）



写真2
一ノ宮公民館（ミニ椅子）



写真3
合川公民館（本立て作り）



写真4
庄野公民館（花車づくり）



写真5
飯野公民館（DVD学習）

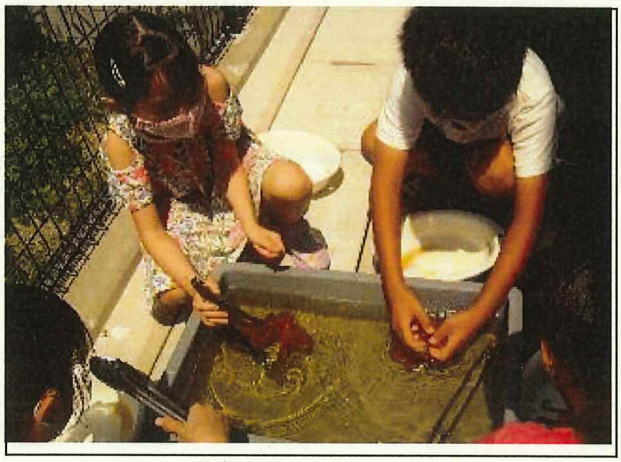


写真6
牧田公民館（草木染め）

（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市

事業名	森と緑の生涯学習講座

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
森と緑の生涯学習講座	館	14.00		939,200	
事業費				939,200	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
森と緑の生涯学習講座		館	14.00		939,200	
	計				939,200	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和2　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	鈴鹿市

番号	事　業　名				
4	図書館木製備品購入及び森林環境啓発事業				
事　業　費	4,176,522　円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,176,522		

1. 事業の目的

三重県の風景を撮る写真家として活動している多田良平さんの写真の中から自然や風景に関連する写真を選定し，写真展を実施することで，来館者に森や緑に関心を持ち，美しい森林環境の素晴らしさを感じてもらうきっかけの場とする。

また，平成27年度から県産材を使用した書架等の備品を購入したことで，図書館内が温かみのある空間となってきたため，令和２年度もさらに事業を拡大し，県産材の木製品の良さを感じられる空間づくりに努める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

三重県の自然や風景に関する写真を選び写真展を実施し，美しい森林環境の素晴らしさなどに関心を持っていただく場を提供した。

また，県産材の木製備品を購入し，図書館内を温かみのある空間とした。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

鈴鹿市

【補助率等】

補助事業ではないため，該当しない。

【箇所数】

１か所（写真展は市立図書館内にて開催。木製備品は書架等を購入し，閲覧室等に設置。）

【事業量】

・写真展１回（写真パネル：20枚展示）

・木製備品の導入：木製会議テーブル（幕板付き）（５台），木製会議テーブル（幕板なし）（14台），木製ブックトラック片面傾斜３段（5台），木製ブックトラック両面傾斜２段（2台），木製ブックトラック両面傾斜２段ワイドタイプ（２台），木製OPACテーブル（１台），木製デスク兼展示台（１台），木製地図用棚（１台），木製大型スライド式書架（１台）

【事業実施期間】

令和２年４月～令和３年３月　（写真展　令和２年12月12日　～　令和２年12月21日）

【受益者、参加者、利用者数等】

写真展来館者222人（入館の際，机に設置した瓶の中にドングリを入れてもらい，その数をカウントした。）

図書館本館来館者193,535人（R2.4～R3.3月）、江島分館来館者18,877人（R2.4～R3.3月）

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

図書館内に県産材の木製備品を設置することにより，多くの利用者に県産材の木製備品を使用していただくことができる。また，木製備品にみえ森と緑の県民税市町交付金事業のロゴマークを張り付けることで，交付金が有効に活用されていることを利用者に周知することができる。

【事業実施により得られた効果】

写真展を実施したことにより，三重県の良さを再発見するとともに，美しい森林環境を守っていきたいと思う良い機会となった。

また，県産材の木製備品にすることにより，木に触れ合う機会や温かみのある空間を提供することができた。

令和2　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	鈴鹿市

番号	事　業　名				
4	図書館木製備品購入及び森林環境啓発事業				
事　業　費	4,176,522　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			4,176,522		

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

導入した木製会議机を図書館1階閲覧室，２階参考図書室及び視聴覚室に設置することで，図書館利用者が身近に木材にふれあい，森林に親しむ機会を提供する。

また，森林・林業に関する本の読み聞かせなどと関連付け，当該事業で設置した木製備品を紹介し利用者の森林・林業に関する意識の醸成に繋げる。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

写真展には222人が来館し，アンケートも概ね好評の感想をもらった。

来館者にアンケート用紙の記入を依頼し，43人から回答をもらった。（全体の約19%）

アンケートの中には，「森林を大切にしようと思う。」「三重県内にある素晴らしい森林に気付き，写真の場所に行ってみたい。」といった感想があった。

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

写真展：パネルの購入、木製備品：物品の購入

いずれも図書館が依頼及び発注を行った。

【実施方法の選定理由】

子どもから大人まで幅広く，たくさんの人に啓発するため，三重県で活発に活動されている写真家の写真展を選定した。

また，木製備品については，入札参加名簿に登録している業者かつ県内業者であり，仕様書の条件で対応可能な業者などで指名競争入札を実施した。

【契約方法と落札率または補助率等】

指名競争入札

【契約相手方の選定理由】

子どもから大人まで幅広く，たくさんの人に啓発するため，三重県で活発に活動されている写真家の写真展を選定した。

また，木製備品については，入札参加名簿に登録している業者かつ県内業者であり，仕様書の条件で対応可能な業者などで指名競争入札を実施した。

【事業費の積算根拠】

予算の範囲内で予定価格を設定した。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

写真展については，図書館ＨＰ，Twitter，Facebook，広報誌掲載などの手段によって広く周知することにより，市内及び市外の方にも写真展へ来館していただき，公益性の面からも受益を得ることができたと考える。

木製備品については，本の貸出以外は利用制限をしていないため，来館時に備品を使用することができることから，多くの県民に受益があるよう工夫できたと考える。

令和2　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	鈴鹿市

番号	事　業　名				
4	図書館木製備品購入及び森林環境啓発事業				
事　業　費	4,176,522　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			4,176,522		

【公的関与の必要性】
木製備品などの使用については，受益の範囲が不特定多数が対象であり，サービスの対価が徴収できないため，公的関与が必要である。
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
木製備品は図書館で管理を行う。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・中・後	図書館ＨＰに掲載。写真家の紹介，写真展の開催期間，開催場所など
ポスター掲示	実施前・中	図書館本館，江島分館，市役所本館
広報誌掲載	実施前	広報すずかのお知らせに掲載
チラシ等配布	実施前・中	図書館本館，江島分館に設置
アンケート実施	実施前・中	開催会場内に入館者を対象に実施
その他	実施前・中	Twitter，Facebookにて写真展開催を周知
ロゴマーク掲示（ｼｰﾙ・ﾌﾟﾚｰﾄ等）	実施後	木製備品納品時に貼り付け

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市

事業名	図書館木製備品購入及び森林環境啓発事業

7. 写真



写真1
写真展（パネル展示）



写真2
写真展（パネル展示）



写真3
写真展（パネル展示）



写真4
写真展（みえ森と緑の県民税啓発資料）

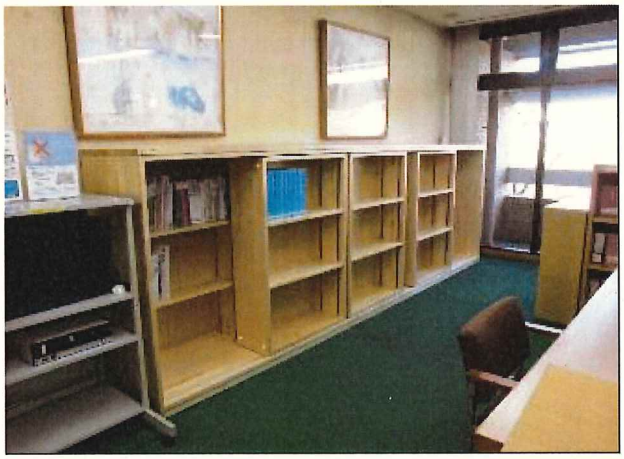


写真5
木製大型スライド式書架



写真6
木製大型スライド式書架(みえ森と緑の県民税市町交付金事業ロゴマーク)

7. 写真



写真7

木製会議テーブル



写真8

木製会議テーブル(みえ森と緑の県民税市町交付金事業ロゴマーク)



写真店の開催案内チラシ

「みえ森と緑の県民税」を活用した事業であることを記載

（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市

事業名	図書館木製備品購入及び森林環境啓発事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
多田良平さん写真展				95,522	
木製備品一式				4,081,000	
事業費				4,176,522	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
多田良平さん写真展	写真パネル	枚	20.00	4,700	94,000	
	ヒートン（ニッケルメッキ）	個	1.00	640	640	
	シンチュウヒートン	個	1.00	256	256	
	はがせる両面テープ	個	1.00	458	458	
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
多田良平さん写真展	二重リング	個	1.00	168	168	
	計				95,522	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
木製備品一式	木製会議テーブル（幕板付き）	台	5.00	113,300	566,500	
	木製会議テーブル（幕板なし）	台	14.00	88,000	1,232,000	
	木製ブックトラック片面傾斜３段	台	5.00	123,200	616,000	
	木製ブックトラック両面傾斜２段	台	2.00	134,200	268,400	
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
木製備品一式	木製ブックトラック両面傾斜２段ワイドタイプ	台	2.00	149,600	299,200	
	木製OPACテーブル	台	1.00	155,100	155,100	
	木製デスク兼展示台	台	1.00	103,400	103,400	
	木製地図用棚	台	1.00	70,400	70,400	
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
木製備品一式	木製大型スライド式書架	台	1.00	770,000	770,000	
	計				4,081,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	鈴鹿市

番号	事　業　名				
5	公立保育所及び公立幼稚園木製備品設置事業				
事　業　費	7,128,000　円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			7,009,578		118,422

1. 事業の目的

公立保育所，幼稚園の各保育室の棚や下駄箱に木材を使用することで，温かみがあり，親しみやすい保育室にするとともに，木製品に触れ，良さを感じる機会とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

公立保育所５か所，幼稚園１か所の各保育室の棚や下駄箱に県産材を使用することで，保育空間を木の温かみがあり，親しみやすい空間とする。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

鈴鹿市

【補助率等】

該当なし

【箇所数】

保育所５か所，幼稚園１か所

【事業量】

保育所：下駄箱４か所８台，収納棚１か所３台／幼稚園：下駄箱１か所２台

【事業実施期間】

令和２年12月～令和３年３月

【受益者、参加者、利用者数等】

各保育所，幼稚園の園児　1,040人

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

森や緑の大切さについて学ぶために，毎日県産材に直接触れることができる下駄箱や収納棚を選定した。

【事業実施により得られた効果】

無機質，画一的な製品でなく，木材の持つ温かさや人工物にはない木製品の良さを幼児期から体感し，心豊かな環境で保育・教育を行うことにつながっている。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

木製品の香りや温もりについて感想を述べたり，森林の木が，どのような工程で下駄箱や収納棚に加工されるのかを考え，幼児期からの木育が可能になる。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

職員からは，「子どもたちが毎日県産材に触れ，心豊かな環境で保育・教育を行うことができる」といった声や，園児からも「温かくて使いやすい」と反響がある。今後も来園者に対して，みえ森と緑の県民税市町交付金事業を活用した木製品であることを周知していきたい。

年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	鈴鹿市

番号	事　業　名				
5	公立保育所及び公立幼稚園木製備品設置事業				
事　業　費	7,128,000　円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			7,009,578		118,422

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

備品購入

【実施方法の選定理由】

納品（設置）までの期間をより短くし，経費削減を図るため。

【契約方法と落札率または補助率等】

指名競争入札

落札率　97.27%

【契約相手方の選定理由】

指名競争入札

【事業費の積算根拠】

設置する下駄箱，収納棚の見積りによる。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

本事業は，市が設置する公立の就学前施設に木製品を設置したものであり，職員や就学前児童，その保護者等幅広い世代の利用者が木製品に触れるものと考えられる。

【公的関与の必要性】

幼児教育・保育に対する多様なニーズへ対応し，更なる幼児教育・保育の充実を図るため，市による就学前施設の計画的な整備が必要と考える。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市立保育所及び市立幼稚園であるため，今後も市が管理を行う。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示（ｼｰﾙ・ﾌﾟﾚｰﾄ等）	実施前・中・後	設置された木製品にみえ森と緑の県民税を活用した事業である標識プレートを設置
学校だより等掲載	今後	設置された木製品がみえ森と緑の県民税を活用していることを周知し，森林や木材について学ぶきっかけとする

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	４．森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市

事業名	公立保育所及び公立幼稚園木製備品設置事業

7．写真



写真1
下駄箱（鈴鹿市立玉垣保育所）



写真2
下駄箱（鈴鹿市立旭が丘幼稚園）



写真3
下駄箱（鈴鹿市立算所保育所）



写真4
下駄箱（鈴鹿市立一ノ宮保育所）

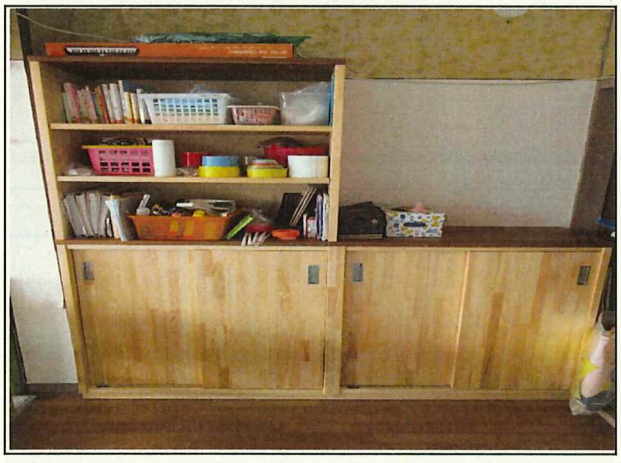


写真5
収納棚（鈴鹿市立深伊沢保育所）



写真6
下駄箱（鈴鹿市立白子保育所）

（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市

事業名	公立保育所及び公立幼稚園木製備品設置事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
木製備品	台	13.00		7,128,000	
事業費					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
下駄箱（鈴鹿市立玉垣保育所）	下駄箱	台	1.00	990,000	990,000	
	計				990,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
下駄箱（鈴鹿市立旭が丘幼稚園）	下駄箱	台	2.00	911,900	1,823,800	
	計				1,823,800	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
下駄箱（鈴鹿市立算所保育所）	下駄箱　0歳児用	台	1.00	539,000	539,000	
	下駄箱　年長用	台	1.00	562,100	562,100	
	計				1,101,100	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
下駄箱（鈴鹿市立一ノ宮保育所）	下駄箱　2歳児用	台	1.00	319,000	319,000	
	下駄箱　3・4歳児用	台	2.00	314,600	629,200	
	下駄箱　5歳児用	台	1.00	348,700	348,700	
	計				1,296,900	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
収納棚（鈴鹿市立深伊沢保育所）	収納棚A	台	2.00	319,000	638,000	
	収納棚B	台	1.00	601,700	601,700	
	計				1,239,700	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
下駄箱（鈴鹿市立白子保育所）	下駄箱	台	1.00	676,500	676,500	
	計				676,500	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	鈴鹿市

番号	事　業　名				
6	ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業				
事　業　費	720,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			720,000	0	0

1. 事業の目的

衰退の兆候が見られる市内にある天然記念物や地域緑化のシンボルとなっている樹木について、所有者（地元住民）自身が主体的に樹木健康診断や樹勢回復等を行うことで，地域の森林及び樹木とふれあう場を創出することを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

ふるさとの木（市内の天然記念物や地域緑化のシンボルとなっている樹木及び樹木群）の所有者等が樹木診断及び樹木治療等を実施するための経費に対し補助することで，ふるさとの木の所有者等の主体的に保存する行動につなげる。

また，地域のシンボルとして地域の様々な世代が地域の森林や樹木とふれあう場を提供し，地域全体で緑を守り育てる意識を醸成し，地域の宝として，大切にする活動へとつなげていく。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

ふるさとの木の所有者

【補助率等】

４分の３

【箇所数】

１か所

【事業量】

１か所（松枯れ防止剤の樹幹注入，危険枝の除去，枝の固定）

【事業実施期間】

令和３年１月～令和３年２月

【受益者、参加者、利用者数等】

ふるさとの木の所有者及びふるさとの木の保存活用に関する取り組みに参加した地域住民

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

地蔵大マツは，所有者である西玉垣町自治会が，積極的に樹勢回復事業に関わってきた。しかしながら，令和元年8月・令和2年1月に，当該樹木の腐朽が原因とみられる枝折れが発生し，緊急に対応が必要と考えられた。

また，近年，本市においては，鼓ヶ浦海岸周辺において，マツノザイセンチュウによる立ち枯れ被害が多発しており，地蔵大マツが老木であり虫害の影響を受けやすいと考えられることから，定期的な樹幹注入が必要と考えられる。

過去に注入したマツノザイセンチュウの防除薬剤の効能が令和３年２月以降に低下することから，立ち枯れ被害防止のため，薬剤の樹幹注入が必要と判断した。この２点の理由により選定した。

【事業実施により得られた効果】

事業実施当日は，所有者や地域の方を含め，多くの方が見守る中実施された。本樹木を中心とした本事業を実施するにあたり，市政記者クラブへ情報提供したことで，新聞やケーブルテレビ局による取材もあり，本樹木の地域における重要性を再確認するとともに，所有者及び地域の方に対し，樹木医から本樹木の状況や森林の持つ多面的機能についても説明し，学ぶ機会を提供することができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

自治会で実施している草刈り等の機会に，事業を実施した樹木医から，本樹木の現状や一般的な樹木の持つ多面的機能について説明するなど，学ぶ機会を提供していく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

所有者からは，「本樹木を適切で安全に管理することができた。」「落枝の危険性を低減できた。今後も，適切に管理していきたい。」などの意見をいただいた。

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	鈴鹿市

番号	事　業　名				
6	ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業				
事　業　費	720,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			720,000	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

補助

【実施方法の選定理由】

補助事業とすることで，当該樹木の所有者の負担を前提に樹木治療等を実施することになり，所有者が主体的に事業を実施することができるため。

【契約方法と落札率または補助率等】

補助率：3/4

補助対象：ふるさとの木の所有者等が樹木診断及び樹木治療等を実施するための経費

【契約相手方の選定理由】

補助申請による

【事業費の積算根拠】

補助対象経費の3/4を補助する。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

当該樹木は県指定の天然記念物であり，所有者や周辺住民だけではなく，広く県民からの関心が高く，本樹木の樹勢回復等を公費をもって補助することは適切である。

【公的関与の必要性】

樹木所有者の負担のみで，公財産でもある指定文化財を保護することは，経済的にも人的にも非常に困難であり，公的関与は必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

日常管理を含め，所有者が管理していく。なお，県指定天然記念物であることから，転用しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施前・中・後	敷地内看板に，県民税事業であることを記載し，周知した。
その他	実施前・中・後	事業実施前に市政記者クラブに本事業の実施について記者提供し，当日の取材を受けた。
その他	実施前・中・後	所有者である自治会の役員に対し，実施前及び実施中に本事業が県民税を活用し，実施していることを説明した。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市

事業名	ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業

7. 写真



写真1
地蔵大マツ　全景

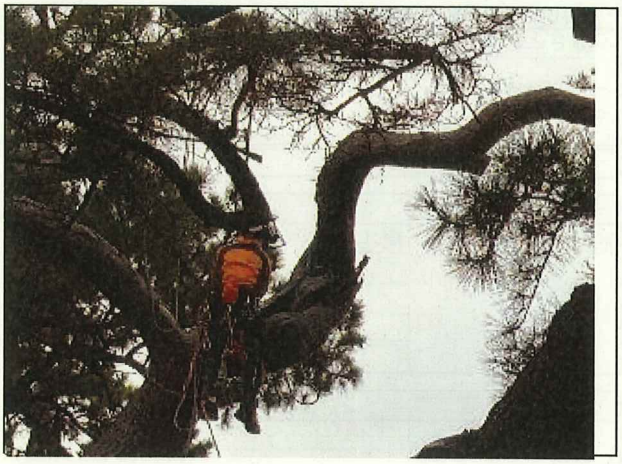


写真2
折れ枝の除去作業



写真3
折れ枝の切断面（腐朽している）

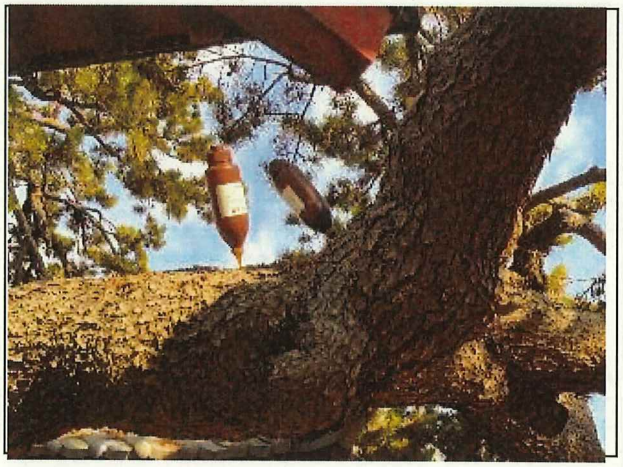


写真4
樹幹注入



写真5
枝の固定（ケーブリング）



写真6
県民税の表示

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市

事業名	ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
ふるさとの木（名木古木）保存活用事業	回	1.00	720,000	720,000	
事業費					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
補助事業	樹木治療等	回	1.00	720,000	720,000	
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	鈴鹿市

番号	事　業　名				
7	緑と人を育む　長太の大楠再生プロジェクト				
事　業　費	1,254,000　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,254,000	0	0

1. 事業の目的

地域緑化のシンボルとなっている長太の大楠（なごのおおくす）は，近年，周辺環境の変化や塩害，落雷等の影響により衰退の兆候が見られてきた。地域住民から愛され，市のランドマークでもある長太の大楠の樹木健康診断や樹勢回復等を行うことで，身近な樹木に対する関心をさらに高め，樹木とふれあう場を創出することを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

長太の大楠に樹木診断及び樹木治療等を実施することで，様々な世代の地域住民が地域の樹木に関心を持ち，地域全体で緑を守り育てる意識を醸成し，保全する活動へとつなげていく。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

鈴鹿市

【補助率等】

補助金ではなく該当しない。

【箇所数】

１か所

【事業量】

長太の大楠（１本：土壌改良、植物活力剤かん注、根元開口部補修）

【事業実施期間】

令和３年３月～令和３年３月

【受益者、参加者、利用者数等】

樹木の保存活用にかかる取組に関わった地域の児童・生徒並びに地域住民

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

地域を代表する樹木であり，積極的に樹勢回復を図り，地域の児童・生徒，住民に対し森林環境教育を実施することで，当該樹木を地域の宝として守ろうとする意識を高めることができるため。

【事業実施により得られた効果】

本事業を実施するにあたり，市政記者クラブへ情報提供したことで，新聞やケーブルテレビによる取材もあり，本樹木の地域における重要性を再確認するとともに，所有者及び地域の方に対し，樹木医から本樹木の状況ついて説明し，学ぶ機会を提供することができた。

また，本事業を実施する前に，地域の小学校で，地元保存会と樹木医による樹木環境教育を行い，本樹木に対する関心を高めることができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

今後も，樹木の日常管理や学校現場等において，本事業に関わった樹木医による森林環境教育を実施する。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

環境教育を実施した児童からは，「自分たちでできることはないのか」，「どうしたら（大楠が）元気になるのか」などの意見があった。

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	鈴鹿市

番号	事　業　名				
7	緑と人を育む　長太の大楠再生プロジェクト				
事　業　費	1,254,000　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,254,000	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託

【実施方法の選定理由】

高い専門性をもった樹木医による適切な樹勢回復措置が必要であるため，委託事業は適切である。

【契約方法と落札率または補助率等】

随意契約

【契約相手方の選定理由】

事業の対象となる「長太の大楠」においては，落雷による樹木の急激な状況変化に対し，臨機応変で適切な対処が必要になること，複数年度継続して樹木治療を行うことが必要であること，また，高い知識と技術，経験のある複数名の樹木医の経験や知識，見識により対処を検討・判断することが必要である。

日本樹木医会三重支部は，樹木に対する高い知識と技術に精通した樹木医による団体であり，県内各所において，樹木診断や樹木治療を実施する実績があり，本事業を実施する条件に合致する。

また，令和２年９月の落雷被害時においては，本団体が落雷被害調査を実施しており，その実績及び経験も踏まえ，本団体を選定した。

【事業費の積算根拠】

見積りによる

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

当該樹木は県指定の天然記念物であり，所有者や周辺住民だけではなく，広く県民からの関心が高く，本樹木の樹勢回復等を公費をもって補助することは適切である。

【公的関与の必要性】

市が管理団体に指定されているため適切

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

日常管理については，保存会が管理していく。なお，県指定天然記念物であることから，転用されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施前・中・後	敷地内にのぼりを設置し，県民税事業であることを記載し，周知した。
その他	実施前・中・後	事業実施前に市政記者クラブに本事業の実施について記者提供し，当日の取材を受けた。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市

事業名	緑と人を育む　長太の大楠再生プロジェクト

7. 写真

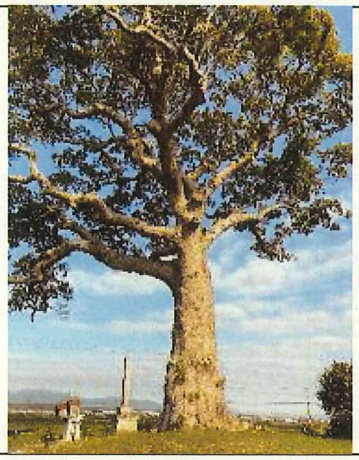


写真1
長太の大楠（全景）



写真2
落雷被害による保護材の破裂



写真3
落雷被害による樹皮剥がれ



写真4
エアスコップを使用した土壌改良



写真5
樹木活力剤の注入作業

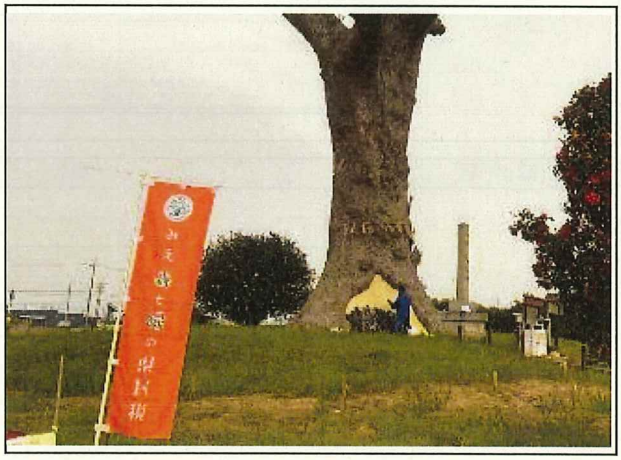


写真6
保護材の修復作業

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市

事業名	緑と人を育む　長太の大楠再生プロジェクト

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
樹勢回復作業業務委託（土壌改良）	回	1.00	700,000	700,000	
樹勢回復作業業務委託（植物活力剤かん注）	回	1.00	200,000	200,000	
樹勢回復作業業務委託（根元開口部補修作業）	回	1.00	50,000	50,000	
諸費用	回	1.00	190,000	190,000	
消費税	回	1.00	114,000	114,000	
事業費				1,254,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
樹勢回復作業業務委託（土壌改良）	樹木医	人	2.00	40,000	80,000	
	造園技術者	人	8.00	25,000	200,000	
	機材費	式	1.00	100,000	100,000	
	バックホー	日	2.00	30,000	60,000	
	土壌改良資材	式	1.00	200,000	200,000	
	飛散防止安全対策	式	1.00	60,000	60,000	
	計				700,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
樹勢回復作業業務委託（植物活力剤かん注）	樹木医	人	31.35	40,000	1,254,000	0
	造園技術者	人	3.00	25,000	75,000	
	バックホー	土	1.00	30,000	30,000	
	ダンプ	日	1.00	20,000	20,000	
	植物活力剤	リットル	4.00	5,000	20,000	
	機材費	式	1.00	15,000	15,000	
	計				1,414,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
樹勢回復作業業務委託（根元開口部補修作業）	樹木医	人	1.00	40,000	40,000	
	資材費	式	1.00	10,000	10,000	
	計				50,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

亀山市

第１６号様式（評価委員会資料）

令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業　市町別総合評価シート

１．基礎情報

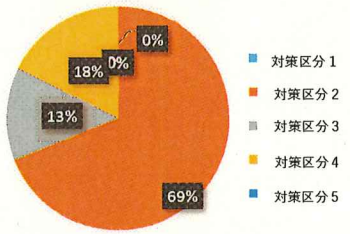
市町名	市町名	三重県
人口（人）	49,904	1,782,190
年少人口割合（%）＊1	13.7%	12.4%
森林面積(ha)	12,034.48	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	11,680.86	348,833.49
森林率(%)	63.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	13.1	10.1

＊１：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊２：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊３：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



２．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分１	対策区分２	対策区分３	対策区分４	対策区分５	基金積立
1	2	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）	8,116,947	7,687,000		7,687,000				
2	3	森と木材のふれあい事業（森の講座）	498,300	498,300			498,300			
3	3	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）	1,008,338	1,000,000			1,000,000			
4	4	森と木材のふれあい事業（木とふれあう）	1,280,718	1,271,050				1,271,050		
5	4	森林環境教育・木育が行える場の整備	700,920	685,650				685,650		
計			11,605,223	11,142,000	0	7,687,000	1,498,300	1,956,700	0	0

３．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量（ha・m）	事業費（円）	内交付金充当額（円）	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

４．事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	市民が里山・竹林の整備を実施できるように機械を貸し出すことで、民家周辺の生活環境の向上を図る。また、集落周辺の危険木の伐採を行い、市民が安全・安心に暮らせるように「暮らしに身近な森林づくり」に取り組む。更に、森林環境教育・木育が行える場を整備することで、森林や木材について学ぶ機会を幅広い年代に提供し、森林や木材と人との関係を深める。
事業実施により得られた効果	市民自らが里山・竹林等の環境整備を行い生活環境が良くなったことと、危険木を伐採したことから市民の安全・安心に大きく寄与できた。また、今年度はコロナ禍の中、協議会が工夫を凝らし、多くのイベントを開催したことで幅広い年代の市民等が多く参加され、森林とふれあう場を提供できた。森の講座を開催したことで、参加した方が今後、地域の森林整備に携わるきっかけが作れた。更に、幼稚園・保育園で木育教室を開催し、園児たちが木にふれあったことで園児たちの豊かな心を育むことができた。また、森林公園やまびこを森林環境教育を行える場として活用するために、老朽化している八橋を補修したことで公園の利用者や野外体験学習の場として活用している加太保育園の園児たちが安全・安心に利用できた。
情報発信への取組	市ホームページにイベントや木育に関する開催結果等や市広報にて募集案内等を掲載。また、テレビの行政情報番組で木育などの取組を放送し多くの市民に周知できた。報道機関に取材を依頼し紙面に掲載されたことで県民に対して税事業の取組を知らせられた。

＊評価の参考として、別紙「森林環境譲与税事業の実績」を添付すること。

（参考資料）

令和２年度森林環境譲与税事業の実績

事業番号	事業カテゴリー	事業費	
		(円)	内、譲与税
1	① 意向調査の準備作業	1,980,000	1,980,000
2	② 意向調査	1,045,000	1,045,000
3	⑦ その他（森林整備）	627,000	627,000
4	③ 私有林整備	2,519,000	2,519,000
5	③ 私有林整備	4,070,000	4,070,000
6	③ 私有林整備	2,596,000	2,596,000
7	③ 私有林整備	3,135,000	3,135,000
8	③ 私有林整備	2,970,000	2,970,000
	合計	18,942,000	18,942,000

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	亀山市

番号	事　業　名				
1	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）				
事　業　費	8,116,947 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			7,687,000円		429,947

1. 事業の目的

自治会や市民から公共施設周辺の倒木の恐れのある危険木の除去や道路に覆いかぶさった枝葉が通行に支障を及ぼすため剪定などの要望が近年多くあることから、伐採や剪定により除去することで市民の安全・安心に寄与する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

公共施設周辺の危険木や道路上に覆いかぶさった枝葉を伐採、剪定する。また、伐採後は天然更新または、適宜伐採するなど多様な広葉樹林帯を形成し緑化に努める。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

亀山市

【補助率等】

市直営事業のため、該当しない。

【箇所数】

10箇所（緑地：白木町２箇所、みずほ台、アイリス町、関が丘　市道：みどり町２箇所、本丸町　公園：栄町　調整池：関町富士ハイツ）

【事業量】

整備面積：0.1ha

【事業実施期間】

令和２年４月17日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

整備箇所住民：7,152人

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

多くの市民が利用する緑地、市道、公園の危険木を除去することにより、市民の安全・安心が確保される。

【事業実施により得られた効果】

危険木を除去したことにより市民の安全・安心が確保できた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

市で管理を行う。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

「危険木が無くなったため安心して通行できるようになった」等の意見があった。

令和２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	亀山市

番号	事　業　名				
1	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）				
事　業　費	8,116,947 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			7,687,000円		429,947

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
市による業務委託（請負）
【実施方法の選定理由】
競争入札によりコストが削減できるため
【契約方法と落札率または補助率等】
（A～C、E地区）指名競争入札13社　（A地区）91%（B地区）93%（C地区）92%（E地区）93%
【契約相手方の選定理由】
市内において危険木伐採の実績がある事業者
【事業費の積算根拠】
三重県の積算基準による

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
県民の危惧する箇所を整備したことで公共性が図れた。
【公的関与の必要性】
各施設の管理者は市であることから関与が必要である。
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
市管理の施設であることから転用の恐れはない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	今後	市ホームページに掲載し周知

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市

事業名	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）

7. 写真

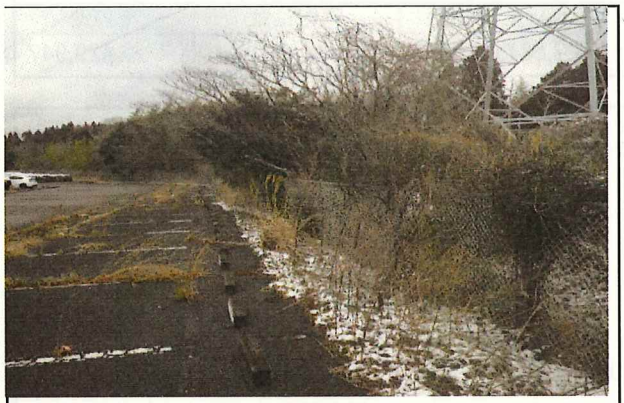


写真1 着工前
A地区　No.51　白木町　名阪工業団地E



写真2 完成
A地区　No.51　白木町　名阪工業団地E



写真3 着工前
A地区　No.51　白木町　名阪工業団地E

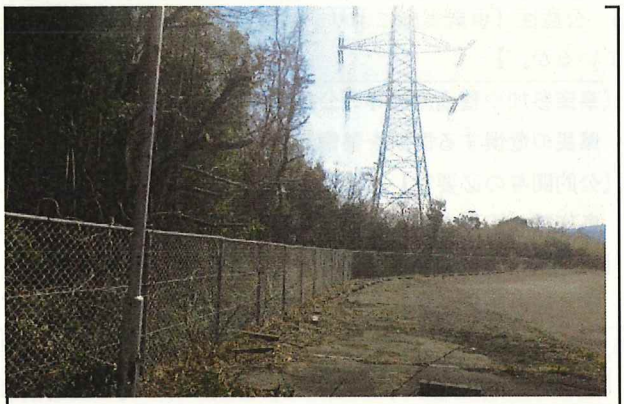


写真4 完成
A地区　No.51　白木町　名阪工業団地E



写真5 着工前
A地区　No.52　白木町　名阪工業団地D,E



写真6 完成
A地区　No.52　白木町　名阪工業団地D,E

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市

事業名	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）



写真7 着工前
A地区　No.52　白木町　名阪工業団地D,E



写真8 完成
A地区　No.52　白木町　名阪工業団地D,E



写真9 着工前
A地区　No.52　白木町　名阪工業団地D,E



写真10 完成
A地区　No.52　白木町　名阪工業団地D,E



写真11 着工前
B地区　No.6　みどり町　市道みどり4号線



写真12 完成
B地区　No.6　みどり町　市道みどり4号線

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市

事業名	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）



写真13 着工前
B地区　No.6　みどり町　市道みどり4号線



写真14 完成
B地区　No.6　みどり町　市道みどり4号線



写真15 着工前
B地区　No.13　みどり町　市道みどり25号線



写真16 完成
B地区　No.13　みどり町　市道みどり25号線



写真17 着工前
B地区　No.13　みどり町　市道みどり25号線



写真18 完成
B地区　No.13　みどり町　市道みどり25号線

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市

事業名	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）



写真19 着工前
B地区　No.14　みずほ台　ｽﾊﾟｲﾗﾙｶﾞｰﾃﾞﾝ緑地



写真20 完成
B地区　No.14　みずほ台　ｽﾊﾟｲﾗﾙｶﾞｰﾃﾞﾝ緑地

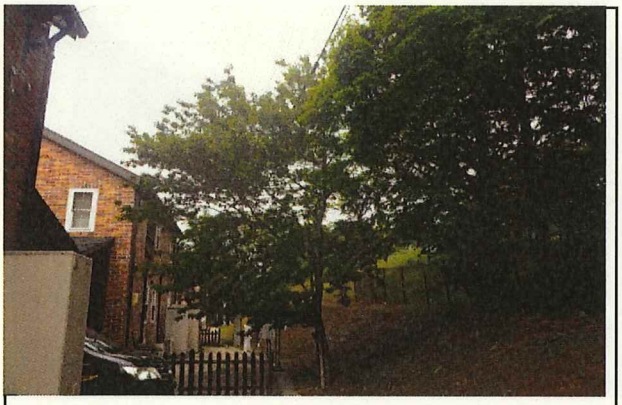


写真21 着工前
B地区　No.14　みずほ台　ｽﾊﾟｲﾗﾙｶﾞｰﾃﾞﾝ緑地

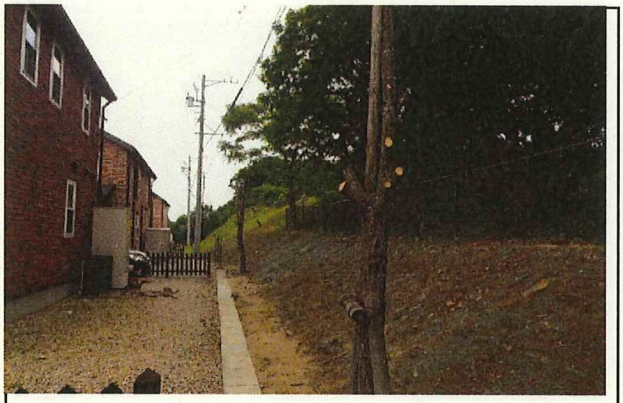


写真22 完成
B地区　No.14　みずほ台　ｽﾊﾟｲﾗﾙｶﾞｰﾃﾞﾝ緑地



写真23 着工前
B地区　No.14　みずほ台　ｽﾊﾟｲﾗﾙｶﾞｰﾃﾞﾝ緑地



写真24 完成
B地区　No.14　みずほ台　ｽﾊﾟｲﾗﾙｶﾞｰﾃﾞﾝ緑地

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市

事業名	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）

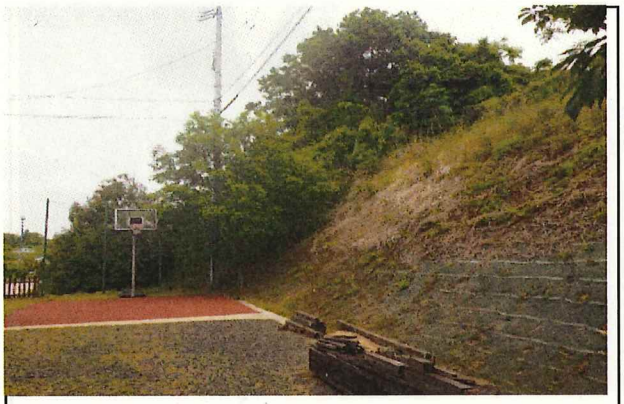


写真25 着工前
B地区　No.14　みずほ台　ｽﾊﾟｲﾗﾙｶﾞｰﾃﾞﾝ緑地



写真26 完成
B地区　No.14　みずほ台　ｽﾊﾟｲﾗﾙｶﾞｰﾃﾞﾝ緑地



写真27 着工前
B地区　No.30　栄町　東野公園



写真28 完成
B地区　No.30　栄町　東野公園



写真27 着工前
B地区　No.57　アイリス町　アイリス町緑地E



写真28 完成
B地区　No.57　アイリス町　アイリス町緑地E

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市

事業名	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）



写真29 着工前
B地区　No.57　アイリス町　アイリス町緑地E



写真30 完成
B地区　No.57　アイリス町　アイリス町緑地E



写真31 着工前
B地区　No.57　アイリス町　アイリス町緑地E



写真32 完成
B地区　No.57　アイリス町　アイリス町緑地E



写真33 着工前
C地区　No.1　西丸町　市道本丸1号線



写真34 完成
C地区　No.1　西丸町　市道本丸1号線

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市

事業名	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）



写真35 着工前
C地区　No.1　西丸町　市道本丸1号線



写真36 完成
C地区　No.1　西丸町　市道本丸1号線



写真37 着工前
E地区　No.7　関町富士ハイツ　関富士ハイツ調整池



写真38 完成
E地区　No.7　関町富士ハイツ　関富士ハイツ調整池



写真39 着工前
E地区　No.11　関ヶ丘　関ヶ丘緑地



写真40 完成
E地区　No.11　関ヶ丘　関ヶ丘緑地

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市

事業名	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）



写真41 着工前
E地区　No.25　関ヶ丘　関ヶ丘緑地



写真42 完成
E地区　No.25　関ヶ丘　関ヶ丘緑地



写真43 着工前
E地区　No.47　関ヶ丘　関ヶ丘緑地



写真44 完成
E地区　No.47　関ヶ丘　関ヶ丘緑地



写真45 着工前
E地区　No.52　関ヶ丘　関ヶ丘緑地



写真46 完成
E地区　No.52　関ヶ丘　関ヶ丘緑地

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市

事業名	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
危険木等伐採				8,116,947	
事業費				8,116,947	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
名阪工業団地緑地E	危険木等伐採	時間	22.00	22,974	505,428	A地区 No.51
		時間	19.00	21,005	399,095	
	計				994,975	税込み

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
名阪工業団地緑地D,E	危険木等伐採	時間	19.00	22,974	436,506	A地区 No.52
		時間	18.00	21,005	378,090	
		人	6.00	30,523	183,138	
	計				1,097,507	税込み

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
市道みどり4号線	危険木等伐採	時間	4.00	23,324	93,296	B地区 No.6
		時間	5.00	28,322	141,610	
		人	2.00	31,321	62,642	
	計				327,302	税込み

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
市道みどり25号線	危険木等伐採	時間	26.00	27,322	710,372	B地区 No.13
		人	5.00	31,321	156,605	
	計				953,674	税込み

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
スパイラルガーデン緑地	危険木等伐採	時間	18.00	27,322	491,796	B地区 No.14
	計				540,975	税込み

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
東野公園	危険木等伐採	時間	15.00	27,322	409,830	B地区 No.30
	計				450,813	税込み

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
アイリス町緑地E	危険木等伐採	時間	8.00	27,322	218,576	B地区 No.57
		人	2.00	31,321	62,642	
	計				309,339	税込み

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	亀山市

事業名	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
市道本丸1号線	危険木等伐採	時間	26.00	33,511	871,286	C地区　No.1
		人	4.00	30,832	123,328	
	計				1,094,075	税込み

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
関富士ハイツ調整池	危険木等伐採	時間	3.00	23,331	69,993	E地区　No.7
		本	4.00	59,661	238,644	
		人	2.00	30,997	61,994	
		時間	16.00	27,331	437,296	
	計				888,719	税込み

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
関ヶ丘緑地	危険木等伐採	時間	18.00	27,331	491,958	E地区　No.11
	計				541,153	税込み

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
関ヶ丘緑地	危険木等伐採	時間	5.00	21,331	106,655	E地区　No.25
	計				117,320	税込み

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
関ヶ丘緑地	危険木等伐採	時間	21.50	27,331	587,616	E地区　No.47
	計				646,377	税込み

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
関ヶ丘緑地	危険木等伐採	時間	5.00	15,332	76,660	E地区　No.52
		時間	3.00	21,331	63,993	
	計				154,718	税込み

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	亀山市

番号	事　業　名				
2	森と木材のふれあい事業（森の講座）				
事　業　費	498,300　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			498,300		

1. 事業の目的

森林とふれあいながら、森林や緑を大切に思い、育む人づくりのため、様々な市民に、森林や木材について学び・ふれあう機会を提供し森林と木材と市民との関係を深める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

１日目：チェーンソーの構造の理解と分解整備や刃の目立ての仕方などを学ぶ。

２日目：チェーンソーによる間伐体験や枝払い等。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

亀山市

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

・森の講座の開催　１回（２日間コース　亀山森林公園やまびこ、亀山市関町坂下）

【事業量】

・森の講座の開催　１回（２日間コース　亀山森林公園やまびこ、亀山市関町坂下）

【事業実施期間】

令和２年４月16日～令和２年11月22日

【受益者、参加者、利用者数等】

１日目：５人　２日目：４人

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

１日目は、森林環境教育・木育が行える場である、亀山森林公園やまびこを活用。

２日目は、業務委託先が、初心者でも伐倒可能な径級、地形等を考慮して研修場所を選定。

【事業実施により得られた効果】

森の講座に参加したことで、チェーンソーの取扱い、メンテナンスの方法や樹木の伐倒の基本を学ぶことができた。今後は、地域の里山を保全していく人が増える。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

施設整備ではなく、該当しない。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

チェンソーの取扱い、整備の仕方など基本を学べたので良かった。明るい山の中で食べた昼食はとても美味しかった。これをきっかけに自己所有の森林を整備したいと思った。

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	亀山市

番号	事　業　名				
2	森と木材のふれあい事業（森の講座）				
事　業　費	498,300 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			498,300		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託

【実施方法の選定理由】

森林整備や技術指導の実績があるところに指導してもらうため委託を選定した。

【契約方法と落札率または補助率等】

契約方法：随意契約（見積り）　落札率：99.7%

【契約相手方の選定理由】

森林整備や技術指導の実績があるところを選定。

【事業費の積算根拠】

見積りによる積算。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

講座の受講をきっかけに、地元住民が森林整備に携わる機会が増え、地域の森林保全につながるため。

【公的関与の必要性】

地域住民の手で、地域の森林整備が促進されることが期待できるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	森の講座開催後に内容を掲載
のぼり設置	実施中	森の講座開催時にのぼり旗にてPR
TV（行政チャンネル等）	実施後	講座の内容を11月27日から12月2日までマイタウンかめやまにて放送
学校だより等掲載	実施後	園だよりに開催内容を掲載し県民税を周知した
その他	実施後	11月23日発行伊勢新聞に記事掲載
広報誌掲載	実施後	広報かめやま12月1号に掲載
啓発物品配布	実施中	受講者に啓発物品等を配付し周知に努めた

7. 写真

別添のとおり

8. その他特記事項

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市
事業名	森と木材のふれあい事業（森の講座）		

7. 写真



写真1
メンテナンス



写真2
目立て



写真3
試し切り



写真4
枝払い

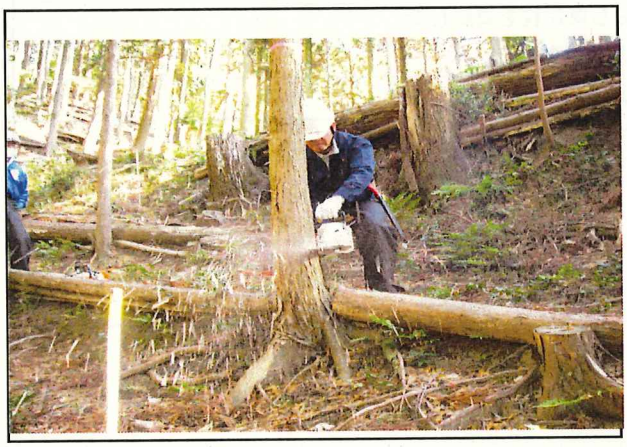


写真5
伐倒



写真6
受け口作り

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市

事業名	森と木材のふれあい事業（森の講座）

7. 写真



写真７
1日目開会

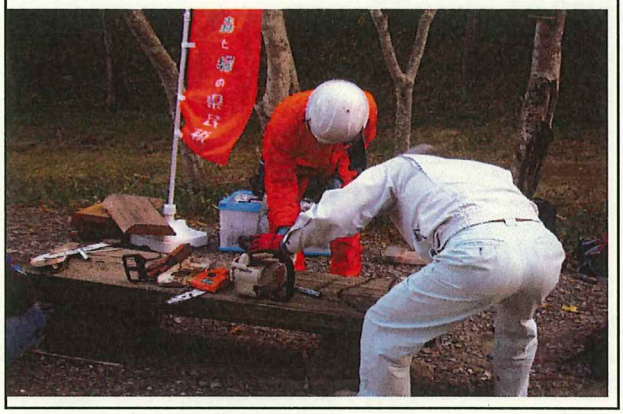


写真８
チェーンソー整備

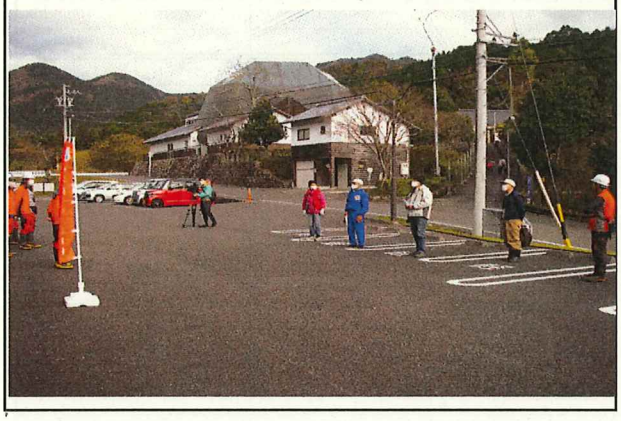


写真９
2日目開会



写真10
座学

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市

事業名	森と木材のふれあい事業（森の講座）

積算資料（計画参考資料）

作業内容		単位	数量	単価	金額	備考
受講者指導に係る人件費		人	14.00	12,000	168,000	
受講者に係る経費		一式			57,000	
事前準備に係る費用		人	14.00	12,000	168,000	
事務局経費		一式			60,000	
消費税					45,300	
事業費					498,300	
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
受講者指導（チェーンソーメンテナンス・間伐等）に係る人件費	1日目	人	7.00	12,000	84,000	
	2日目	人	7.00	12,000	84,000	
	計		14.00	12,000	168,000	
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
受講者に係る費用	受講者用テキスト	冊	10.00	1,000	10,000	
	燃料・オイル等消耗品	一式			2,000	
	資材消耗費	一式			45,000	
	計				57,000	
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
事前準備に係る費用	間伐地事前準備費用	人	14.00	12,000	168,000	7人×2日
	計				168,000	
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
事務局経費	間伐地借用費等	一式			60,000	
	計				60,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	亀山市

番号	事　業　名				
3	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）				
事　業　費	1,008,338　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,000,000		8,338

1. 事業の目的

地域の宝である「地域資源（森林等）」をみんなで守るため、多様な主体が森林とふれあう場を創出し次世代につなげる。

2. 事業実績概要

【事業内容】

地域や市民団体が取り組むイベントや講座、行政が取り組む森林や農地、自然の保全活動等に参加・協力するとともに、協議会独自にイベントや講座などを開催する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

鈴鹿川等源流の森林づくり協議会

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

・加太地区の自然を感じてみよう！　開催場所：東海自然歩道（板屋～加太不動滝）、森林公園やまびこ（加太地区）令和2年11月22日(日)
・シイタケ菌打ち体験　開催場所：里山公園みちくさ　令和2年12月6日(日)
・クリスマスリースづくり体験　開催場所：林業総合センター（加太地区）令和2年12月12日(土)
・親子でしめ縄作り　開催場所：石水渓野外研修施設（野登地区）令和2年12月22日(日)
・クッブ体験とシイタケの菌打ち　開催場所：鈴鹿峠自然の家（坂下地区）令和3年1月23日(土)
・自然体験（どんぐり植栽・シイタケ菌打ち）　開催場所：安坂山町地内（野登地区）令和3年3月27日（土）　　合計イベント6回開催

【事業量】

・加太地区の自然を感じてみよう！：東海自然歩道（板屋～加太不動滝）の散策とシイタケの菌打ちにより森の恵みを感じる
・シイタケ菌打ち体験：県林業研究所職員によるキノコのお話しを聞き、森の恵みを感じる。
・クリスマスリースづくり体験：山林などで採取した自然の素材を使ったリースづくり体験
・親子でしめ縄作り：地域の素材等を利用したしめ縄作り
・クッブ体験とシイタケの菌打ち：市産材（杉・桧）で作ったクッブの体験とシイタケの菌打ちにより森の恵みを感じる
・自然体験：どんぐりの苗木を植樹し、実のなる木を育てる。シイタケの菌打ちを行い、みんなで栽培をする。
野菜を育てるための畑などの整備　　【　イベント6回開催　】

【事業実施期間】

令和２年４月１６日～令和３年３月２７日

【受益者、参加者、利用者数等】

・加太地区の自然を感じてみよう！：子ども10人　大人21人　計31名
・シイタケ菌打ち体験：子ども25人　大人14人　計39名
・クリスマスリースづくり体験：子ども20人　大人14人　計34名
・親子でしめ縄作り：子ども24人　大人16人　計40名
・クッブ体験とシイタケの菌打ち：子ども11人　大人14人　計25名
・自然体験（どんぐりの植樹・シイタケの菌打ち）：子ども7人　大人26人　計33名

3.有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

鈴鹿川等源流の森林づくり協議会役員会にて協議し実施箇所を決定した。

【事業実施により得られた効果】

産・学・官・民にて構成する協議会がイベントを開催したことで、多種多様な方々が参加した。
参加者が森林の大切さを学んだことで参加者以外の方々に伝えることができた。

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	亀山市

番号	事　業　名				
3	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）				
事　業　費	1,008,338　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,000,000		8,338

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】
施設整備ではなく、該当しない。
【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】
参加者から森林に対する関心が深まり森林の大切さが分かったとの声を多くいただいた。

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
森林づくり協議会の事業費に負担金として支出。
【実施方法の選定理由】
森林づくり協議会に参画している、坂下・加太・野登（まちづくり協議会）の各地区で開催することを協議会総会にて決定している。
【契約方法と落札率または補助率等】
負担金のため該当しない。
【契約相手方の選定理由】
鈴鹿川等源流の森林づくり構想を実現するための事業を実施する協議会を選定。
【事業費の積算根拠】
協議会総会議案書により積算。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
様々な講座を開催し、広く市民に参加を呼びかけたことで、幅広い年代が参加できる内容となった。
【公的関与の必要性】
広く県民に森林環境教育・木育に関する取組を推進するため。
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
公共施設や東海自然歩道での開催にため、転用が想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	イベント開催内容を掲載し周知
のぼり設置	実施中	イベント開催時にのぼり旗にてPR
TV（行政チャンネル等）	実施後	加太地区の自然を散策しよう！をZTV（じもトピ）令和2年11月23日放送
学校だより等掲載	実施後	園だよりに開催内容を掲載し県民税を周知した
その他	実施後	7月22日中日新聞、11月23日、12月13日、12月22日、1月25日伊勢新聞に記事掲載
広報誌掲載	実施後	広報かめやま7月16日号、11月16日号、12月1号、1月1日号、3月1日号に告知掲載
啓発物品配布	実施中	受講者に啓発物品等を配付し周知に努めた

7. 写真

別添のとおり

8. その他特記事項

第5回サマーフォレストinやまびこ（加太川の生き物を調べてみよう！）開催場所：森林公園やまびこ　令和2年8月8日（土）子ども47名、大人25名　計67名にて開催するところ、新型コロナウイルス感染者が県内過去最多を更新したためイベント開催を見送った。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市
事業名	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）		

7. 写真

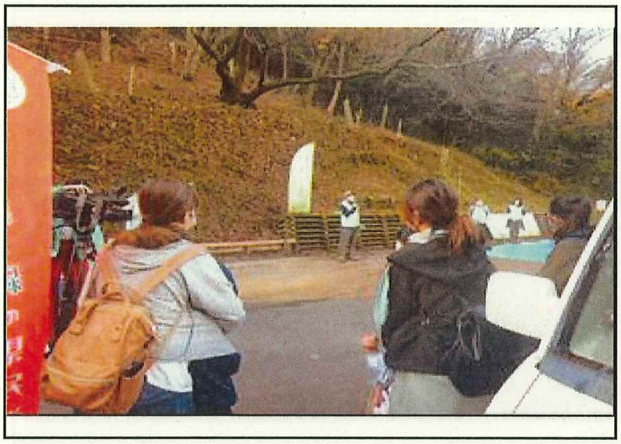


写真1
加太地区の自然を感じてみよう！（東海自然歩道）11月22日

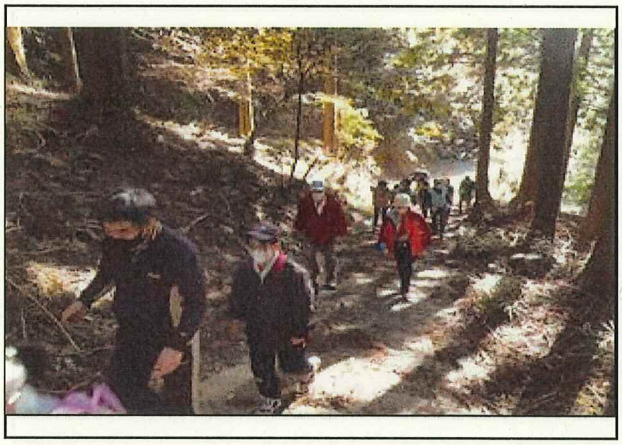


写真2
加太地区の自然を感じてみよう！（東海自然歩道）11月22日



写真3
加太地区の自然を感じてみよう！（シイタケ菌打ち体験）11月22日

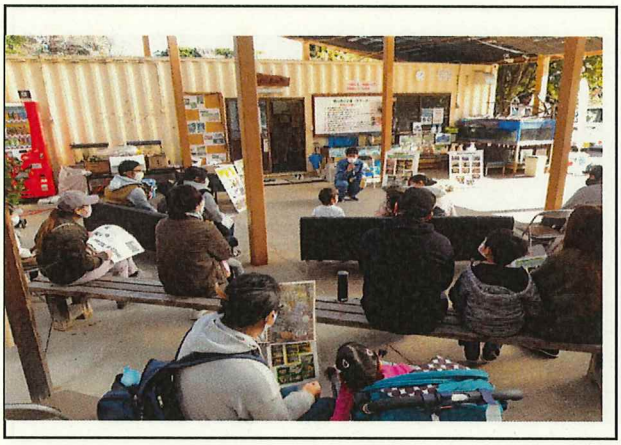


写真4
キノコの菌打ち体験（キノコのお話）12月6日

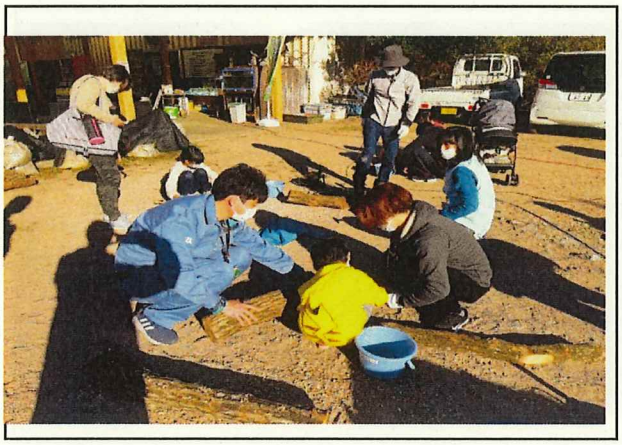


写真5
キノコの菌打ち体験（菌打ち）12月6日

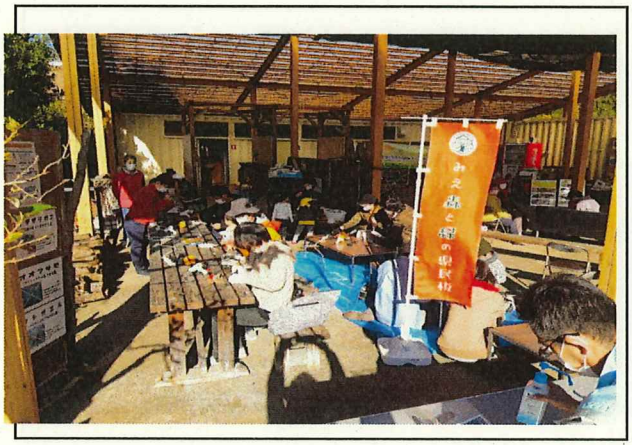


写真6
キノコの菌打ち体験（木の実工作）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市
事業名	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）		

7. 写真



写真1
クリスマスリースづくり体験（森林の話）12月12日



写真2
クリスマスリースづくり体験（リースづくり）12月12日



写真3
クリスマスリースづくり体験（集合写真）12月12日

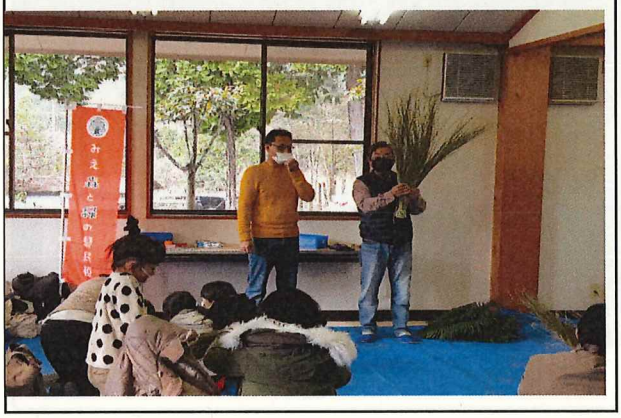


写真4
しめ縄づくり（作り方説明）12月22日



写真5
しめ縄づくり（作り中）12月22日



写真6
しめ縄づくり（集合写真）12月22日

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市

事業名	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）

7. 写真



写真1
クッブ体験　1月23日



写真2
クッブ体験　1月23日



写真3
クッブ体験（キノコの菌打ち）　1月23日



写真4
どんぐり苗木植樹及び菌打ち体験　3月27日



写真5
どんぐり苗木植樹及び菌打ち体験　3月27日



写真6
どんぐり苗木植樹及び菌打ち体験　3月27日

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	亀山市

事業名	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）

積算資料（計画参考資料）

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
加太地区の自然を感じてみよう！（東海自然歩道の散策とシイタケの菌打ち）		式			491,149	
シイタケ菌内体験（12月6日）		式			13,252	
クリスマスリースづくり体験（12月12日）		式			63,063	
しめ縄づくり（12月22日）		式			45,958	
クップ体験とシイタケ菌打ち体験（1月23日）		式			168,484	
第5回サマーフォレストinやまびこ		式			18,400	
自然体験（どんぐりの植樹・シイタケ菌打ち）3月27日		式			208,032	
					1,008,338	
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
加太地区の自然を感じてみよう！（東海自然歩道の散策とシイタケの菌打ち）	杉クリップボード	枚	20.00	3,500	70,000	税抜
	スタッフベスト	枚	70.00	3,900	273,000	税抜
	キーホルダーチェーン	袋	1.00	1,200	1,200	税抜
	椎茸菌コマ	袋	3.00	2,200	6,600	
	したけ原木	本	150.00	500	75,000	税抜
	軍手	一式		1,892	1,892	
	菌打用キリ	個	15.00	830	12,450	
	コロナ対策用品	一式		3,761	3,761	
	救急セット	一式		2,326	2,326	
	イベント保険	一式			3,000	
	消費税				41,920	
	計				491,149	
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
シイタケ菌内体験（12月6日）	原木印用ハイマッキー	箱	2.00	1,518	3,036	
	軍手	一式		2,236	2,236	
	椎茸菌コマ	袋	1.00	2,200	2,200	
	椎茸菌コマ(不足のため追加)	袋	1.00	2,780	2,780	
	イベント保険	一式			3,000	
	計				13,252	
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
クリスマスリースづくり体験（12月12日）	リース装飾品	一式			42,467	
	軍手	一式			900	
	素材色付けスプレー	一式			6,696	
	講師謝金	人	1.00	10,000	10,000	
	イベント保険	一式			3,000	
	計				63,063	
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
しめ縄づくり（12月22日）	ニッパー	本	9.00	110	990	
	剪定ばさみ等	一式			1,210	
	しめ縄材料	一式			24,185	
	施設使用料	一式			6,600	
	講師謝金	人	1.00	10,000	10,000	
	イベント保険	一式			3,000	
	計				45,985	
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
クップ体験とシイタケ菌打ち体験（1月23日）	クップ	セット	2.00	15,950	31,900	
	菌コマ	袋	3.00	2,200	6,600	
	菌打ちキリ	本	5.00	830	4,150	
	しいたけ原木	本	150.00	500	75,000	税抜
	クップ体験用品	一式			20,834	
	イベント保険	一式			2,500	
	講師謝金	人	2.00	10,000	20,000	
	消費税				7,500	
	計				168,484	

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	亀山市

事業名	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）					
作業内容	名　　称	単位	数量	単価	金額	備　　考
第5回サマーフォレストinやmびこ	魚網	本	10.00	998	9,980	
	水生生物採取水槽	個	15.00	298	4,470	
	筆記用具（鉛筆等）	一式			3,950	
	計				18,400	

作業内容	名　　称	単位	数量	単価	金額	備　　考
自然体験（どんぐりの植樹・シイタケ菌打ち）3月27日	看板（木製）	一式			32,032	
	植樹苗木	本	30.00	1,430	42,900	
	鍬	本	10.00	1,480	14,800	
	釘抜	本	10.00	1,530	15,300	
	木製パズル（啓発品）	個	225.00	440	99,000	
	イベント保険	一式			4,000	
	計				208,032	

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	亀山市

番号	事　業　名				
4	森と木材のふれあい事業（木とふれあう）				
事　業　費	1,280,718　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,271,050		9,668

1. 事業の目的

園児たちが、日頃から木材や木製品にふれられる環境をつくり、木への親しみや木の文化への理解を深めて、木材の良さや利用の意義を学ぶ。

2. 事業実績概要

【事業内容】

各園で必要な園児たちが遊べる木製玩具などの導入や遊具の組み立てなどを行う。のこぎりや金づちなどの道具を使う体験を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

亀山市

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

亀山市立亀山東幼稚園：11月4日開催、亀山市立みなみ保育園：12月16日開催、亀山市立加太保育園：令和3年2月16日開催

【事業量】

亀山市立亀山東幼稚園：鳥の巣箱20個、洋服掛けハンガー３台、テント骨組み収納箱２台、おたよりラック３台
亀山市立みなみ保育園：テーブル３台、お片付け棚１台、ちびイス12台　亀山市立加太保育園：やぐら１台

【事業実施期間】

令和２年４月17日～令和３年2月16日

【受益者、参加者、利用者数等】

木とふれあう　参加者数合計45 名（亀山東幼稚園19名、みなみ保育園20名、加太保育園6名）他保護者など

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

森と木材のふれあい事業（木とふれあう）の趣旨等について園長会で説明。要望のあった園を対象に、開催スケージュール（順番）を決定。

【事業実施により得られた効果】

園児たちが製品をつくり、自らふれる環境をつくったことで、木への親しみが深まり、木材の良さや利用の意義が学べた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

各園が日常管理を行う。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

園から工作した作品にふれることで木に親しむきっかけとなったとの声をいただいた。

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	亀山市

番号	事　業　名				
4	森と木材のふれあい事業（木とふれあう）				
事　業　費	1,280,718 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,271,050		9,668

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

見積合わせにより製作者を決定。また、杉材は亀山市産材、桧材は県産材を使用するよう指定。

【実施方法の選定理由】

市内に登録があり、杉材は亀山市産材、桧材は県産材を使用して工作キット化できる業者をすべて選定。

【契約方法と落札率または補助率等】

契約方法：随意契約（見積り）　落札率：100%

【契約相手方の選定理由】

複数社の見積りを徴収し予算の範囲内で実施。

【事業費の積算根拠】

見積りによる積算。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

工作した作品を毎年入園してくる園児たちが活用する。

【公的関与の必要性】

広く市民に森林環境教育・木育に関する取組みを推進するため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

各園で適正に管理していく。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	木とふれあう開催後に内容を掲載
のぼり設置	実施中	木とふれあう開催時にのぼり旗にてPR
ロゴマーク掲示(ｼｰﾙ・ﾌﾟﾚｰﾄ等)	実施後	工作作品に県民税焼印ロゴ押印し来園者にPR
学校だより等掲載	実施後	園だよりに開催内容を掲載し県民税を周知した
広報誌掲載	実施後	広報かめやま12月1号に掲載
TV（行政チャンネル等）	実施後	ZTVコミュニティチャンネルじもトピ放送
TV（行政チャンネル等）	実施後	ZTVマイタウンかめやま放送
啓発物品配布	実施中	保護者や園児に啓発物品（パンフ含む）配付し周知に努めた

7. 写真

別添のとおり

8. その他特記事項

園の希望どおりにキットを製作したが、コロナ禍で密を避け、また、短時間で終わらせるために一部のキットについて職員などで組み立てた。加太保育園で組み立てた「やぐら」は、お楽しみ会（2月6日）終了後に、園児、保護者、及び、職員で防腐剤を塗った。　※市の事業として「わくわく木工工作を2回開催し県民税（交付金を活用していません）をPRした。

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市
事業名	森と木材のふれあい事業（木とふれあう）		

7. 写真



写真1
森のお話

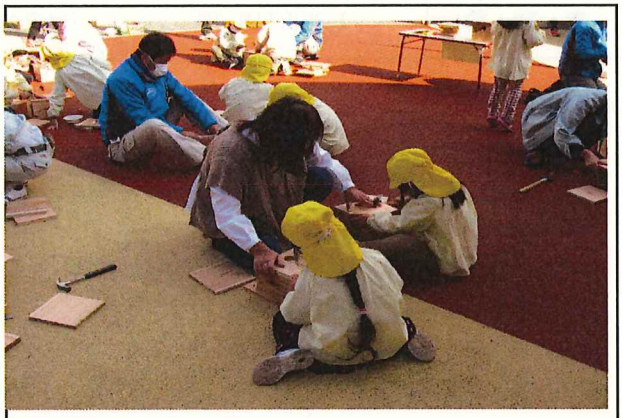


写真2
鳥の巣箱作り

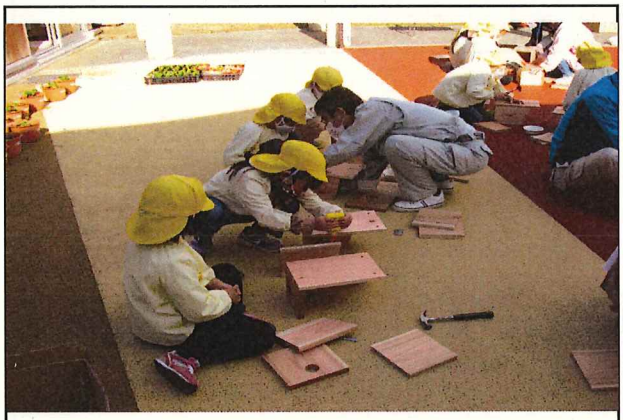


写真3
鳥の巣箱作り



写真4
記念撮影

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市

事業名	森と木材のふれあい事業（木とふれあう）

7. 写真

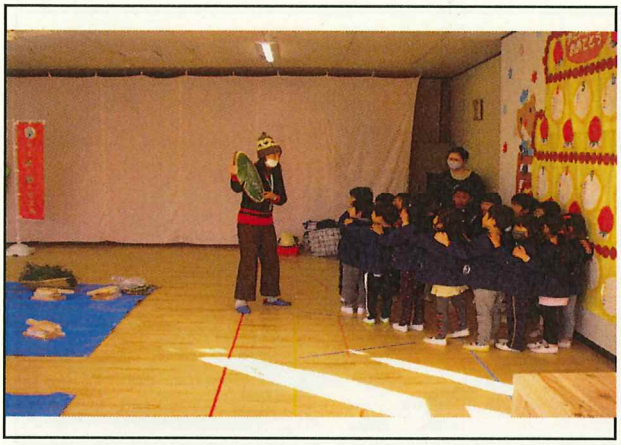


写真５
森のお話

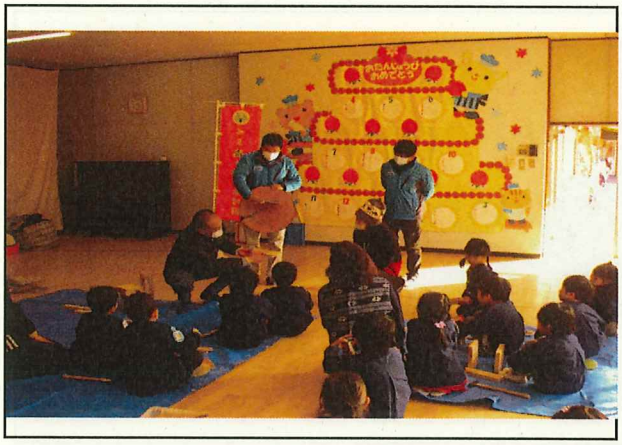


写真６
作り方の説明



写真７
ちびイス作り（釘打ち）



写真８
工作中

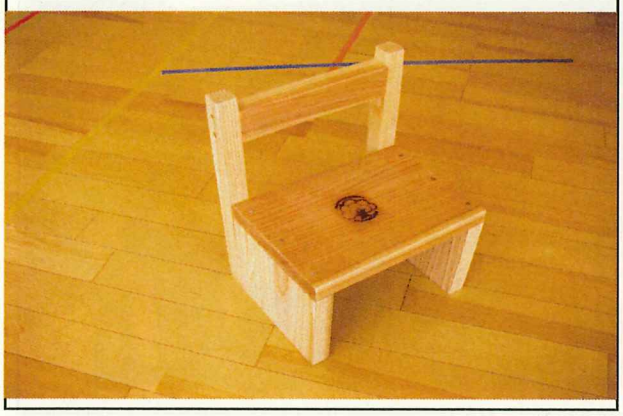


写真９
完成

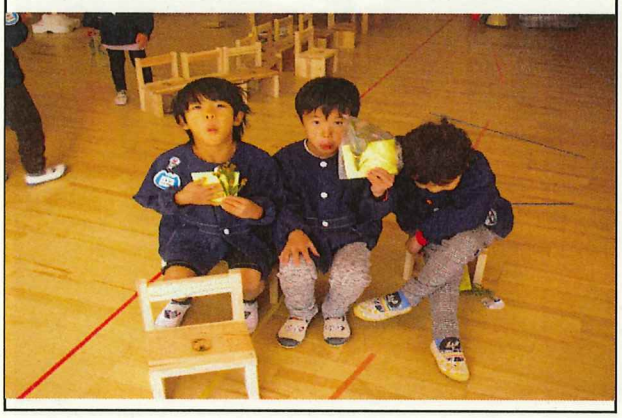


写真10
完成

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市
事業名	森と木材のふれあい事業（木とふれあう）		

7. 写真

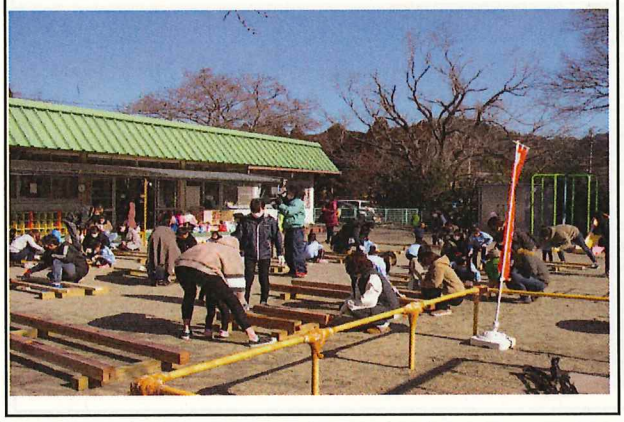


写真11
親子で防腐剤塗（2月6日）

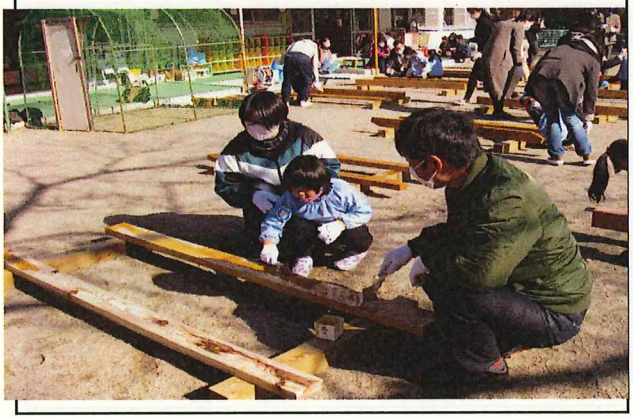


写真12
親子で防腐剤塗（2月6日）



写真13
組立作業（2月16日）



写真14
組立作業（2月16日）

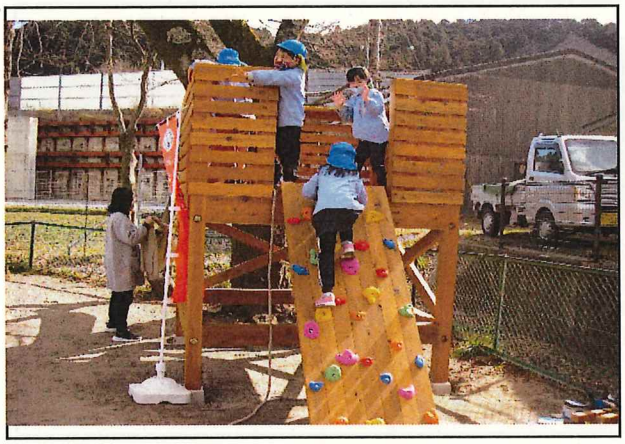


写真15
完成（2月16日）

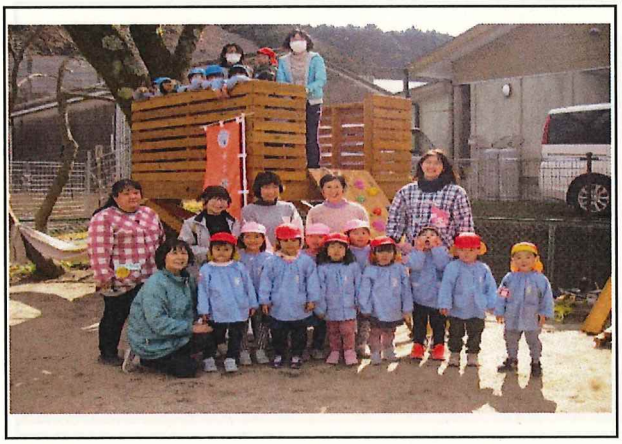


写真16
完成（2月16日）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	亀山市

事業名	森と木材のふれあい事業（木とふれあう）

積算資料（計画参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
亀山東幼稚園木工工作キット作製費	一式			463,650	税込
みなみ保育園木工工作キット製作費	一式			312,400	税込
加太保育園木工工作キット製作費他	一式			496,049	税込
わくわく木工工作	一式			8,619	税込
事業費				1,280,718	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
木工工作キット作製費(亀山東幼稚園)	鳥の巣箱	個	20.00	4,200	84,000	
	洋服掛けハンガー	台	3.00	25,500	76,500	
	テント骨組み収納箱	台	2.00	49,500	99,000	
	おたよりラック	台	3.00	54,000	162,000	
	消費税				42,150	
	計				463,650	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
木工工作キット作製費（みなみ保育園）	ちびイス	台	12.00	2,500	30,000	
	テーブル	台	3.00	58,000	174,000	
	お片付け棚	台	1.00	80,000	80,000	
	消費税				28,400	
	計				312,400	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
木工工作キット作製費（加太保育園）	やぐら	一式	1.00	450,000	450,000	税抜
	コーチスクリュー	個	4.00	45	180	税込
	セメント	袋	1.00	869	869	税込
	消費税				45,000	
	計				496,049	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
わくわく木工工作	アイボルト（6㎜）	個	21.00	198	4,158	
	ナチュラルバルブボウル	袋	5.00	148	740	
	ドリル5.2㎜	本	1.00	928	928	
	テーパー下穴錐	本	1.00	868	868	
	ステンレススクリュー釘	箱	1.00	1,925	1,925	
	計				8,619	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	亀山市

番号	事　業　名				
6	森林環境教育・木育が行える場の整備				
事　業　費	700,920　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			685,650		15,270

1. 事業の目的

森林環境教育や木育を行っている「森林公園やまびこ」の施設整備等を行うことで、森林とふれあい、体感できる学びの場の利用者の増加を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

森林公園やまびこは、開設後10年が経過し、施設の老朽化が進んでいる。この施設を今後も森林環境教育の場として活用していくために、新たに休憩場所等の設置や八橋の補修を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

亀山市

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

亀山森林公園やまびこ

【事業量】

八橋補修：約36m

【事業実施期間】

令和２年４月17日～令和３年２月14日

【受益者、参加者、利用者数等】

・まちのきこり人育成講座　14名・東海自然歩道を散策してみませんか　参加者31名

・加太保育園　園児26名（月１回利用）・その他来場者数　約1,200名

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

子どもから大人まで安心・安全して施設を利用することができる。また、森林環境教育、木材にふれあう場や緑に親しむ環境を提供できるため、利用者数の増加が見込める。

【事業実施により得られた効果】

整備した森林公園で、森の講座を開催するなど、森林教育の場として活用したり、森林とふれあう場として、近くの加太保育園の園児をはじめ、多くの市民に利用されている。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

整備したことで子どもから大人まで安全・安心して施設を利用することができる。また、森林づくり協議会や市が開催するイベントにて森林環境教育を行う。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

老朽化している八橋を整備したことで定期的に活用している加太保育園から安心して利用できるとの声を頂いている。今後も引き続き老朽化の部分を直して欲しいと言われてるため整備を行う。

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	亀山市

番号	事　業　名				
6	森林環境教育・木育が行える場の整備				
事　業　費	700,920 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			685,650		15,270

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

見積合わせにより購入先を決定。また、杉材は亀山市産材、桧材は県産材を使用するよう指定。

【実施方法の選定理由】

市内に登録があり、杉材は亀山市産材、桧材は県産材を使用できる業者を選定。

【契約方法と落札率または補助率等】

契約方法：随意契約（見積り）　落札率：100%

【契約相手方の選定理由】

複数社の見積りを徴収し、もっとも安価だった業者を選定した。

【事業費の積算根拠】

見積りによる積算。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

老朽化している施設を整備することで来場者が安全・安心して利用できる。

【公的関与の必要性】

広く市民に森林環境教育・木育に関する取組みを推進するため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市が管理する施設であり転用はない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	整備後に内容を掲載
ロゴマーク掲示(ｼｰﾙ・ﾌﾟﾚｰﾄ等)	実施後	ロゴマーク焼印

7. 写真

別添のとおり

8. その他特記事項

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市
事業名	森林環境教育・木育が行える場の整備		

7. 写真

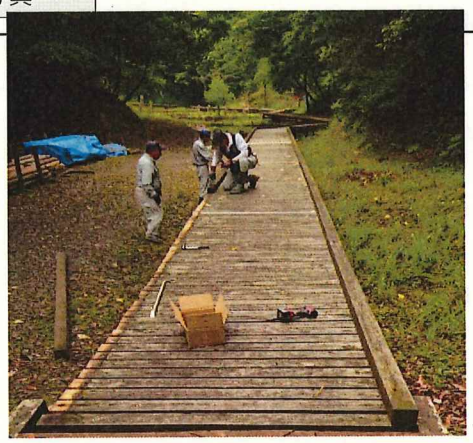


写真1
交換前6月17日



写真2
交換後（20m）6月17日～9月10日



写真3
交換前2月13日

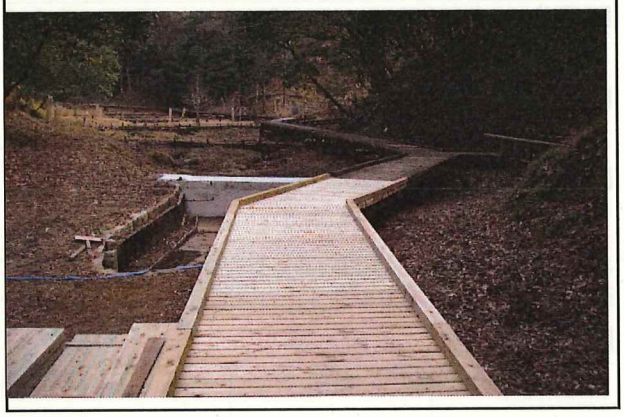


写真4
交換後（8m）2月13日

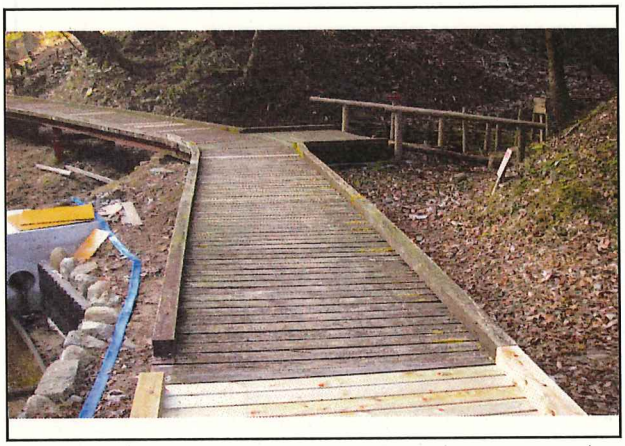


写真5
交換前2月14日

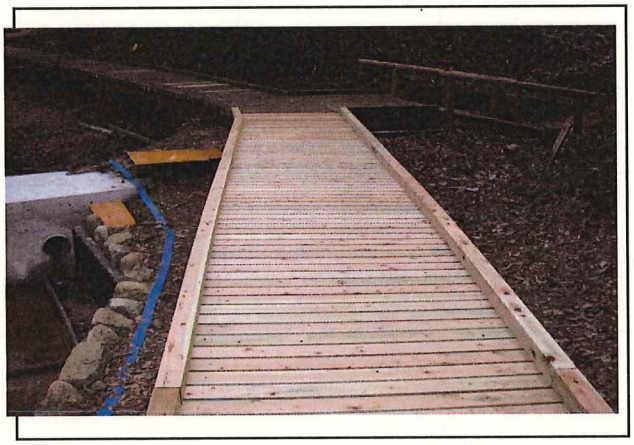


写真6
交換後（8m）2月14日

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市

事業名	森林環境教育・木育が行える場の整備

7. 写真



写真７
ロゴマーク（焼印）



写真８
ロゴマーク（焼印）



写真９



写真10



写真11
完成

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	亀山市

事業名	森林環境教育・木育を行える場の整備

積算資料（計画参考資料）

作業内容		単位	数量	単価	金額	備考
八橋補修用		一式			296,076	
遊歩道整備用		一式			49,500	
八橋補修用		一式			152,724	
八橋補修用		一式			199,320	
八橋補修用ビス		箱			3,300	
	事業費				700,920	
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
八橋補修用	桧　90×90×4000	本	75.00	3,120	234,000	
	杉　50×150×4000	本	12.00	2,930	35,160	
	消費税				26,916	
	計				296,076	
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
遊歩道整備用	自然木丸杭	本	200.00	225	45,000	
	消費税				4,500	
	計				49,500	
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
八橋補修用	桧　90×90×4000	本	7.00	3,120	21,840	
	桧　90×90×3000	本	50.00	2,340	117,000	
	消費税				13,884	
	計				152,724	
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
八橋補修用	桧　90×90×4000	本	6.00	3,120	18,720	
	杉　50×150×4000	本	6.00	2,900	17,400	
	桧　90×90×3000	本	62.00	2,340	145,080	
	消費税				18,120	
	計				199,320	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
八橋補修用ビス	Wカットビス	箱	1.00	3,000	3,000	
	消費税				300	
	計				3,300	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

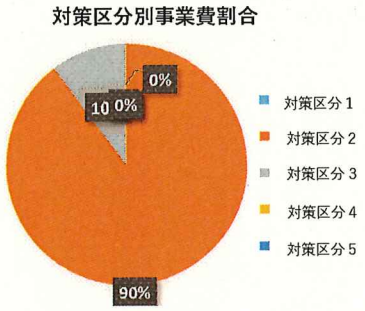
いなべ市

第１６号様式（評価委員会資料）

令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業　市町別総合評価シート

１．基礎情報

市町名	いなべ市	三重県
人口（人）	45,345	1,782,190
年少人口割合（%）＊1	12.3%	12.4%
森林面積(ha)	12,808.21	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	11,738.79	348,833.49
森林率(%)	58.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	8.1	10.1



＊１：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊２：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊３：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

２．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分１	対策区分２	対策区分３	対策区分４	対策区分５	基金積立
1	2	危険木の除去事業	3,298,790	3,298,790		3,298,790				
2	2	危険木の除去事業（主要道路）	12,554,300	6,000,000		6,000,000				
3	3	中学校卒業記念品配布事業	871,750	871,750			871,750			
4	3	森林環境教育支援事業	191,869	191,869			191,869			
6		みえ森と緑の県民税市町交付金基金積立事業	536,591	536,591						536,591
計			17,453,300	10,899,000	0	9,298,790	1,063,619	0	0	536,591

３．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量（ha・m）	事業費（円）	内交付金充当額（円）	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

４．事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	木のぬくもりに触れる機会を作り、身近な森林について目を向けてもらう。 豊富な森林資源を活用し、自然と調和した環境づくりを目指す。
事業実施により得られた効果	住民自らが危険木除去の要望をすることで、身近な危険木の認識とその除去についての意識向上につながった。 また、間伐材を活用した箸の配布を行うことで、森林資源の活用と日常的に木に触れる機会を作り出すことが出来た。
情報発信への取組	市HPにおいてみえ森と緑の県民税の概要を伝えるとともに、本事業の事業効果を写真とともにわかりやすくPRしている。また、中学校卒業記念品配布事業では、生徒にはメッセージカードを配布し、県産材を利用する大切さを伝えている。

＊評価の参考として、別紙「森林環境譲与税事業の実績」を添付すること。

（参考資料）

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

事業番号	事業カテゴリー	事業費	
		（円）	内、譲与税
1	⑰ 基金積立（森林整備等）	15,552,000	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	15,552,000	0

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	いなべ市

番号	事　業　名				
2	危険木の除去事業				
事　業　費	3,298,790　円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,298,790		

1. 事業の目的

意欲ある自治会には危険木除去のための補助メニューを用意し、自治会単位で取り組むことにより、通学路や人家裏等きめ細かな森林整備が行える。

2. 事業実績概要

【事業内容】

意欲ある自治会に対し、危険木の除去についての補助メニューを用意する。特殊機材については市内業者から借り入れてもらい、補助の対象とする。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

いなべ市

【補助率等】

100%

【箇所数】

いなべ市内19自治会内61箇所

【事業量】

61箇所

【事業実施期間】

令和２年４月１日～令和３年２月28日

【受益者、参加者、利用者数等】

市内61箇所の地区住民

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

自治会等の地元住民の要望による。

【事業実施により得られた効果】

市内全域において、広く住民が感じる危険木の除去を行うことが出来た。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

今後も自治会等の管理により森林機能を継続させていく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

幅広く危険木の除去に対する機械リースの補助が受けられるため、利用しやすく継続して事業を行いやすい。従来事業では対応できず、自己資金では対応が難しいため継続してもらいたい。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	いなべ市

番号	事　業　名				
2	危険木の除去事業				
事　業　費	3,298,790　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			3,298,790		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

補助

【実施方法の選定理由】

市内全域について、よりきめ細かな危険木の除去をするため。

【契約方法と落札率または補助率等】

100%

【契約相手方の選定理由】

要望による。

【事業費の積算根拠】

補助金　61件　（計 3,298,790円）

補助対象経費　高所作業車、クレーン、ダンプ、枝葉破砕機等

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

伐採箇所周辺住民約6,500人

【公的関与の必要性】

道路支障木の他、住民生活の支障となる木竹の伐採における費用の負担が難しく、放置されている現状の中、幅広く危険木を除去し、周辺住民の生活の安全を確保するものであり、公的関与の必要性がある

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

なし。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	ＨＰを活用し、周知する。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	いなべ市

事業名	危険木の除去事業

7. 写真

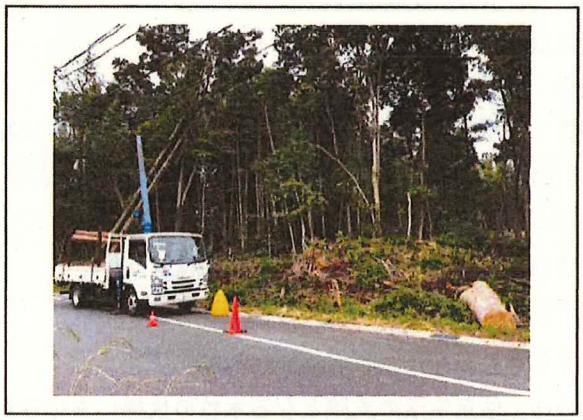
（参考）

作業前写真

大安町石榑東
字下島ヶ原1928-2
（その６）
約250m2
８本



作業中写真



作業完了後写真



（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	いなべ市

事業名	危険木の除去事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
機械リース料金					見積もりによる
事業費					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	いなべ市

番号	事　業　名				
2	危険木の除去事業（主要道路）				
事　業　費	12,554,300 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			6,000,000		6,554,300

1. 事業の目的

交通量の多い幹線道路及び自治会要望による集落内の主要道路沿いの樹木枝葉が道路に覆いかぶさっており、通行に支障を及ぼしているため、伐採し除去することにより市民の安心・安全に寄与する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

幹線市道や集落内の主要道路沿いの現に通行の支障となっている危険木について、放置すると通行に著しく支障がありかつ緊急な対応が必要であると判断され、自治会等では実施することが困難である道路沿いの危険木について伐採作業を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

いなべ市

【補助率等】

補助事業ではなく該当しない。

【箇所数】

７路線

【事業量】

７路線

【事業実施期間】

令和３年２月～令和３年３月

【受益者、参加者、利用者数等】

伐採路線利用周辺住民約　15000人、大手自動車製造企業２社

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

自治会及び大手自動車製造企業の要望及び交通量等から、主要道路管理者である市が実施箇所を選定。

【事業実施により得られた効果】

市内全域において、悪天候時等に通行に支障となりかねないと住民が感じる危険木の除去を行うことが出来た。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

今後も自治会等の管理により森林機能を継続させていく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

従来から危険と感じていたところについて、安全な通行ができるようになった。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	いなべ市

番号	事業名				
2	危険木の除去事業（主要道路）				
事業費	12,554,300 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			6,000,000		6,554,300

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託

【実施方法の選定理由】

市が要望を受けた箇所について市の直営で発注するため。

【契約方法と落札率または補助率等】

契約方法は請負契約、落札率は北勢町0.887、員弁町0.906、大安町1.000

【契約相手方の選定理由】

一般競争入札

【事業費の積算根拠】

三重県公共工事共通仕様書等による。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

交通量が多く、地域の経済活動及び災害時の緊急輸送等にとって重要な幹線道路について、円滑な通行環境が確保できた。

【公的関与の必要性】

道路沿いの森林を含め、森林については本来所有者が管理するのが原則ではあるが、多くの森林の所有者について、所有意識が薄く、高齢化しているため管理されないまま放置されているのが現状である。このまま放置すれば、県民の安全な生活及び経済活動に著しく支障をきたすため市が関与する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

なし。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	ＨＰを活用し、周知する。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市

事業名	危険木の除去事業（主要道路）

7. 写真



写真1
実施箇所①（着工前）



写真2
実施箇所①（着工後）



写真3
実施箇所②（着工前）

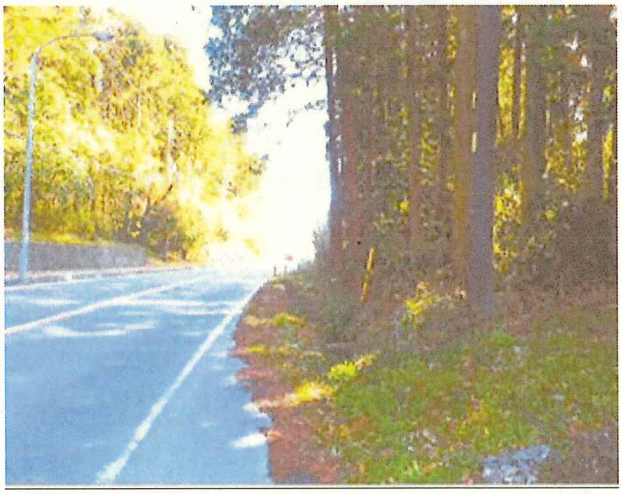


写真4
実施箇所②（着工後）

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市

事業名	危険木の除去事業（主要道路）

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
北勢町分	式	1.00		2,075,700	内県民税992,027円
員弁町分	式	1.00		5,940,000	内県民税2,838,868円
大安町分	式	1.00		4,538,600	内県民税2,169,105円
事業費				12,554,300	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	いなべ市

番号	事業名				
1	中学校卒業記念品配布事業				
事業費	871,750 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			871,750		

1. 事業の目的

県民税の基本方針である『県民全体で森林を支える社会づくり』のなかの『森を育む人づくり』の一環として、いなべ市産材を利用して木製箸の製作配布を行う。

中学校の卒業記念として、箸という肌で触れるもので『木の良さ』を子どもたちに知ってもらう機会とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

原木調達・加工作業は、【認定林業事業体（佐藤林業）】に委託する。箸製作は【いなべ自然楽校】に委託する。箸入れ袋製作・製品梱包作業は、【いなべ市障害者活動支援センター】に委託する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

いなべ市

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

いなべ市内各中学校（北勢中学校、員弁中学校、大安中学校、藤原中学校：計4校）の卒業生を対象に配布。

【事業量】

中学校卒業生を配布対象にした箸製作。（箸500膳・箸袋500袋を製作。）

【事業実施期間】

令和２年７月～令和３年２月

【受益者、参加者、利用者数等】

配布先は市内中学校卒業生500名

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

中学校を卒業し、昼食等弁当を持参する機会も増えると思われる。その中で使用が見込める箸を通じて、木の良さと木材（いなべ市産材）の利用意識を実感してもらうため。

【事業実施により得られた効果】

いなべ市においては多くの保育所が木質化されているため幼少期から木と触れ合う機会は多く、また小学校入学後も森林環境教育支援事業も行っている。さらに中学生を対象とした当該事業により、毎日使用する箸から木のぬくもりを感じてもらうことができる。幼少期～中学校卒業までの一連の流れが出来上がっているといえ、森林に対する多面性、有用性についての意識の醸成に役立っている。

また箸に利用した木材は、佐藤林業（認定林業事業体）がいなべ市内の市有林で作業した間伐材（杉）であり、間伐材の有効利用に繋がる。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

施設整備等でなく、該当しない。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

卒業記念品として定着してきており、期待されている。

教員からの声として、「市の資源に直接触れられる機会は貴重。実際に使用している生徒もいるので継続してもらいたい。」とのこと。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	いなべ市

番号	事業名				
1	中学校卒業記念品配布事業				
事業費	871,750 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			871,750		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託

【実施方法の選定理由】

原木調達・素材加工については市内唯一の林業事業体である佐藤林業に、箸製作についてはいなべ市内の地域資源を活用した取り組みを行っている市民団体の【いなべ自然楽校】へ、箸袋製作については社会的貢献度を踏まえて障がい者施設に委託した。

【契約方法と落札率または補助率等】

随意契約

【契約相手方の選定理由】

上記の選定理由のとおり

【事業費の積算根拠】

原木調達・加工費　297,000円（委託料）委託先：佐藤林業
箸製作費　275,000円（委託料）委託先：いなべ自然楽校
箸袋制作費　299,750円（委託料）委託先：いなべ市障害者活動センター
計事業費　871,750円

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

毎年中学校卒業生を対象としており、受益対象は年々増加している。

【公的関与の必要性】

卒業記念品を配布することにより、生徒が三重の木に触れる機会をつくり、森林の大切さを伝える森林環境教育活動であり、公的関与は必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	ＨＰを活用し、周知する。
チラシ等配布	実施後	メッセージカードの配布を行う。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市

事業名	中学校卒業記念品配布事業

7. 写真



写真1
原木調達



写真2
箸製作



写真3
完成品



写真4
受け取り時の様子

（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	いなべ市

事業名	中学校卒業記念品配布事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
原木調達・加工	式	1.00	297,000	297,000	
箸製作	式	1.00	275,000	275,000	
箸袋製作・袋詰め	式	1.00	299,750	299,750	
事業費					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
原木調達・加工	原木調達・加工	式	1.00	297,000	297,000	
	計		1.00	297,000	297,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
箸製作	箸製作	式	1.00	275,000	275,000	
	計		1.00	275,000	275,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
箸袋製作・袋詰め	箸製作・袋詰め	式	1.00	299,750	299,750	
	計		1.00	299,750	299,750	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	いなべ市

番号	事　業　名				
4	森林環境教育支援事業				
事　業　費	191,869 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			191,869		

1. 事業の目的

森林への意識が全国的に低下している中で、森林への意識を少しでも高めるべく、小学生を対象とした森林環境教育を支援する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市内小学校において森林環境教育にかかる費用を負担する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

いなべ市

【補助率等】

直営

【箇所数】

１箇所

【事業量】

５年生３回、６年生４回

【事業実施期間】

令和２年４月１日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

市立阿下喜小学校児童 ６年生30人、５年生28人 計58人

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

以前から森林環境教育への関心が高く、それについての要望があったため。

【事業実施により得られた効果】

体験を通して、木の重要性や里山保全の意義を十分に感じてもらうことができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

無し

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

体験学習として非常に有用であり今後も引き続き支援してもらいたいとのこと。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	いなべ市

番号	事業名				
4	森林環境教育支援事業				
事業費	191,869 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			191,869		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

直営

【実施方法の選定理由】

学校が求める授業内容を実現するため。

【契約方法と落札率または補助率等】

100%

【契約相手方の選定理由】

市内において森林環境教育に関する実績がある関係者。

【事業費の積算根拠】

別紙積算根拠のとおり。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

授業参加生徒が対象であり毎年対象者が替わることで高い公益性があると考える。

【公的関与の必要性】

学校教育であり、公的関与は不可欠である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

なし。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	ＨＰを活用し、周知する。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	3．森を育む人づくり

市町名	いなべ市

事業名	森林環境教育支援事業

7．写真



写真1
森の健康診断（5年生）



写真2
里山講座①（2年生）



写真3
里山講座②（2年生）



写真4
組子体験①（5，6年生）



写真5
組子体験②（5，6年生）

写真6

写真6

（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	いなべ市

事業名	森林環境教育支援事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
授業経費	式	1.00		191,869	
事業費		1.00		191,869	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
授業経費	消耗品費				54,365	
	通信運搬費	通	6.00	84	504	
	報償費	人	8.00		137,000	講師ごとに3,000～10,000円/回
	計				191,869	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

木曽岬町

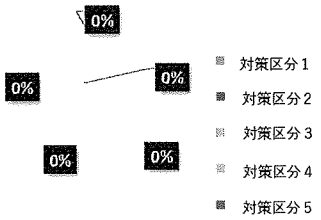
第１６号様式（評価委員会資料）

令和2年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業　市町別総合評価シート

１．基礎情報

市町名	木曽岬町	三重県
人口（人）	6,151	1,782,190
年少人口割合（%）＊1	9.7%	12.4%
森林面積(ha)	0.00	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	0.00	348,833.49
森林率(%)	0.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	11.0	10.1

対策区分別事業費割合



＊１：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊２：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊３：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

２．　令和2年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分１	対策区分２	対策区分３	対策区分４	対策区分５	基金積立
1	2	みえ森と緑の県民税市町交付金基金積立事業	15,349,000							15,349,000
計			15,349,000	0	0	0	0	0	0	15,349,000

３．　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量（ha・m）	事業費（円）	内交付金充当額（円）	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

４．事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	当初、中学校での森林環境教育事業や、社会福祉施設の改修工事が予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止や、計画方針の変更により県民税は活用しないこととなりました。また、令和元年より発生したクビアカツヤカミキリの被害に対処するため、令和３年度から「暮らしを守る緑保全事業」に取り組めるよう基金積立を行いました。
事業実施により得られた効果	—
情報発信への取組	今年度において、実施した事業はありませんでしたが、みえ森と緑の県民税活用事例を紹介するパネル展示を通年実施しているほか、県民税の制度内容を周知するポスターの掲示やリーフレットを配架して情報発信に取り組みました。

＊評価の参考として、別紙「森林環境譲与税事業の実績」を添付すること。

（参考資料）

令和２年度森林環境譲与税事業の実績

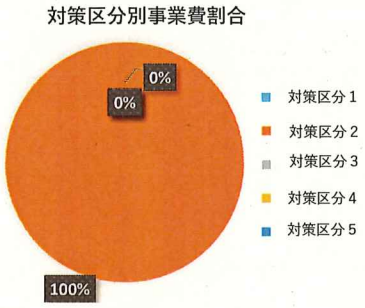
事業番号	事業カテゴリー	事業費	
		(円)	内、譲与税
1	⑲ 基金積立（木材利用等）	240,000	240,000
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	240,000	240,000

東員町

令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業　市町別総合評価シート

１．基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

市町名	東員町	三重県
人口（人）	25,538	1,782,190
年少人口割合（%）＊1	13.2%	12.4%
森林面積(ha)	177.13	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	177.13	348,833.49
森林率(%)	8.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	15.7	10.1



＊１：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊２：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊３：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

２．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分１	対策区分２	対策区分３	対策区分４	対策区分５	基金積立
1	2	みえ森と緑の県民税市町交付金事業（危険木伐倒等業務）	1,481,700	1,462,000		1,462,000				
2	4	みえ森と緑の県民税市町交付金積立事業	5,000,000	5,000,000						5,000,000
計			6,481,700	6,462,000	0	1,462,000	0	0	0	5,000,000

３．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

４．事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	平成26年度に実施した危険木の調査に基づき、人家裏や通学路沿いなどで、これまで整備が進みにくく荒廃が進んでいる緑地帯や森林地帯を対象として、倒木になる恐れのある危険木の除去・間伐を計画的に行い安心・安全なまちづくりを図る。
事業実施により得られた効果	森林環境の保全及び地域住民の意識の醸成が図られた。現地（民家裏等）での調査や作業の際、県民税や事業について詳細に説明する機会が多く、好意的な反応を示していただき、県民税への理解及び森林への関心を高めることができた。
情報発信への取組	工事看板に「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」にて実施していることを表記。また、自治会への施工周知回覧に事業の概要についても掲載。 その他、町のＨＰ・広報誌に事業の成果を掲載し、県民税を活用し事業を実施した旨を周知。

（参考資料）

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

事業番号	事業カテゴリー	事業費	
		（円）	内、譲与税
1	⑬ 木造公共建築物の整備等	2,338,000	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	2,338,000	0

第７号様式（その２）

令和２ 年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	東員町

番号	事業名				
1	みえ森と緑の県民税市町交付金事業（危険木伐倒等業務）				
事業費	1,481,700 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,462,000	0	19,700

1. 事業の目的

暮らしに身近な森林を整備することにより、生活環境の保全や向上を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

人家裏や通学路沿いなどで、これまで整備が進みにくく荒廃が進んでいる緑地帯や森林地帯を対象として、倒木になる恐れのある危険木の除去・間伐を行った。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

東員町

【補助率等】

該当なし

【箇所数】

東員町笹尾東一丁目・笹尾西一丁目地内

【事業量】

危険木伐倒　　20本

【事業実施期間】

令和２年９月23日 ～ 令和２年12月23日

【受益者、参加者、利用者数等】

周辺住民（約730戸（西330戸・東400戸）　約1800人）

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

住宅地周辺において平成２６年度に実施した危険木の調査に基づき計画的に伐採等を行っている。また、地域や住民要望等により現地調査の結果、危険と判定した危険木も対象としている。

【事業実施により得られた効果】

森林環境の保全及び地域住民の意識の醸成が図られた。現地（民家裏等）での調査や作業の際、県民税や事業について詳細に説明する機会が多く、好意的な反応を示していただき、県民税への理解及び森林への関心を高めることができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

再び荒廃が進まないよう町において適切な管理を行う。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

地域住民からは、危険木が撤去された状況に大変喜んでいただき、感謝の声を直接いただくこともあります。また、この県民税を活用した事業について周辺住民に十分認知されたことから、要望をいただく機会も増加しています。

令和２ 年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	東員町

番号	事　業　名				
1	みえ森と緑の県民税市町交付金事業（危険木伐倒等業務）				
事　業　費	1,481,700 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,462,000	0	19,700

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託

【実施方法の選定理由】

経験及び資機材が豊富である業者に業務委託を締結することで、安全かつ円滑に事業が実施できるため。

【契約方法と落札率または補助率等】

一般競争入札、見積競争による随意契約

平均落札率　　61.80％

【契約相手方の選定理由】

一般競争入札、見積競争による随意契約の最低価格者

【事業費の積算根拠】

３社見積による最低価格を採用した伐倒単価、剪定単価。なお、単価には伐倒、剪定の作業費と持ち出しにかかる運搬費、再資源化を含む処分費をすべて含む。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

整備した森林は、町管理の緑地帯であり、町全体として受益があるため。

【公的関与の必要性】

整備した森林は歩道や民家に面しており、倒木の危険性がある樹木については、あらかじめ伐倒しておくことにより事故の防止、また、火災発生時の隣家への延焼防止につながり、周辺住民の安全・安心な生活の確保が見込まれるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

当該森林は引き続き町が管理するため、転用等は想定されていない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施前・中	みえ森と緑の県民税を活用した事業である標識を設置
回覧板・掲示板	実施前	みえ森と緑の県民税を活用した事業であるリーフレットを回覧

【情報発信の内容】

工事看板に「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」にて実施していることを表記。また、自治会への施工周知回覧に事業の概要についても掲載。その他、町のＨＰ・広報誌に事業の成果を掲載し、県民税を活用し事業を実施した旨を周知。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	東員町

事業名	みえ森と緑の県民税市町交付金事業（危険木伐倒等業務）

7. 写真

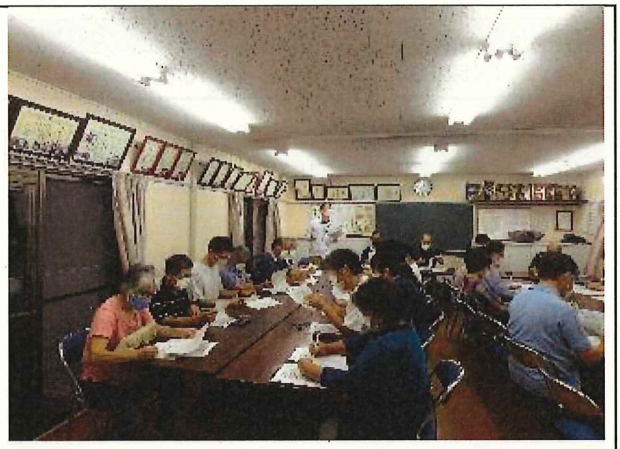


写真1
地元説明会

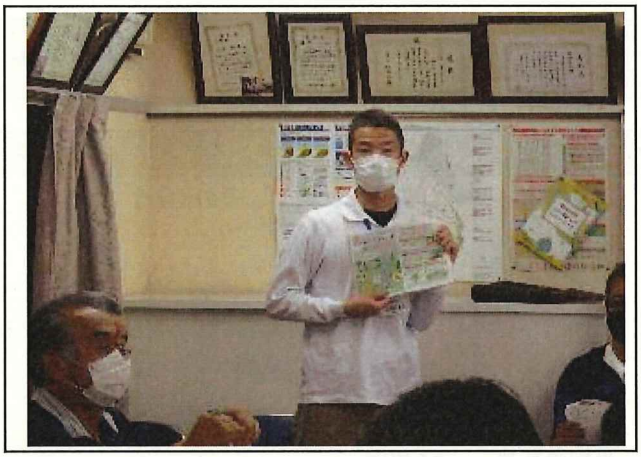


写真2
地元説明会



写真3
施工前



写真4
施行後

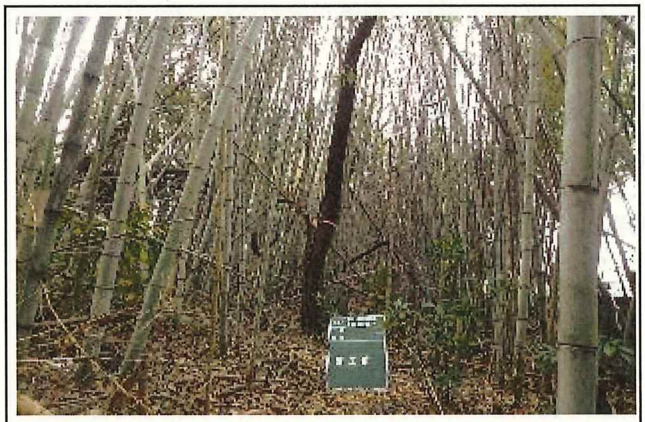


写真5
施工前



写真6
施行後

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	東員町

事業名	みえ森と緑の県民税市町交付金事業（危険木伐倒等業務）

7. 写真



写真7
検査



写真8
検査



写真9
検査



写真10
検査



写真11
看板

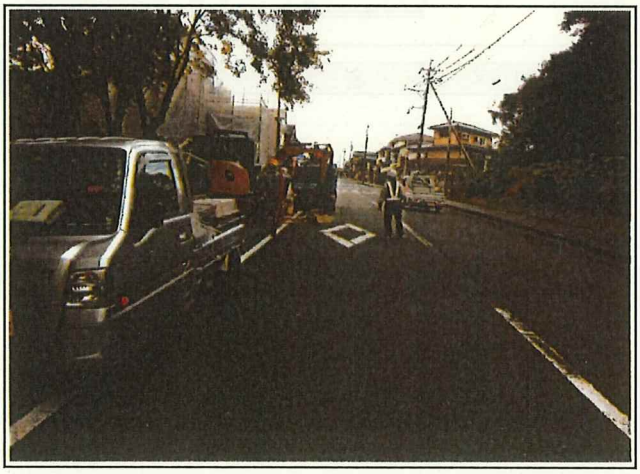


写真12
周辺状況

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	東員町

事業名	みえ森と緑の県民税市町交付金事業（危険木伐倒等業務）

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
危険木伐倒	本	20.00		1,481,700	平均落札率 61.80%
事業費	本	20.00		1,481,700	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
みえ森と緑の県民税市町交付金事業危険木伐倒等業務	当初契約	本	11.00		715,000	落札率 51.88%
	変更契約（追加発注分）	本	3.00		179,300	
	計	本	14.00		894,300	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
みえ森と緑の県民税市町交付金事業危険木伐倒等業務（その２）	当初契約	本	5.00		440,000	落札率 89.69%
	変更契約（追加発注分）	本	1.00		147,400	
	計	本	6.00		587,400	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

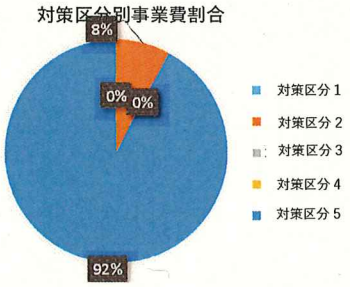
菰野町

第１６号様式（評価委員会資料）

令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業　市町別総合評価シート

１．基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

市町名	菰野町	三重県
人口（人）	40,463	1,782,190
年少人口割合（%）＊1	14.2%	12.4%
森林面積(ha)	5,348.67	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	5,272.74	348,833.49
森林率(%)	50.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	4.3	10.1



＊１：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊２：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊３：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

２．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分１	対策区分２	対策区分３	対策区分４	対策区分５	基金積立
1	2	病虫害被害木伐採搬出事業	1,568,600	746,000		746,000				
2	2	危険樹木事前伐採事業	1,158,577	289,645		289,645				
3	5	菰野富士ふるさとの山環境整備事業	30,107,000	12,180,623					12,180,623	
計			32,834,177	13,216,268	0	1,035,645	0	0	12,180,623	0

３．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業	0.08	1,158,577	289,644	小島地内16本伐採

４．事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	菰野町では、「災害に強い森林づくり」及び「県民全体で森林を支える社会づくり」を推進するという「みえ森と緑の県民税」の趣旨に則り、「災害に強い森林づくり」では防災・減災の観点から病虫害被害により倒木の危険が高まっている危険木を伐採する事業を行い、「県民全体で森林を支える社会づくり」では菰野町民にとって身近な山である菰野富士を活用し、バリアフリー木道を設置し、誰もが森林と緑に親しむことのできる環境整備を行い、自然体験や自然学習を通じて自然とのふれあいを深めるため整備を行っている。
事業実施により得られた効果	公共の道路に倒木の可能性がある危険木を事前伐採することにより、通行者に対する安全の確保及び電線断線の危険の排除ができた。また、病虫害による被害拡散を防止することができた。
情報発信への取組	伐採作業時はのぼり旗を使うことにより、みえ森と緑の県民税を使って作業していることを通行者にPRした。また、町のホームページで事業報告を行う。菰野富士の現場では、さらに立て看板を設置することにより、PRを行っている。

（参考資料）

令和２年度森林環境譲与税事業の実績

事業番号	事業カテゴリー	事業費	
		（円）	内、譲与税
1	⑦ その他（森林整備）	178,640	178,640
2	⑰ 基金積立（森林整備等）	8,303,360	8,303,360
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	8,482,000	8,482,000

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	２．暮らしに身近な森林づくり

市町名	菰野町

番号	事　業　名				
1	病虫害被害木伐採搬出事業				
事　業　費	1,568,600　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			746,000	0	822,600

１．事業の目的

菰野町内において、病虫害被害により公共の道路へ倒木の恐れがある樹木の伐採を行い、住民の生命や財産を守ることを目的にする。

また、病虫害被害木を伐採することにより被害の拡散防止に努める。

２．事業実績概要

【事業内容】

国道、県道及び町道沿道から20m以内の病虫害による松枯れやナラ枯れ被害木の伐採、搬出、処理に対して助成を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

森林を維持管理する団体及び所有者。

【補助率等】

対象経費は伐採費、搬出費、処分費とし、交付率は対象経費の50/100（補助上限額は１本当たり100千円）。

【箇所数】

町内全域　合計５個所

【事業量】

病虫被害木４３本の伐採、搬出、処分

【事業実施期間】

令和２年４月～令和３年３月

【受益者、参加者、利用者数等】

約2,000世帯　6,000人程度

３．有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

土地所有者からの申出により、現地を確認し、選定を行う。

【事業実施により得られた効果】

公共の道路に倒木の可能性がある危険木を事前伐採することにより、通行者に対する安全の確保及び電線断線の危険の排除ができた。また、病虫害による被害拡散を防止することが出来た。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

森林所有者に適切な森林管理を引き続きお願いしている。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

危険木を伐採するにあたり、補助が出ることによって土地所有者が危険木を伐採する決断に繋がった。また、区長からは区民の通行の安全が確保でき、助かったとの意見があった。

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	菰野町

番号	事　業　名				
1	病虫害被害木伐採搬出事業				
事　業　費	1,568,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			746,000	0	822,600

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
補助事業
【実施方法の選定理由】
森林の所有者が責任を持って行うべきものであると考えるため。
【契約方法と落札率または補助率等】
実施主体である森林所有者に選定してもらう。
【契約相手方の選定理由】
実施主体である森林所有者に選定してもらう。
【事業費の積算根拠】
見積もりによる。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
地元住民等が通行する生活道路であり、多くの地元住民が受益できる取組である。
【公的関与の必要性】
所有者の責ですべきことであるが、地元住民の安全な生活環境に関わる取組であるため公的な関与が必要である。
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施前・中・後	事業実施中において、施行箇所においてのぼりを設置しPRを実施。
HP掲載	実施後	当該年度の活動について、HPにて広報を行った。
啓発物品配布	実施前・中・後	窓口及び森林活動団体（緑の少年隊等）の活動時において啓発物品を配布。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	菰野町

事業名	病虫害被害木伐採搬出事業

7. 写真



写真1
病虫害被害木　伐採前①



写真2
病虫害被害木　伐採後①



写真3
病虫害被害木　伐採前②



写真4
病虫害被害木　伐採後②



写真5
病虫害被害木　伐採中PR①



写真6
病虫害被害木　伐採中PR②

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	菰野町

事業名	病虫害被害木伐採搬出事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
三区共有土地管理会①	式	1.00	143,000	143,000	14本
田口新田区	式	1.00	221,100	221,100	1本
三区共有土地管理会②	式	1.00	71,500	71,500	3本
二区共有土地管理会	式	1.00	880,000	880,000	24本
個人	式	1.00	253,000	253,000	1本
事業費				1,568,600	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
三区共有土地管理会①	伐採人件費	人・日	2.00	30,000	60,000	
	伐採補助人件費	人・日	3.00	20,000	60,000	
	諸経費	式	2.00	5,000	10,000	
	消費税				13,000	10%
	計				143,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
田口新田区	重機運搬	回	2.00	20,000	40,000	
	重機OP	式	1.00	30,000	30,000	
	運搬ダンプ	車	2.00	15,000	30,000	
	機材レンタル	式	1.00	21,000	21,000	
	諸経費	式	1.00	80,000	80,000	
	消費税				20,100	10%
	計				221,100	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
三区共有土地管理会②	人件費	人・日	2.00	25,000	50,000	
	搬出処分費	式	1.00	10,000	10,000	
	諸経費	式	1.00	5,000	5,000	
	消費税				6,500	10%
	計				71,500	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
二区共有土地管理会	枯木伐採・積込	本	24.00	15,000	360,000	
	クレーン使用	式	1.00	43,000	43,000	
	高所作業車使用	式	1.00	20,000	20,000	
	伐採木運搬・処分	式	1.00	320,000	320,000	
	重機回送・法定福利費等	式	1.00	87,680	87,680	
	調整				-30,680	
	消費税				80,000	10%
	計				880,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
個人	一般世話役	人	1.00	23,000	23,000	
	普通作業員	人	5.00	18,000	90,000	
	処理運搬工	式	1.00	50,000	50,000	
	高所作業車	日	1.00	25,000	25,000	
	諸経費	式	1.00	42,000	42,000	
	消費税				23,000	10%
	計				253,000	

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	菰野町

番号	事　業　名				
2	危険樹木事前伐採事業				
事　業　費	1,158,577　円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			289,645	0	868,932

1. 事業の目的

菰野町内において、台風等の災害により電線等のライフラインに倒木の恐れがある樹木の事前伐採を行い、ライフラインの保護及び住民の生命や財産を守ることを目的にする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

台風等の災害時、電線等のライフラインに倒木等により被害の出る恐れがある樹木を事前に伐採等をする。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

菰野町

【補助率等】

ライフライン事業者が事業費の２分の１、三重県が事業費の４分の１、菰野町が事業費の４分の１を負担し作業を行う。

【箇所数】

小島地内 １箇所

【事業量】

0.08ha内において14本

【事業実施期間】

令和２年６月～令和３年３月

【受益者、参加者、利用者数等】

小島地内1,482戸

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

ライフライン事業者からの申出により、菰野町災害からライフラインを守る事前伐採推進協議会において決定。

【事業実施により得られた効果】

台風等の災害によりライフラインに倒木の恐れがある樹木の伐採を行うことにより、災害時のライフラインに与える被害を減少させることができる。また、道路の通行車両及び人の安全が確保され、景観もよくなる。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

森林所有者に適切な森林管理を引き続きお願いしている。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

危険木を伐採したことにより、災害時のライフラインに与える影響を減少させることができた。区長からは区民のライフラインの安全が確保でき、安心できるとの意見があった。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	菰野町

番号	事　業　名				
2	危険樹木事前伐採事業				
事　業　費	1,158,577　円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			289,645	0	868,932

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
委託

【実施方法の選定理由】
専門的な技術を要するため

【契約方法と落札率または補助率等】
伐採業務：指名競争入札（落札率60.41％）
搬出処分：見積合わせによる随意契約

【契約相手方の選定理由】
菰野町競争入札参加資格者名簿（業務委託）において、業務品目「清掃－屋外清掃－伐採」で登録があり、かつ所在地が町内（朝上・竹永地区）にある業者のうち、町発注の同種業務の実績を有する者。

【事業費の積算根拠】
設計による。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
地元住民等のライフラインを守る取り組みであり、多くの地元住民が受益できる。

【公的関与の必要性】
土地所有者の責ですべきことであるが、地元住民の安全な生活環境に関わる取組であるため公的な関与が必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
当事業による伐採は、ライフラインへの影響範囲のみの伐採であり、転用及び目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施前・中・後	事業実施中において、施行箇所においてのぼりを設置しPRを実施。
HP掲載	実施後	当該年度の活動について、HPにて広報を行った。
啓発物品配布	実施前・中・後	窓口及び森林活動団体（緑の少年隊等）の活動時において啓発物品を配布。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	2．暮らしに身近な森林づくり	市町名	菰野町
事業名	危険樹木事前伐採事業		

7．写真



写真1
伐採前全景



写真2
伐採後全景



写真3
伐採状況



写真4
のぼり及びロゴによるPR①



写真5
のぼり及びロゴによるPR②



写真6
ロゴによるPR

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	菰野町

事業名	危険樹木事前伐採事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
危険樹木事前伐採業務委託	式	1.00	768,900	768,900	14本
危険樹木伐採木搬出処分委託	式	1.00	330,000	330,000	14本
立木補償費	式	1.00	59,677	59,677	16本（2名）分
					↑伐採にあたり障害になる２本含む
事業費	式	1.00	-	0	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計				0	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計				0	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計				0	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計				0	

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	菰野町

番号	事　業　名				
3	菰野富士ふるさとの山環境整備事業				
事　業　費	30,107,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			7,733,355	4,447,268	17,926,377

1. 事業の目的

身近でなじみのある菰野富士において、誰もが森林と緑に親しむことのできる環境整備を行い、自然体験や自然学習を通じて自然とのふれあいを深める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

森林と緑の中を誰もが散策できるバリアフリー木道の遊歩道等を整備し、森林の中での癒し、健康づくりのための自然とのふれあいゾーンを創出する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

菰野町

【補助率等】

補助事業でない。

【箇所数】

１個所（菰野富士）

【事業量】

散策道（カラー舗装）整備　L=89.6m(W=2.0m)（防護柵設置）H=1.2m

既整備延長：整備済延長　L=172.6m　一部運用開始した区間　L=129.6m

【事業実施期間】

令和２年６月～令和３年３月

【受益者、参加者、利用者数等】

菰野町観光入込み客数：約255万人

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

菰野富士は標高369mあり富士山そっくりの姿をしている山であり、菰野富士の裾野に広がる高原は昭和58年に朝日新聞社と森林文化協会が広く読者から募った「21世紀に残したい日本の自然100選」に選ばれている。

菰野富士には登山道が整備されており、山頂には石で造られたイスと机も設置されていて山頂からの眺めも良く憩いの場となっている。

桜やツツジの植樹、アジサイの植栽も行っており観光の要所として力を入れている場所である。

その身近な菰野富士において誰もが森林と緑に親しむことのできるよう環境整備を行うため選定した。

【事業実施により得られた効果】

本年度の工事により、平成30年度施工箇所と接続し、令和３年３月から暫定的に供用開始となった。観光客や登山客に利用いただくとともに、企業の森等における森林整備にも活用いただいている。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

障がいがある方にも楽しめる遊歩道とし、多くの観光客を呼び込む憩いの場とする。また、企業の森活動も行われており、町や各種団体が実施する森林ウォークなどの健康づくりや自然観察などの体験型プログラムを活用した利用に資することで森林環境教育に取り組む。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

土地所有者である財産区からは遊歩道の早期開通を求められており期待されている。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	菰野町

番号	事業名				
3	菰野富士ふるさとの山環境整備事業				
事業費	30,107,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			7,733,355	4,447,268	17,926,377

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
請負工事

【実施方法の選定理由】
直営の施設であるため。

【契約方法と落札率または補助率等】
一般競争入札により行った。落札率は87.09％である。

【契約相手方の選定理由】
一般競争入札により、落札額が最低価格の業者であり、くじ引きにより確定。

【事業費の積算根拠】
別紙設計積算の通り。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
施行中であり共用を開始していないが、開始すれば新たな観光場となり、また地元住民も気軽に散策できる場となる。また、バリアフリー遊歩道であるため、障がいがある方にも楽しむことができる。

【公的関与の必要性】
新たな憩いの場を整備する事業であり、公的機関が関与して整備していく必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
町が管理を行うため、転用のおそれはない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施前・中・後	事業実施箇所においてのぼりを設置しPRを実施。
HP掲載	実施後	当該年度の活動について、HPにて広報を行った。
啓発物品配布	実施前・中・後	窓口及び森林活動団体（緑の少年隊等）の活動時において啓発物品を配布。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	菰野町

事業名	菰野富士ふるさとの山環境整備事業

7. 写真



写真1
施工前①

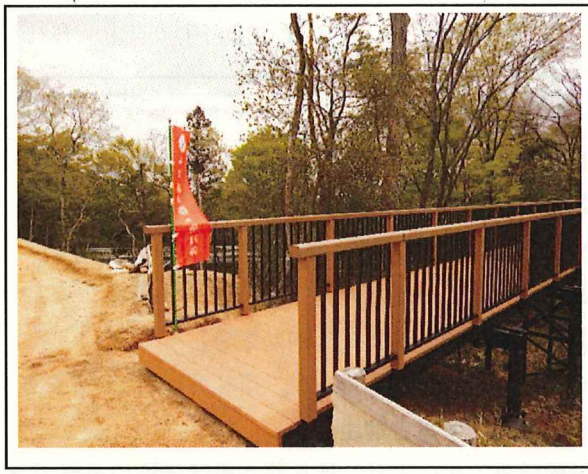


写真2
施工前②

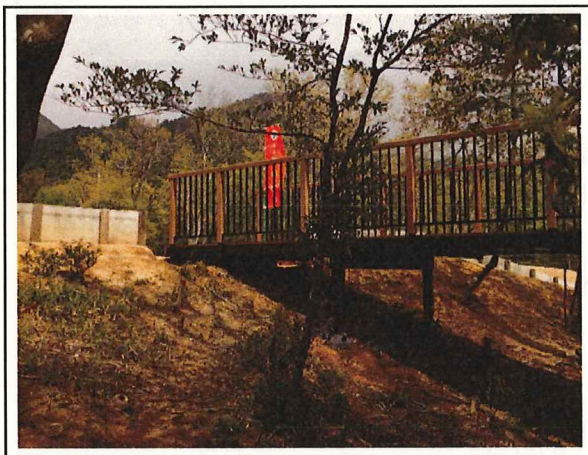


写真3
施工前③



写真4
施工後① 一部運用開始



写真5
施工後② 一部運用開始



写真6
施工後③ 一部運用開始

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	菰野町

事業名	菰野富士ふるさとの山環境整備事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
純工事費	式	1.00	15,961,878	15,961,878	
現場管理費	式	1.00	6,063,000	6,063,000	
一般管理費等	式	1.00	4,235,122	4,235,122	
小計（千円止め）				26,260,000	
落札率	%	87.09	-	22,870,000	千円止め
消費税				2,287,000	
事業費計				25,157,000	
変更契約①				2,823,700	契約変更による追加
変更契約②				2,126,300	契約変更による追加
事業費	式	1.00	-	30,107,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計				0	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計				0	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計				0	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計				0	

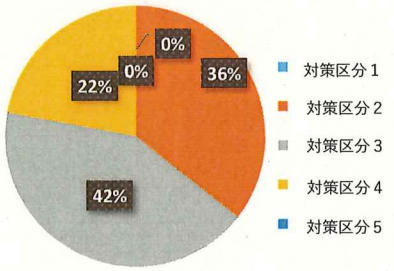
朝日町

令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業　市町別総合評価シート

１．基礎情報

市町名	朝日町	三重県
人口（人）	11,033	1,782,190
年少人口割合（%）＊1	18.9%	12.4%
森林面積(ha)	63	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	63	348,833.49
森林率(%)	11.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	2.1	10.1

対策区分別事業費割合



＊１：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊２：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊３：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

２．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分１	対策区分２	対策区分３	対策区分４	対策区分５	基金積立
1	3	森林環境教育事業（あさひ竹プロジェクト）	2,478,036	2,381,000			2,381,000			
2	4	森と緑とふれあう環境づくり事業（幼保一体化施設）	1,821,600	1,200,000				1,200,000		
3	4	森と緑を大切に思う人づくり事業	44,000	40,000				40,000		
4	2	みえ森と緑の県民税市町交付金積立事業	2,000,000	2,000,000		2,000,000				2,000,000
計			6,343,636	5,621,000	0	2,000,000	2,381,000	1,240,000	0	2,000,000

３．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量（ha・m）	事業費（円）	内交付金充当額（円）	事業概要
流域防災機能強化対策事業	0	0	0	
森林再生力強化対策事業	0	0	0	
災害からライフラインを守る事前伐採事業	0	0	0	

４．事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	当町は町の面積が小さく森林面積も小さいが、森林面積に占める竹林面積割合が約25%となっており、県内一である。また、人口が急増しており年少人口割合が三重県一高い。以上から、当町では竹を活用した事業と年少者やその親を意識した事業を展開している。 また、他の事業（東海道まちなみ整備など）との連携を図り、相乗効果に繋がるよう事業展開をしている。
事業実施により得られた効果	継続事業である幼保一体化施設の緑化、木のおもちゃの購入は例年通り着実に実施し、保護者・保育者の双方において当事業への理解は深まっていると考えられる。 新規事業である竹プロジェクトは、全ての事業でアンケートを実施しており、いずれも事業自体が高評価であるとともに竹・竹林に対する認識が深まったとの回答が多数であった。また、町がこのような事業を実施していると広まったことから、竹林に対して問題意識を感じている方々から直接様々な声が寄せられることとなり、今後、有志による竹林整備団体の組成に向けて候補者となり得る方々とのネットワークができつつある。
情報発信への取組	継続事業である幼保一体化施設の緑化、木のおもちゃの購入については例年通り看板、備品への焼き印、ホームページ等でみえ森を使った取組であることを周知した。 新規事業である竹プロジェクトは、「竹あかり」という視覚効果の高い事業を中心に据えつつ、町民みんなで取り組んでいくというコンセプトを軸に、メディアに対し戦略的に情報提供を行った結果、地元ローカルCATVのみならず新聞、ラジオ、NHKに取り上げられ、効果的な情報発信につながった。 また、竹あかりの展示イベントは親子で作った竹あかりの展示の場にする等、子育て世代が主体的に参加するよう工夫した結果、多くの子育て世代の参加があり、インスタグラム等SNSを通じた個人による情報発信にもつながっている。

（参考資料）

令和2年度森林環境譲与税事業の実績

事業番号	事業カテゴリー	事業費	
		（円）	内、譲与税
1	⑰ 基金積立（森林整備等）	992,000	992,000
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	992,000	992,000

令和２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	朝日町

番号	事　業　名				
1	森林環境教育事業（あさひ竹プロジェクト）				
事　業　費	2,478,036　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			2,381,000		97,036

1. 事業の目的

高齢化等により町内で増えつつある放置竹林に関心を向けるきっかけとして、子ども、親子、地域住民に対して竹に触れ、竹を知り、竹を学ぶ機会を提供し、竹に関する知識と理解の促進を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

①子ども、親子、地域住民等による竹あかり制作・展示事業

町主催により、町内の竹を活用し、子ども、親子、地域住民有志、商工団体、役場職員有志等による竹あかりづくりを行った。　具体的には、外注により作成した竹あかりに適したデザインをもとに、地域住民、団体等に対して工具等を貸し出す「①おうちで作ろう！竹あかり」、親子向けのワークショップである「②親子で作ろう！　親子竹あかりづくりワークショップ」により竹あかりを作製した。完成した作品は「③　あさひの竹でまちを灯そう！ Vol.１語らいの広場」で展示した。展示にあたり、写真撮影を外注し、高品質な写真を多くの媒体で活用することで、竹あかりの魅力をより一層広めることにつながった。

②ロゴマーク作成

竹プロジェクトを示すロゴマークを作成し、当プロジェクトの周知に活用した。

※予定していた竹テントづくり事業については、コロナの影響により中止

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

朝日町

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない

【箇所数】

2箇所(保健福祉センター、語らいの広場)

【事業量】

①おうちで作ろう！竹あかり　年間通じ随時受付

②親子で作ろう！　親子竹あかりづくりワークショップ：1回開催

③あさひの竹でまちを灯そう！ Vol.１語らいの広場：1回開催

【事業実施期間】

令和２年４月１日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

①おうちで作ろう！竹あかり：工具貸し出し件数　45件、　作製された竹あかり本数　165本

②親子で作ろう！　親子竹あかりづくりワークショップ：参加親子18組、作製された竹あかり本数　40本

③あさひの竹でまちを灯そう！ Vol.１語らいの広場：来場者約180名、展示された竹あかり本数　約450本

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

・保健福祉センターは施設の機能性・利便性によりワークショップ会場として適当であるため選定

・語らいの広場は別事業である「東海道まちなみ整備事業」により前年度の3月末に改修が完了した施設であり、同施設の周知を図ること、および東海道のまちなみと竹あかりの親和性から選定

令和２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	朝日町

番号	事　業　名				
1	森林環境教育事業（あさひ竹プロジェクト）				
事　業　費	2,478,036 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,381,000		97,036

【事業実施により得られた効果】

いずれの企画も参加者からのアンケート結果は非常によく、森林面積に占める竹林面積割合が極めて高い（約25%:三重県一）特徴がある当町において、子ども、親子、地域住民が竹の魅力に触れることをきっかけに、町内の竹林が荒廃しつつあり様々なトラブルを引き起こしていることなどに対する問題意識を高めることにつながった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

今回購入した工具類については、消耗するものを除き全て今後も竹あかり作成等に活用する。また、今回作成した竹あかり用デザインも同様に今後も引き続き活用する。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

全ての事業でアンケートを実施しており、いずれも事業自体が高評価であるとともに竹・竹林に対する認識が深まったとの回答が多数であった。また、町がこのような事業を実施していると広まったことから、竹林に対して問題意識を感じている方々から直接様々な声が寄せられることとなり、今後、有志による竹林整備団体の組成に向けて候補者となり得る方々とのネットワークができつつある。

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

・委託契約（竹材調達、マーク作成、デザイン作成、記録写真撮影）

・物品購入（工具類）

【実施方法の選定理由】

いずれも専門性の高い業務であり、外部への発注により実施することが妥当であるため

【契約方法と落札率または補助率等】

指名競争入札（竹材調達）【落札率100%】

随意契約（マーク作成、デザイン作成、記録写真撮影、物品購入）【いずれも落札率100%】

【契約相手方の選定理由】

・竹材調達：指名競争入札の結果、最低価格の者と契約した。

・マーク作成、デザイン作成、記録写真撮影：町の規定（10万円以下１者随契可）に基づき１者随意契約とした。

・物品購入：町の規定（80万円以下随意契約可）に基づき、工具が調達可能でかつ工作室スペースを備えていることから1社随意契約とした。

【事業費の積算根拠】

参考見積書を徴収し積算した。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

コロナ禍においても自分の都合に合わせて竹あかりを作製できる「おうちで作ろう！竹あかり」を実施することで、幅広い町民が事業に参加することができた。また、「あさひの竹でまちを灯そう！」も誰もが立ち寄れる場所で開催し、通りがかった方が鑑賞していくケースもあった。

【公的関与の必要性】

竹林の問題は竹林所有者個人の問題となりがちであるが、竹や竹林の魅力に触れ、関心を持つきっかけを行政がつくることで竹林と無関係である人も含めて町全体の問題として捉え、町全体で解決を図る機運醸成につながる。

令和２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	朝日町

番号	事　業　名				
1	森林環境教育事業（あさひ竹プロジェクト）				
事　業　費	2,478,036　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			2,381,000		97,036

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

工具類については今後も引き続き担当課により適切に管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	各イベント開催時に自作の竹製ポールを使ったのぼりを設置
HP掲載	実施前・中・後	竹プロジェクト全体及び令和2年度の事業を伝えるHPを公開
アンケート実施	実施中	各イベント開催時にアンケート実施
広報誌掲載	実施前	広報誌に竹プロジェクト全体及び令和2年度の事業を伝える記事を掲載
チラシ等配布	実施中	各イベント参加者に竹プロジェクトについて伝えるチラシを配布
TV（行政チャン	実施中	地元ローカル局（CCネット）にて事業紹介
その他	実施前・中・後	新聞（中日新聞）、ラジオ（FMみえ）、テレビ（NHK）にて事業紹介

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

アンケート結果を添付　HP記事を添付

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	朝日町

事業名	森林環境教育事業（あさひ竹プロジェクト）

7. 写真



写真1
おうちで作ろう！竹あかり（貸し出しセット）

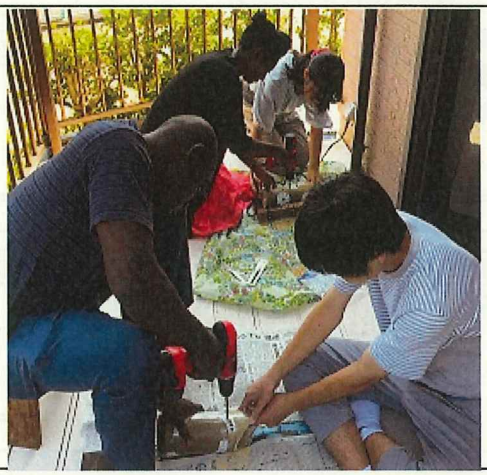


写真2
おうちで作ろう！竹あかり（町民提供：町民宅にて来客のガーナ人と竹あかり作製）



写真3
親子で作ろう！竹あかりづくりワークショップ　会場設置のぼり（手作りの竹製ポール活用）



写真4
親子で作ろう！竹あかりづくりワークショップ



写真5
あさひの竹でまちを灯そう！ Vol.１語らいの広場



写真6
あさひの竹でまちを灯そう！ Vol.１語らいの広場

（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	朝日町

事業名	森林環境教育事業（あさひ竹プロジェクト）

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
工具等購入	式	1.00		960,906	
マーク作成	式	1.00		94,050	
保険料	式	1.00		1,000	
委託料	式	1.00		1,422,080	
事業費				2,478,036	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
工具等購入	竹あかり等作成用備品等	式	1.00		657,358	
	その他消耗品類	式	1.00		303,548	
	計				960,906	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
マーク作成	ロゴマーク作成委託料	式	1.00		94,050	
	計				94,050	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
保険料	親子竹あかりづくりWS参加者保険料	式	1.00		1,000	
	計				1,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
委託料	竹あかり用竹材調達業務	式	1.00		1,301,300	
	竹あかり用デザイン作成業務	式	1.00		99,000	
	竹あかりイベント撮影業務	式	1.00		21,780	
	計				1,422,080	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	４．森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	朝日町

番号	事　業　名				
2	森と緑とふれあう環境づくり事業（幼保一体化施設）				
事　業　費	1,821,600 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,200,000		621,600

1．事業の目的

公共施設（幼保一体化施設）の園庭を緑化することにより、幼児教育の場において園児が緑にふれあい、森や草木を大切にする心を養うための環境をつくる。

2．事業実績概要

【事業内容】

幼保一体化施設（あさひ園）の芝生の維持管理(平成28～30年度みえ森と緑の県民税市町交付金を活用して緑化した芝生)

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

朝日町

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない

【箇所数】

1箇所

【事業量】

芝生面積（あさひ園）　約1,200㎡

【事業実施期間】

令和２年６月８日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

園児数約500名

3．有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

あさひ園は当町唯一の幼保一体施設として町内の乳幼児が多数在籍しており、幼児期からの緑とのふれあいに繋げることができる場所である。

【事業実施により得られた効果】

芝生を維持することで、子どもたちや町民に対して最も身近な緑とのふれあいに繋がっている。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

引き続き緑化を維持し、子どもたちや町民に対して緑に触れる機会を提供していく。また、芝生の上での朗読会など、芝生化されたメリット等を活かした事業を検討していく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

あさひ園の園児や保育士からは芝生で気持ちがいいという声が上がっており、裸足で芝生を走り回るといった光景も見られる。

令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	４．森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	朝日町

番号	事　業　名				
2	森と緑とふれあう環境づくり事業（幼保一体化施設）				
事　業　費	1,821,600　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,200,000		621,600

4．効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

工事請負契約

【実施方法の選定理由】

町有施設の整備であるため

【契約方法と落札率または補助率等】

随意契約（落札率80.6％）

【契約相手方の選定理由】

指名競争入札の結果、最低価格の者と契約した。

【事業費の積算根拠】

参考見積書を徴収し積算した。

5．公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

あさひ園は当町唯一の幼保一体施設として町内の乳幼児が多数在籍しており、幼児期からの緑とのふれあいに繋げることができる場所である。

【公的関与の必要性】

町有施設の整備であるため

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

町有施設の整備であるため、今後も引き続き担当課により適切に管理する。

6．情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	みえ森を活用して芝生整備をしている旨を記載した記事を掲載している
標識・標柱等設置	実施前・中・後	入口付近にみえ森を活用して芝生整備をしている旨を記載した看板を掲示している

7．写真

別紙のとおり

8．その他特記事項

対策区分	４．森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	朝日町

事業名	森と緑とふれあう環境づくり事業（幼保一体化施設）

7. 写真

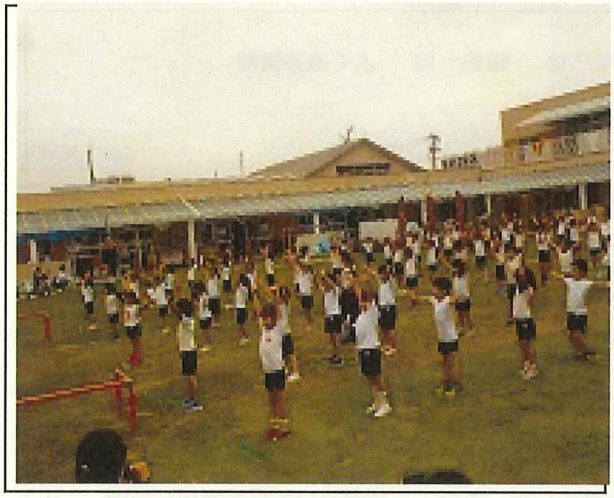


写真1
芝生の活用



写真2
芝生の活用

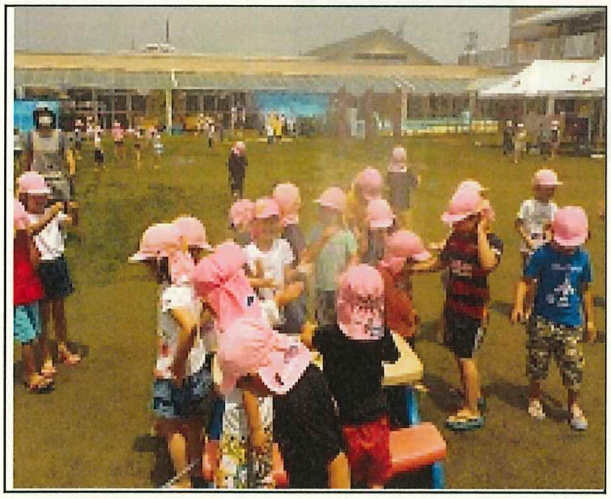


写真3
芝生の散水を手伝う園児

（評価委員会資料）

対策区分	４．森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	朝日町

事業名	森と緑とふれあう環境づくり事業（幼保一体化施設）

7．写真

朝日町 ASAHI TOWN　朝日町について | 各課からのお知らせ | 施設一覧 | よくある質問

トップページ ＞ 各課からのお知らせ ＞ あさひ園 ＞ 令和2年度みえ森と緑の県民税を利用して

令和2年度みえ森と緑の県民税を利用して

更新日：2021年4月28日

あさひ園では「みえ森と緑の県民税」を利用して、園庭の芝生維持管理と木の遊具等を購入させていただきました。

園児自らも芝生の維持を手伝っていただきました。また、三重県産の木材を使用した遊具については大切に使用させていただいております。

<あさひ園の様子>






朝日町野ホームページにおける掲載

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	朝日町

事業名	森と緑とふれあう環境づくり事業（幼保一体化施設）

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
あさひ園園庭芝生維持・修繕工事	式	1.00		1,821,600	
事業費					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
夏芝管理工	刈入工	回	4.00	43,200	172,800	
	施肥工	回	3.00	20,400	61,200	
	エアレーション工	回	2.00	42,000	84,000	
	補植工	㎡	100.00	1,814	181,400	
	補植	㎡	105.00	1,334	140,070	
	鋤取り	㎡	10.00	1,720	17,200	
	トラック運搬	㎡	12.00	2,542	30,504	
	残土処理	㎡	12.00	2,000	24,000	
	計				711,174	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
芝生除草剤散布	薬剤代	回	2.00	54,572	109,144	
	計				109,144	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
その他	安全管理費	式	1.00	326,000	326,000	
	諸経費	式	1.00	509,682	509,682	
	計				835,682	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
消費税	消費税	式	1.00		165,600	
	計				165,600	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	朝日町

番号	事業名				
3	森と緑を大切に思う人づくり事業				
事業費	44,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			40,000		4,000

1. 事業の目的

幼保一体化施設の園児たちに対し幼い頃から木製のおもちゃ等で遊ぶ機会を提供し、木の肌触りや温もりを感じ森林や緑を大切に思う心を育むことにつなげる。

2. 事業実績概要

【事業内容】

あさひ園に県産材を使用した木のおもちゃを配置する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

朝日町

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない

【箇所数】

１箇所

【事業量】

ままごと棚　１基

【事業実施期間】

令和２年11月27日～令和３年１月８日

【受益者、参加者、利用者数等】

園児約500名

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

あさひ園は当町唯一の幼保一体施設として町内の乳幼児が多数在籍しており、幼児期からの緑とのふれあいに繋げることができる場所である。

【事業実施により得られた効果】

遊びを通して木を知るきっかけに繋がっており、「手触りがいい」「匂いが好き」などの声も聞こえており木への親しみの醸成に繋がっている。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

引き続きおもちゃを活用し、子どもたちに対して木に触れる機会を提供していく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

あさひ園の園児たちは木の手触りなどを学びながら木のおもちゃで楽しく遊んでいる。

令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	朝日町

番号	事　業　名				
3	森と緑を大切に思う人づくり事業				
事　業　費	44,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			40,000		4,000

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

物品購入

【実施方法の選定理由】

物品を購入し、設置する事業であるため

【契約方法と落札率または補助率等】

随意契約　落札率１００％

【契約相手方の選定理由】

町の規定（地方自治法施行令第167条の2第1項第2号）に基づき随意契約としており、随意契約にあたっては特注品により1者見積りにより契約した。

【事業費の積算根拠】

参考見積書を基に積算した。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

園児約500名およびその家族への波及効果

【公的関与の必要性】

町有施設に備品設置をする事業であるため

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

あさひ園において適切に管理している。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	みえ森を活用して購入した旨を記載した記事を掲載している
ロゴマーク掲示 (ｼｰﾙ・ﾌﾟﾚｰﾄ等)	実施後	ロゴマークを刻印し、みえ森により購入したことを示している

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	朝日町

事業名	森と緑を大切に思う人づくり事業

7. 写真



写真1
木製おもちゃ（ままごと棚）



写真2
ロゴマーク拡大

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	朝日町

事業名	森と緑を大切に思う人づくり事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
ままごと棚製作	台	1.00	40,000	40,000	三重県産木材
消費税	式	1.00	4,000	4,000	
事業費				44,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					



川越町

令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業　市町別総合評価シート

１．基礎情報

市町名	川越町	三重県
人口（人）	15,283	1,782,190
年少人口割合（%）＊1	14.3%	12.4%
森林面積(ha)	0	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	0	348,833.49
森林率(%)	0.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	0.3	10.1



＊１：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊２：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊３：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

２．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分１	対策区分２	対策区分３	対策区分４	対策区分５	基金積立
1	4	総合センター机・椅子等整備事業	5,298,315	5,253,000				5,253,000		5,298,315
2	4	総合体育館荷物置き棚及び案内掲示板整備事業	224,290	224,000				224,000		224,290
3	4	中央公民館木製司会台等整備事業	346,390	346,000				346,000		346,390
計			5,868,995	5,823,000	0	0	0	5,823,000	0	5,868,995

３．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量（ha・m）	事業費（円）	内交付金充当額（円）	事業概要
流域防災機能強化対策事業	0.0	0	0	
森林再生力強化対策事業	0.0	0	0	
災害からライフラインを守る事前伐採事業	0.0	0	0	

４．事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	当町には森林がないため、直接的事業ではなく、木との触れ合いを通じて、木について学ぶきっかけや、森林や木材への理解や関心を深めると共に、木の温もり、肌触りや香りを身近に感じてもらう公共施設等の木質化を重点に推進する。 令和２年度においては、「対策区分3.森を育む人づくり」として、自然教室を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響により中止となったため、令和3年度以降は、まん延状況を見ながら、感染予防対策を講じたうえで事業を継続したい。
事業実施により得られた効果	県産材を使用することにより、三重県の森林や木材への関心を深めてもらい木の温もり、肌触りや香りを身近に身近に感じてもらことができ、木材利用に対する理解や関心が深まった。
情報発信への取組	当町のホームページ、広報（「広報かわごえ」）や行政番組（「情報満載！かわごえ」）を利用して「みえ森と緑の県民税市町交付金」について情報提供を行いました。

（参考資料）

令和2年度森林環境譲与税事業の実績

事業番号	事業カテゴリー	事業費	
		（円）	内、譲与税
1	⑬ 木造公共建築物の整備等	477,000	992,000
2	⑲ 基金積立（木材利用等）	919,000	
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	1,396,000	992,000

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4.森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	川越町

番号	事　業　名				
1	総合センター机・椅子等整備事業				
事　業　費	5,298,315　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			5,253,000	0	45,315

1. 事業の目的

総合センターに木製品を整備し、利用者の町民の方に木のぬくもり等の良さを感じてもらい、木について学ぶきっかけをつくり、森林や木材についての理解を深める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

総合センター施設内で利用する机や椅子などを整備する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

川越町

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

１箇所（総合センター施設内）

【事業量】

木製ロビーベンチ3人掛け(背有・肘掛有)　W1800xD610xH800mm(SH420)　3台
木製ロビーベンチ3人掛け(背有・肘掛無)　W1800xD610xH800mm(SH420)　1台
木製ロビーベンチ2人掛け(背有・肘掛無)　W1200xD610xH800mm(SH420)　1台
木製ロビーベンチ2人掛け(背無・肘掛無)　W1200xD500xH450mm(SH450)　6台
木製テーブル　W1200xD600xH460mm　1台、木製ウォールポケット　W700xD50xH400mm　1台
木製片面書架　W430xD320xH1400mm　2台、木製片面書架　W1960xD450xH1100mm　1台
木製片面書架　W1700xD240xH740mm　1台、木製パンフレットスタンド　W855xD400xH1600mm　1台
木製パーティションスタンドポール　φ40×H900mm　2台
木製ホール催し用掲示板 W1750xD40xH1200mm 1台、木製サインスタンド W500xD500xH1150mm 1台
木製応対用机 W1500xD800xH700mm 1台、木製応対用椅子 W480xD495xH760mm(SH430) 4台、
積み木セット　W645×D610×H800㎜(SH420)　5個、ロビーベンチ(1人掛)　36台

【事業実施期間】

令和２年４月１３日～令和３年３月３１日

【受益者、参加者、利用者数等】

年間利用者数（いきいきセンター：30,761人・あいあいセンター：20,984人）
計（51,745人：約4,312人/月）

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

総合センター施設内を利用する町民に木の温もり等の良さを感じてもらい、木材利用に対する理解を深め木材の利用促進を図る。

令和２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4.森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	川越町

番号	事　業　名				
1	総合センター机・椅子等整備事業				
事　業　費	5,298,315 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,253,000	0	45,315

【事業実施により得られた効果】

県産材を使用することにより、木の温もりや木の肌触りや香りを身近に感じることができ、木材利用に対する理解が深まった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

実施個所は町が管理する施設であり、今後も引き続き町が管理します。

令和2年度は、町主催のふれあい祭りにてブースを出して、木製キットを利用し子供たちに森林木育活動を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止となったため、令和3年度以降は、感染予防対策を講じたうえで事業を継続したい。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

「椅子や掲示板が木質化されて、コンクリートで囲まれた施設内で以前までの金属製の冷たさが木製品により温もり感があり手触りもやさしく非常に良い。」などの声がありました。

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

町による契約（物件、その他）

【実施方法の選定理由】

町が管理する施設であるため、町が発注を行った。

【契約方法と落札率または補助率等】

指名競争入札にて執行。契約書（物件、その他）の締結。

【契約相手方の選定理由】

県内登録業者から県民税の契約実績のある業者を選定して指名競争入札にて実施。

【事業費の積算根拠】

契約実績のある業者から見積もりを徴収して単価を設定し積算を行った。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

年間利用者数（いきいきセンター：30,761人・あいあいセンター：20,984人）計（51,745人：約4,312人/月）

【公的関与の必要性】

公共施設であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

公共施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。

令和２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4.森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	川越町

番号	事　業　名				
1	総合センター机・椅子等整備事業				
事　業　費	5,298,315　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			5,253,000	0	45,315

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	町民
パネル展示	実施後	みえ森と緑の県民税を活用した取組として、役場町民ホールにてパネル展示する。
広報誌掲載	実施後	町民（2021年4月号掲載）
TV（行政チャンネル等）	実施後	行政番組「情報満載！かわごえ」第453回放送（「『みえ森と緑の県民税市町交付金』による　町内施設への備品設置」。）
ロゴマーク掲示（ｼｰﾙ・ﾌﾟﾚｰﾄ等）	実施中・後	購入設置した備品本体にロゴマークプレートを表示板を設置。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

特になし。

対策区分	森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	川越町

事業名	総合センター机・椅子等整備事業

7. 写真



写真1
木製ロビーベンチ３人掛け（背有・肘掛有）納品
W1800×D610×H800mm（SH420）



写真2
木製ロビーベンチ３人掛け（背有・肘掛無）納品
W1800×D610×H800mm（SH420）



写真3
総合センター内（いきいきセンター）利用状況



写真4
総合センター内（いきいきセンター）利用状況



写真5
積み木セット納品の状況



写真6
木製おもちゃで遊ぶ様子

（評価委員会資料）

対策区分	森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	川越町

事業名	総合センター机・椅子等整備事業

7. 写真



写真7

ロゴマーク掲示（プレート）

対策区分	森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	川越町

事業名	総合センター机・椅子等整備事業

7. 写真

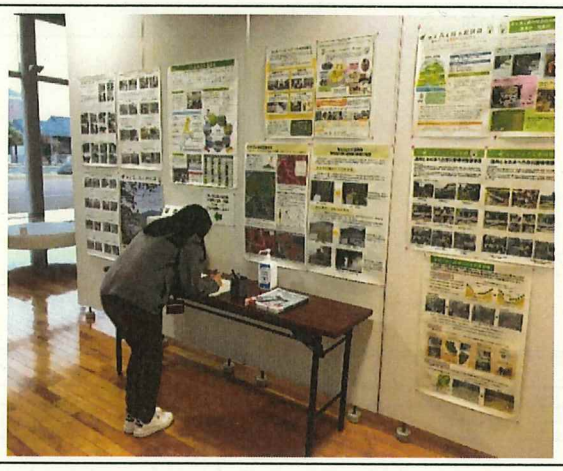


写真８
みえ森と緑の県民税パネル展示の様子

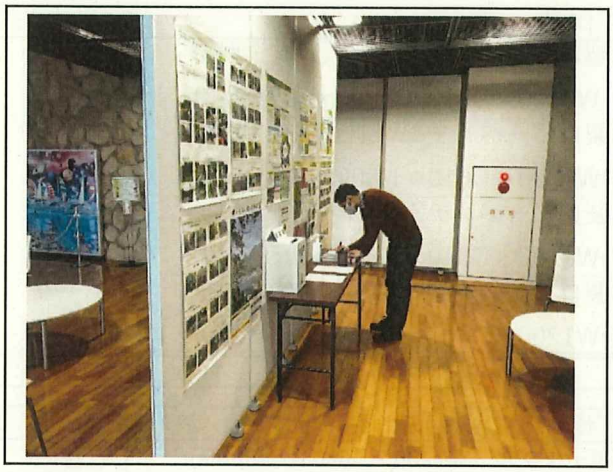


写真９
みえ森と緑の県民税パネル展示の様子

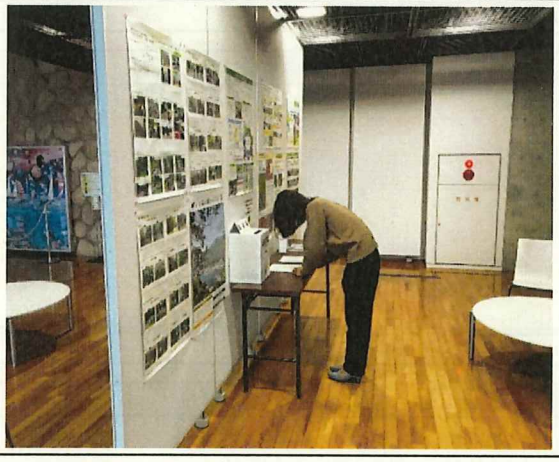


写真12
みえ森と緑の県民税パネル展示写真の様子



写真11
みえ森と緑の県民税パネル展示写真の様子

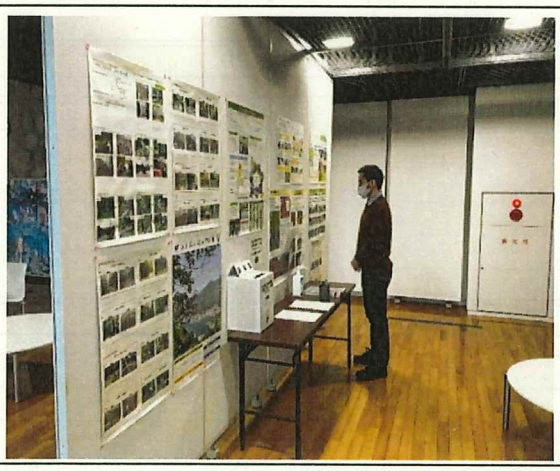


写真13
みえ森と緑の県民税パネル展示写真の様子



写真14
みえ森と緑の県民税パネル展示写真の様子

（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	川越町

事業名	総合センター机・椅子等整備事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
木製ロビーベンチ3人掛け(背有・肘掛有)W1800×D610×H800mm(SH420)	台	3.00			
木製ロビーベンチ3人掛け(背有・肘掛無)W1800×D610×H800mm(SH420)	台	1.00			
木製ロビーベンチ2人掛け(背有・肘掛有)W1200×D610×H800mm(SH420)	台	1.00			
木製ロビーベンチ2人掛け(背無・肘掛無)W1200×D500×H450mm(SH450)	台	6.00			

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
木製テーブル	W1200×D600×H460mm	台	1.00			
木製ウォールポケット	W700×D50×H400mm	台	1.00			
木製片面書架	W430×D320×H1400mm	台	2.00			
木製片面書架	W1960×D450×H1100mm	台	1.00			

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
木製片面書架	W1700×D240×H740mm	台	1.00			
木製パンフレットスタンド	W855×D400×H1600mm	台	1.00			
木製パーティションスタンドポール	φ40×H900mm	台	2.00			
木製ホール催し用掲示板	W1750×D40×H1200mm	台	1.00			

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
木製サインスタンド	W500×D500×H1150mm	台	1.00			
木製応対用机	W1500×D800×H700mm	台	1.00			
木製応対用椅子	W480×D495×H760mm(SH430)	台	4.00			
木製ロビーベンチ1人掛け(背有・肘掛無)W645×D610×H800mm(SH420)		台	36.00			
事業費　小計					4,771,200	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
積み木セット	W645×D610×H800mm(SH420)	台	1.00	45,450	45,450	
消費税相当額		式	1.00		481,665	
事業費　小計					5,298,315	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
合計						
	計				5,298,315	

令和２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4.森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	川越町

番号	事　業　名				
2	総合体育館荷物置き棚及び案内掲示板整備事業				
事　業　費	224,290　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			224,000	0	290

1. 事業の目的

総合体育館に木製品を整備し、利用者の町民の方に木のぬくもりや香りの良さを感じさせ、運動等のあとで心のゆとりを与え、森林や木材についての理解を深める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

総合体育館の施設内で利用する荷物置棚や椅子、案内掲示板などを整備する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

川越町

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

１箇所（総合体育館施設内）

【事業量】

・木製荷物置き棚　W1460×D475×H1450　１台

・木製案内掲示板　W1800×D40×H900　１台

【事業実施期間】

令和２年４月13日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

年間利用者数（総合体育館：12,500人：約1,041人/月）

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

総合体育館に木製品を整備し、利用者の町民の方へ木のぬくもりや香りの良さを感じてもらい、運動等のあとで心のゆとりを感じてもらい、森林や木材についての理解を深め木材の利用促進を図る。

【事業実施により得られた効果】

県産材を使用することにより、木の温もりや木の肌触りや香りを身近に感じることができ、木材利用に対する理解が深まった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

実施個所は町が管理する施設であり、今後も引き続き町が管理します。

令和2年度は、木製備品を導入した総合体育館で森林木育活動を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止となったため、令和3年度以降は、感染予防対策を講じたうえで事業を継続したい。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

「イスや掲示板が木質化されて、運動後に木の温もりや木の肌触りや香りを身近に感じ、金属製の椅子より癒し感がありとても良い。」などの声がありました。

令和２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4.森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	川越町

番号	事　業　名				
2	総合体育館荷物置き棚及び案内掲示板整備事業				
事　業　費	224,290　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			224,000	0	290

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

町による契約（物件、その他）

【実施方法の選定理由】

町が管理する施設であるため、町が発注を行った。

【契約方法と落札率または補助率等】

指名競争入札にて執行。契約書（物件、その他）の締結。

【契約相手方の選定理由】

県内登録業者から県民税の契約実績のある業者を選定して指名競争入札にて実施。

【事業費の積算根拠】

契約実績のある業者から見積もりを徴収して単価を設定し積算を行った。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

年間利用者数（総合体育館：12,500人：約1,041人/月）

【公的関与の必要性】

公共施設であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

公共施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	町民
パネル展示	実施後	みえ森と緑の県民税を活用した取組として、役場町民ホールにてパネル展示する。
広報誌掲載	実施後	町民（2021年4月号掲載）
TV（行政チャンネル等）	実施後	行政番組「情報満載！かわごえ」第453回放送（「『みえ森と緑の県民税市町交付金』による　町内施設への備品設置」。）
ロゴマーク掲示（ｼｰﾙ・ﾌﾟﾚｰﾄ等）	実施中・後	購入設置した備品本体にロゴマークプレートを表示板を設置。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

特になし。

対策区分	森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	川越町

事業名	総合体育館荷物置き棚及び案内掲示板整備事業

7. 写真

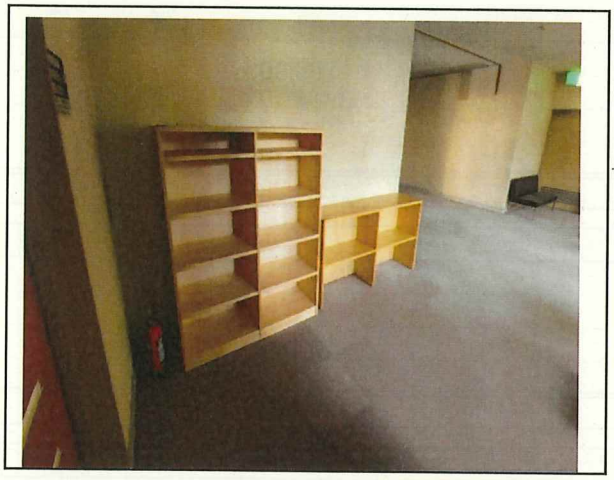


写真1
木製荷物置き棚納品
（W1460×D475×H1450mm）

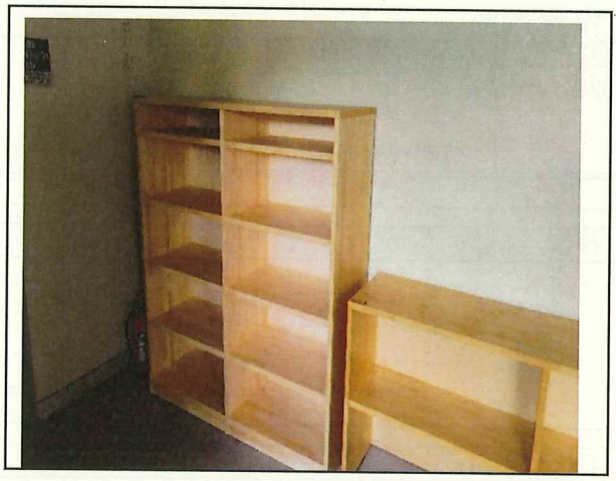


写真2
木製荷物置き棚納品
（W1460×D475×H1450）



写真3
木製案内掲示板の利用状況
（W1800×D40×H900mm）

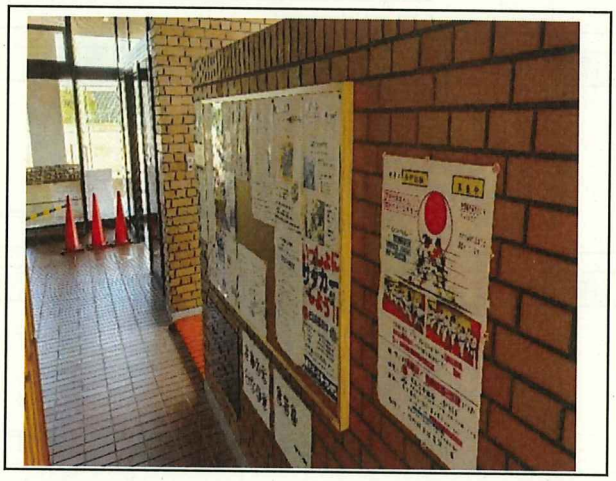


写真4
木製案内掲示板の利用状況
（W1800×D40×H900mm）



写真5
ロゴマーク掲示（プレート）



写真6
ロゴマーク掲示（プレート）

（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	川越町

事業名	総合体育館荷物置き棚及び案内掲示板整備事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
木製荷物置き棚 W1460×D475×H1450㎜	台	1.00		203,900	
木製案内掲示板	台	1.00			
消費税相当額	式	1.00		20,390	
事業費				224,290	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
合計						
	計				224,290	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4.森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	川越町

番号	事　業　名				
3	中央公民館木製司会台等整備事業				
事　業　費	346,390 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			346,000	0	390

1. 事業の目的

中央公民館に木製品を整備し、利用者の町民の方に木のぬくもりや香りの良さを感じさせ、会議や講演会等で使用時に心の安らぎを与え、森林や木材についての理解を深める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

中央公民館の施設内で利用する司会台、演台や花台を整備する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

川越町

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

１箇所（中央公民館施設内）

【事業量】

・木製司会台 W700×D450×H1000mm　１台
・木製演台 W1260×D710×H1050　１台
・木製花台 W510×D510×H600　１台

【事業実施期間】

令和２年４月13日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

年間利用者数（中央公民館：7,389人：約615人/月）

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

中央公民館に木製品を整備し、利用者の町民の方に木のぬくもりや香りの良さを感じてもらい、会議や講演会等で使用するときに目から心の安らぎを感じてもらい、森林や木材についての理解を深め木材の利用促進を図る。

【事業実施により得られた効果】

県産材を使用することにより、木の温もりや木の肌触りや香りを身近に感じることができ、木材利用に対する理解が深まった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

実施個所は町が管理する施設であり、今後も引き続き町が管理します。
令和2年度は、木製備品を導入した中央公民館で森林木育活動を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止となったため、令和3年度以降は、感染予防対策を講じたうえで事業を継続したい。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

「司会台、演台や花台が木質化されたことにより、会議や講演会等で目から心の安らぎを感じてもらい、森林や木材についての理解を深め木材の利用促進を図る。部屋が明るくなり利用が感じが変わった。」などの声がありました。

令和２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4.森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	川越町

番号	事　業　名				
3	中央公民館木製司会台等整備事業				
事　業　費	346,390　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			346,000	0	390

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

町による契約（物件、その他）

【実施方法の選定理由】

町が管理する施設であるため、町が発注を行った。

【契約方法と落札率または補助率等】

指名競争入札にて執行。契約書（物件、その他）の締結。

【契約相手方の選定理由】

県内登録業者から県民税の契約実績のある業者を選定して指名競争入札にて実施。

【事業費の積算根拠】

契約実績のある業者から見積もりを徴収して単価を設定し積算を行った。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

年間利用者数（中央公民館：7,389人：約615人/月）

【公的関与の必要性】

公共施設であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

公共施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	町民
パネル展示	実施後	みえ森と緑の県民税を活用した取組として、役場町民ホールにてパネル展示する。
広報誌掲載	実施後	町民（2021年4月号掲載）
TV（行政チャンネル等）	実施後	行政番組「情報満載！かわごえ」第453回放送（「『みえ森と緑の県民税市町交付金』による　町内施設への備品設置」。）
ロゴマーク掲示(シール・プレート等)	実施中・後	購入設置した備品本体にロゴマークプレートを表示板を設置。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

特になし。

対策区分	森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	川越町

事業名	中央公民館木製司会台等整備事業

7. 写真



写真1
木製司会台納品（W700×D450×H1000mm）

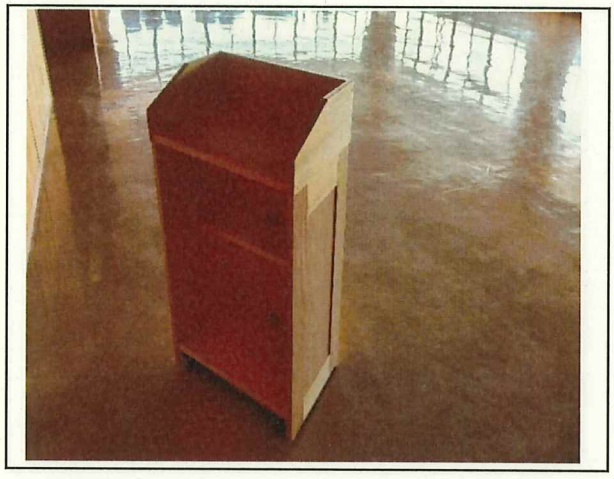


写真2
木製司会台納品（W700×D450×H1000mm）



写真3
木製演台納品（W1260×D710×H1050mm）



写真4
木製演台納品（W1260×D710×H1050mm）

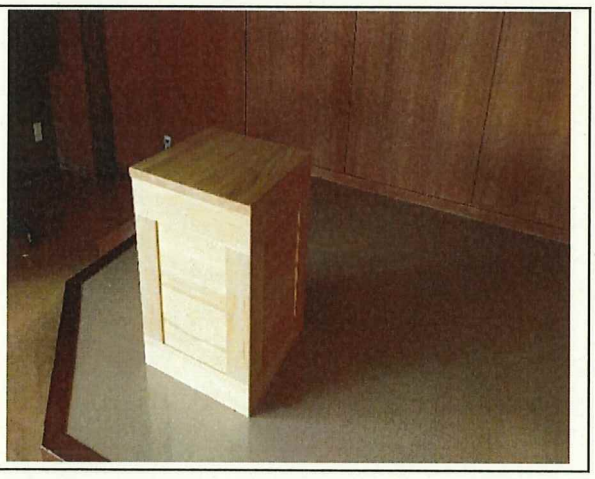


写真5
木製花台納品（W510×D510×H600mm）

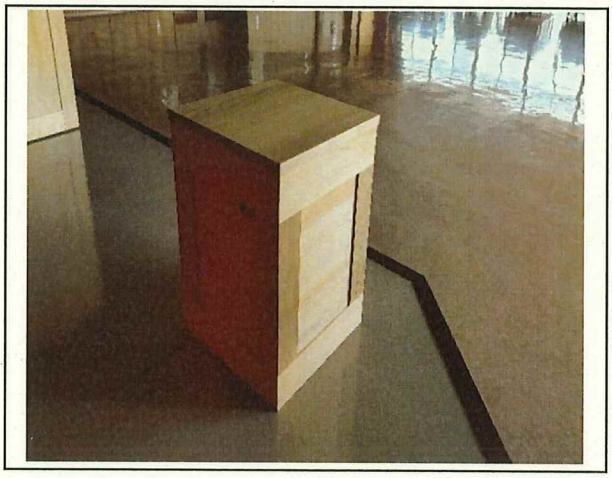


写真6
木製花台納品（W510×D510×H600mm）

（評価委員会資料）

対策区分	森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	川越町

事業名	中央公民館木製司会台等整備事業

7. 写真



写真７
ロゴマーク掲示（プレート）



写真８
ロゴマーク掲示（プレート）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	川越町

事業名	中央公民館木製司会台等整備事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
木製司会台 W700×D450×H1000㎜	台	1.00		314,900	
木製演台 W1260×D710×H1050㎜	台	1.00			
木製花台 W510×D510×H600㎜	台	1.00			
消費税相当額	式	1.00		31,490	
事業費				346,390	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
合計						
	計				346,390	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					